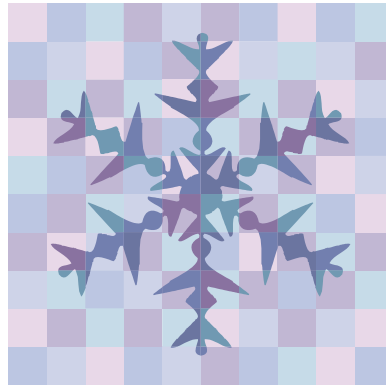


令和7年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書



令和8年3月

田村市教育委員会

## はじめに

教育委員会は、学校教育、生涯学習、芸術文化、文化財保護、スポーツ振興など多方面にわたる施策を通じて、地域における学びや文化の基盤を支える重要な役割を担っております。本市の総合計画に基づき、「夢を実現する力を育てる学校教育の充実」「市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実」「快適で安全な教育環境の整備・充実」という三つの基本施策の下、学校教育課、生涯学習課、中央公民館、教育総務課が一体となって教育振興推進プログラムを推進してまいりました。

令和7年度は、児童生徒の学ぶ意欲を高め、個々の能力を最大限に引き出す環境づくりを進めるため、「東大10人構想」を柱とした各種事業を積極的に展開しました。授業改善に向けた学校支援を強化するとともに、教育委員会主催の「たむらチャレンジ塾」や「T2（Tamura Tankyu）プロジェクト」「東大へ行こう」などの取り組みを通じて、児童生徒の学習意欲と学びの質の向上につなげることができました。加えて、教員の指導力向上を目指した短期派遣研修や各種研修会の成果が現れ、生き生きとした学びの場が増えていることを実感しております。

生涯学習分野では、従来の生涯学習課の取り組みに加え、中央公民館を新たに設置して公民館の役割と機能を明確化し、講座編成や地域ニーズへの対応力を高めました。市民大学「たまり」等の事業が昨年度以上に充実し、多くの市民の学びと交流の場を提供できたことをたいへん心強く思っております。

このたび、令和7年度の事業実施を踏まえ、内部評価および外部評価を実施して点検評価報告書を取りまとめました。本報告書は、教育委員会の事業内容や成果、課題を広くご理解いただくための資料であるとともに、職員にとって業務の意義を再確認し改善を進める重要な契機でもあります。報告書に示された評価やご意見を今後の施策改善に生かし、一人でも多くの市民が郷土の発展を実感できるよう、引き続き努力してまいります。

結びに、本報告書をお読みいただき、ご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月

田村市教育委員会教育長 箭内良一

## 目 次

I	目的、実施方針	1
II	施策の実施内容	3
1	夢を実現する力を育てる学校教育の充実 (学校教育課所管教育振興推進プログラム)	4
	基本目標①：確かな学力を育成します	5
	施策1 子どもの夢がかなう学力支援	
	施策2 保幼小中一貫教育の推進	
	施策3 英語が使える人材育成	
	施策4 ICT教育推進	
	基本目標②：規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します	18
	施策1 道徳教育の充実	
	施策2 読書活動の推進	
	施策3 体力・運動能力の向上	
	施策4 現代的諸課題の解決	
	基本目標③：個に応じた教育を推進します	27
	施策1 特別支援教育の充実	
	施策2 実効ある生徒指導の推進	
	施策3 小学校キャリア教育推進	
	基本目標④：地域と共にある学校教育を実現します	34
	施策1 開かれた学校づくり	
	施策2 コミュニティ・スクール制度の充実	
	施策3 地域と連携したキャリア教育の充実	
	施策4 特色ある教育に向けた家庭・地域との連携充実	
	基本目標⑤：教職員の資質向上を図ります	36
	施策1 教職員の指導力向上	
	施策2 教職員服務倫理の確立と働き方改革の推進	

2	市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実 (生涯学習課・中央公民館所管教育振興推進プログラム) . . . . .	38
	基本目標①：青少年の健全育成を図ります . . . . .	39
	施策1 青少年健全育成の体制充実及び活動支援	
	施策2 小中学生の健全育成事業	
	基本目標②：生涯学習の充実を図ります . . . . .	39
	施策1 リカレント教育（学びなおし）の充実	
	施策2 生涯学習拠点の充実	
	基本目標③：地域に遺された文化財の保存と継承を図ります . . . . .	40
	施策1 文化財の保存と継承	
	施策2 文化施設の整備と充実	
	施策3 文化財の調査と活用	
	施策4 デジタル文化資源の活用	
	基本目標④：図書館利用促進を図ります . . . . .	41
	施策1 図書館の機能充実	
	施策2 田村市子ども読書活動推進計画	
	基本目標⑤：生涯・競技スポーツの振興を図ります . . . . .	42
	施策1 中学校部活動支援	
	施策2 競技スポーツの振興	
	基本目標⑥：幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します . . . . .	42
	施策1 スポーツ・レクリエーション大会の推進	
	施策2 スポーツ・レクリエーション施設の活用	
	施策3 指導体制の充実	
	基本目標⑦：公民館学習講座を開設します . . . . .	43
	施策1 講座の充実	
	基本目標⑧：地域人材・資源を活用した活動を支援します . . . . .	44
	施策1 地域学校協働活動の推進	
	施策2 放課後子ども教室の推進	
	基本目標⑨：多様な芸術文化活動を支援します . . . . .	45
	施策1 芸術文化活動の推進	
	施策2 文化センターの利用促進	

3 快適で安全な教育環境の整備・充実	
	(教育総務課所管教育振興推進プログラム)・・・ 46
基本目標①：教育環境の充実を図ります・・・・・・・・・・・・・・・・	47
施策1 児童生徒の通学支援	
施策2 未来を担うたむらの子応援事業の推進	
施策3 人材育成の推進	
基本目標②：教職員の健康管理・相談体制を整備します・・・・・・・・	49
施策1 教職員の心身の健康管理支援	
施策2 学校からの相談体制の充実	
基本目標③：教育施設的环境整備に努めます・・・・・・・・・・・・・・・・	50
施策1 学校施設長寿命化対策事業の推進	
施策2 施設設備の安全管理と通学路の点検	
基本目標④：教育委員会の活性化を図ります・・・・・・・・・・・・・・・・	51
施策1 開かれた教育委員会	
施策2 教育委員会施策の評価と公表	
施策3 教育アドバイザーによる実施事業支援	
基本目標⑤：学校規模・配置の適正化を推進します・・・・・・・・	53
施策1 学校規模・配置の適正化	
施策2 地域に根差した特色ある学校支援	

Ⅲ 実施事業の内部評価・外部評価	55
1 夢を実現する力を育てる学校教育の充実	56
2 市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実	72
3 快適で安全な教育環境の整備・充実	78
Ⅳ 結びに	83

# I 目的、実施方針

## 1 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、田村市教育委員会の事務事業に関する管理及び執行状況について、教育に関する学識経験者の知見を活用して点検及び評価を行い、報告書を作成して議会に提出するとともに公表する。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 実施方針

- (1) 田村市教育大綱に示された事務事業について点検・評価結果をまとめて報告書を作成する。
- (2) 田村市教育委員会外部評価委員会設置要綱に基づき、教育に関する学識経験者3名に外部評価委員を委嘱し、田村市教育委員会外部評価委員会を設置する。（以下、外部評価委員会という）
- (3) 外部評価委員会は、田村市教育委員会が行う事務事業についての点検及び評価（内部評価）について、意見を述べ、評価を行う。（外部評価）
- (4) 外部評価を踏まえて報告書を作成し、議会に提出するとともにホームページに掲載することにより市民に公表する。

## Ⅱ 施策の実施内容

### ① 確かな学力を育成します

#### (1) 子どもの夢がかなう学力支援 **重点3**

##### ◎東大10人構想

- ◇全国トップクラスの学力の育成
  - ・授業推進員(Class Co-worker Teacher) CCT 配置
  - ・主体的・対話的で深い学びの実現 (「田村市版ミニマム授業スタイル」配付)
  - ・田村市共通テストの実施
  - ・たむらチャレンジ塾開校 (国語・算数)
  - ・オータムマスマティクスキャンプ
  - ・ウインターチャレンジキャンプ (算数)
- ◇難関大学挑戦等の夢や希望の実現支援
  - ・東大見学・体験学習 (東大で学ぼう)
  - ・県教委事業参加奨励 (算数数学ジュニアオリンピック・科学の甲子園ジュニア)
  - ・数検及び漢検3級以上検定料補助

#### (2) 保幼小中一貫教育の推進 **重点9**

- ◇保幼小中一貫教育の推進
  - ・小中連携を生かした小学校専科指導
  - ・5-4制小中一貫カリキュラムの充実
  - ・「スタートカリキュラム」の実践
  - ・「はぐくみステップ」の実践
  - ・架け橋期カリキュラムの作成・完成

#### (3) 英語が使える人材育成 **重点1**

- ◇児童生徒の英会話力向上
  - ・ALTを活用した外国語授業の充実
  - ・セブ島での語学集中研修
  - ・サマーイングリッシュキャンプ
  - ・ウインターチャレンジキャンプ (英語)
  - ・たむらチャレンジ塾開校 (英語)
  - ・たむらっ子の英会話力向上の支援 (English School Bus、英検3級以上検定料補助、ALTとの園児交流)

#### (4) ICT教育推進 **重点2**

- ◇タブレット等ICT活用授業の充実
- ・ICT支援員派遣 ・メクビットの活用

### ② 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します

#### (1) 道徳教育の充実

- ◇「特別の教科 道徳」授業の充実
  - ・道徳教育推進委員会の活性化
  - ・地域素材や人材の活用
- ◇心や行動の指針の共有・実践
  - ・「心の道標(みちしるべ)」の実践
  - ・「実践躬行5則」(中学生)「田村っ子のルール10」(園児・小学生)の実践
- ◇情操教育への支援
  - ・音楽グレートレッスン
  - ・日本フィルハーモニー交響楽団演奏会

#### (2) 読書活動の推進 **重点5**

- ◇読書意欲の向上
  - ・図書支援員配置による読書活動の充実
  - ・中学生ビブリオバトル大会の開催及び校内ビブリオバトル支援 (知的書評合戦)

#### (3) 体力・運動能力の向上

- ◇体力・運動能力向上策の推進
  - ・全国体力・運動能力調査の実施・分析
  - ・田村地区小学校陸上競技大会の支援
  - ・陸上グレートレッスン (小中乗り入れ授業)

#### (4) 現代的諸課題の解決

- ◇放射線・防災教育の充実
  - ・外部講師の活用
- ◇SDGsに係る指導機会の計画的実施
  - ・関連指導の確実な実施
- ◇健康教育の充実
  - ・肥満、齲蝕(うしょく)の解消と予防
  - ・給食センター栄養職員による食育の授業支援
  - ・個別的相談指導の充実
  - ・歯科及び思春期保健教室の開催

### ③ 個に応じた教育を推進します

#### (1) 特別支援教育の充実

- ◇一人一人の教育的ニーズに応じた支援
  - ・特別支援教育支援員の適切な配置
  - ・個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成
  - ・教育支援委員会の適正開催
- ◇「サポネット田村」運営の充実
  - ・個別最適な学びづくりへの訪問・相談支援
  - ・「サポネットファイル」の活用促進
- ◇各種関係機関との連携強化
  - ・たむら支援学校との連携
  - ・各種事業所との情報交換
- ◇就学前幼児への早期相談
  - ・こども未来課との情報共有
  - ・「すくすく教室」訪問
- ◇高等学校段階までの切れ目のない支援
  - ・小・中・高切れ目のない個別的教育支援

#### (2) 実効ある生徒指導の推進

- ◇学校生活への基盤づくり支援
  - ・Q-U検査の活用・訪問支援
- ◇不登校の未然防止と支援 **重点4**
  - ・まごころ教室(学習・適応支援教室)を活用した不登校対応
  - ・心の教室相談員の配置、相談活動の拡充
  - ・SC、SSW派遣事業の活用
  - ・段階的生徒指導訪問支援 (関係機関の連携強化)
- ◇いじめの未然防止と支援
  - ・いじめ定期調査の実施
  - ・いじめの早期解決支援

#### (3) 小学校キャリア教育の充実

- ◇小学校キャリア教育の具体的計画推進
  - ・県立中学校の資料収集と指導支援
  - ・小学校段階の進路指導・キャリア教育 (ウインターチャレンジキャンプ)

### ④ 地域と共にある学校教育を実現します **基本**

#### (1) 開かれた学校づくり

- ◇教育活動の積極的な公開
  - ・学校便りやホームページの活用及び授業公開
- ◇学校評価による学校運営の充実
  - ・学校自己評価の公開 ・学校関係者評価の公開

#### (2) コミュニティ・スクール制度の充実

- ◇学校運営協議会の充実 (年間計画・熟議等)
  - ・学校運営協議会委員の研修
  - ・学校運営協議会の協議内容の共有の場の設定

#### (3) 地域と連携したキャリア教育の充実

- ◇郷土に貢献できる人材育成
  - ・こども議会 ・中学生T2プロジェクト
- ◇総合的な学習の時間による地域学習
  - ・地域素材による地域理解
  - ・地域人材活用によるキャリア教育

#### (4) 特色ある教育に向けた家庭・地域との連携充実

- ◇地域ボランティアの積極的活用
  - ・地域学校協働本部事業との連携
  - ・学習支援ボランティアの活用
- ◇危機管理情報伝達体制の活用
  - ・緊急時「eメッセージ」メール配信システム活用
  - ・情報セキュリティポリシーの遵守

### ⑤ 教職員の資質向上を図ります

#### (1) 教職員の指導力向上

- ◇教育力向上のための教員研修体制の充実
  - ・田村市学力向上ラウンドテーブルの開催
  - ・教員短期派遣研修、専門研修派遣事業の推進
  - ・教育講演会の開催 (学力調査官等招聘)
  - ・計画及び要請訪問の実施
- ◇学力向上推進会議の充実
  - ・学校教育指導委員による授業研究 (教科調査官等招聘)
  - ・田村市共通テストの作成と分析及び改善策提案
- ◇専門研修の充実
  - ・不登校・いじめ問題対策研修会
  - ・特別支援教育担当者会 ・保幼小中教諭等研修会
  - ・ICT教育研修会 (文科省GIGAスクール推進課招聘)
  - ・常勤講師研修会

#### (2) 教職員服務倫理の確立と働き方改革の推進

- ◇不祥事根絶
  - ・校内相談体制の充実 ・服務倫理対策委員会の充実
- ◇勤務の適正化
  - ・部活動の在り方検討委員会の継続開催
  - ・部活動地域展開合同練習会の開催 (10回程度)
  - ・校務支援ソフトの効果的活用
  - ・勤務実態の把握と勤務適正化への指導・助言

## 1 夢を実現する力を育てる学校教育の充実（学校教育課所管）

基本目標①：確かな学力を育成します

施策1 「子どもの夢がかなう学力支援」への取組み

ア 東大10人構想～全国トップクラスの学力の育成～

イ 東大10人構想～難関大学挑戦等の夢や希望の実現支援～

### ○ 授業推進員（Class Co-worker Teacher）CCT 配置

⇒（14人配置）

教員と授業推進員とが役割分担し、担任や教科担当が主として授業を担い、理解に時間がかかっている児童生徒に対して手厚く支援し、授業推進員は理解の早い児童生徒に発展的な問題を提供などの支援をすることで、学級の全ての児童生徒の学びを向上させた。

### ○ 主体的・対話的で深い学びの実現（ミニマム授業スタイルの作成・配付）

⇒校長会議・教頭研修会を通して各学校に浸透するよう指示するとともに、各校の授業研究会（自主公開、指導員授業、要請訪問等）において指導主事が積極的に助言した。

### ○ 田村市共通テストの実施

⇒学力向上推進委員が算数・数学の系統性について確認しながら小学5年生用・中学2年生用それぞれの問題を作成し、第1回を10月に第2回を1月に実施した。その結果を分析して児童生徒の課題を明確にし、授業改善に努めた。

### ○ たむらチャレンジ塾開校（国語、算数、英語）

⇒（1回目19人、2回目25人、3回目40人、4回目25人、5回目17人）のべ126人参加  
・3回目(7/30)には、全国でも高名な元筑波大学附属小学校副校長 細水保宏氏に算数の授業を行っていただいた。参加した市内小学5・6年生40名が生き生きと学習し、学ぶ楽しさを味わった。市内23名の教員も参加して授業の進め方を学んだ。

### ○ オータムマスマティクスキャンプ（算数・数学に浸る）

⇒（市内児童生徒21人〔小学生15人、中学生6人〕参加）

・算数・数学の難問に個人やグループで取り組み、算数・数学への関心を高めた。

### ○ ウィンターチャレンジキャンプ

⇒（1回目15人、2回目18人）のべ33人参加

・希望する小学5・6年生を対象に2回開催した。難易度の高い問題に集中して取り組み、学力の底上げを図った。

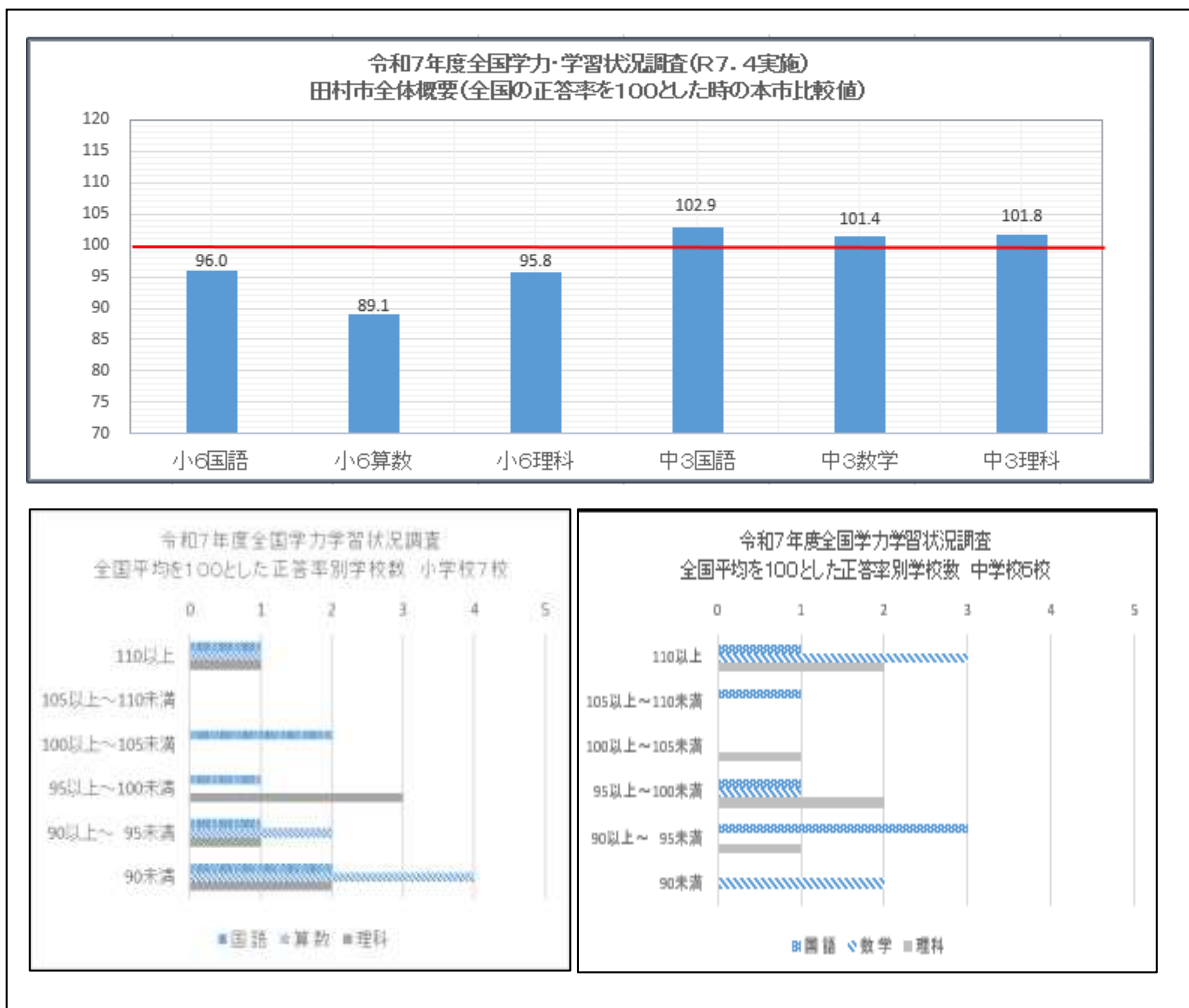
### ○ 東大見学・体験学習（東大で学ぼう）12/7(土)実施

⇒こども議会の議長・副議長、算数・数学ジュニアオリンピックメダリスト、ビブリオバトル優勝者、たむらチャレンジ塾全5回参加者、科学の甲子園ジュニア参加者、英検・数検準2級以上合格者等、小学生9名、中学生12名参加。東大教授・現役東大生の講話を聴き、将来に向けた夢や希望を膨らませ、学び続ける意欲を高めるきっかけとなった。

- 県教委事業参加奨励（算数・数学ジュニアオリンピック、科学の甲子園ジュニア）
  - ⇒10/19に開催された算数・数学ジュニアオリンピックには市内小・中学生20名参加。市教委準備バスにて送迎した。8/8に開催された科学の甲子園ジュニア福島県大会には、船引中学校から2チームが出場し、1チームが全国大会出場を果たした。
- 数検及び漢検3級以上検定料補助
  - ⇒数検1/20現在受検（3級：23人、準2級：1人）合格（3級：14人、準2級：0人）
    - ・参加者を増やし、算数・数学が得意な児童生徒を増やす。
    - ・「たむら市広報」に市民大学長からの挑戦!として数学の問題を掲載。市民の関心は高く、問い合わせ等が多数ある。
  - ⇒漢検1/20現在受検（3級：58人、準2級：22人、2級：3人）合格（3級：30人、準2級：10人、2級：0人）今年度から補助を漢検にも拡充した。

<指標・考察>「全国学力・学習状況調査」 令和7年4月17日（木）実施

- ・実施学年、教科 小学6年生、国語・算数・理科、中学3年生、国語・数学・理科
- ・目標 令和8年度までに全教科で1位の都道府県を上回る。



○ 考察

- ・4/17 実施の全国学力・学習状況調査は、国語、算数、数学、小学校理科がペーパーベースで、中学校理科、質問調査がタブレット端末によるC B Tで実施された。

<小学校>

- ・平均正答率比較では、3教科とも全国と県平均を下回る結果となった。
- ・国語は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」で全国の上回った。一方、「話すこと・聞くこと」で「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」に課題が見られた。
- ・算数は、「図形」で「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」や「測定」「変化と関係」「データの活用」で「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」で課題が見られた。
- ・理科は「『地球』を柱とする領域」で概ね全国平均で、特に「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる」で全国の上回った。一方、「『エネルギー』を柱とする領域」で「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる」で課題が見られた。

<中学校>

- ・3教科とも全国と県平均を上回る結果となった。
- ・国語は、全ての領域の問題で全国の上回った。特に「書くこと」の「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」で全国平均を大きく上回った。
- ・数学は、「数と式」で「素数の意味を理解しているかどうかをみる」で全国の上回った。一方、「図形」で「多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる」に課題が見られた。
- ・理科はI R Tを用いての実施となり、「『生命』を柱とする領域」で「スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる」で全国の上回った。一方、「『エネルギー』を柱とする領域」で「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる」に課題が見られた。
- ・学力向上には、児童生徒にどのような資質・能力を育ませるのかを明確化した上で、問題発見・解決過程を自ら遂行できるように、主体的・対話的で深い学びの授業実現が重要である。今回の結果を受けて、教員の授業研究会や田村市独自の共通テストの作成、授業推進員を配置した得意伸長型の授業の実現、児童生徒の算数・数学や英語の力を伸ばすための、たむらチャレンジ塾、オータムマスマティクスキャンプ等を実施し、教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を加速させていく。
- ・令和8年度には中学校英語でタブレット端末を用いた全国学力・学習状況調査が実施され、令和9年度には完全実施の予定であることから、教員がタブレット端末を有効に活用し、児童生徒が慣れ親しみながら学力向上を図ることができるよう様々な政策を展開していく。

<指標・考察> 「ふくしま学力調査」 令和7年4月23日～5月9日

- ・実施学年、教科 小学4・5・6年生、国語・算数、中学1・2年生、国語・数学
- ・目標 令和8年度までに全児童生徒が学力を伸ばす。

・同集団の過去の学力と今年度の学力を比較し、その変化をグラフで表したものを。

	国語	算数・数学
小学5年		
小学6年		
中学1年		
中学2年		

○ 考察

- ・小学校の学力の伸びについて、小学校国語は、現小学5・6年生ともに最上位の児童が属するレベルで昨年度から「3」増加し、学力上位層の児童に焦点を当てた授業展開が充実してきていると推測される。一方、上位から25%に位置する児童と中央に位置する児童も学力の伸びが「1」であることから個別最適な学びの充実は喫緊の課題である。
- ・小学校算数は、現小学5・6年生ともに最上位の児童が属するレベルで昨年度から「3」増加し、学力上位層の児童に焦点を当てた授業展開が充実してきていると推測される。また、最下位層の児童が属するレベルを現小学5・6年生ともに「3」伸ばしている。
- ・学力を伸ばした児童の割合は、小学校国語は、「5年生は、福島県66.9%、田村市68.7%」「6年生は、福島県56.4%、田村市58.8%」小学校算数は、「5年生は、福島県69.5%、田村市67.9%」「6年生は、福島県72.3%、田村市76.5%」であった。

- ・ 今後は、最上位及び上位から 25%に位置する児童の学力を重点的に伸ばす授業、そして、一人ひとりに応じて学習内容の定着を図るために、授業推進員と連携し、個別最適な学びの充実を図る工夫が必要であると考えます。
- ・ 小学 4 年生の国語で県平均を超えた学校は 3 校、算数は 4 校
- ・ 小学 5 年生の国語で県平均を超えた学校は 2 校、算数は 4 校
- ・ 小学 6 年生の国語で県平均を超えた学校は 3 校、算数は 4 校
- ・ 学力最上位層の生徒は、考え方・学び方を身に付け学力を伸ばしていると推測される。一方、学力最下位層にも丁寧な指導により学力の伸びが見られるが、中間層の生徒が学びを深めることができず伸び悩んでいると推測されるため、対話的な学びの質を高め、一人ひとりの学力を向上させる授業づくりが急務である。
- ・ 学力を伸ばした生徒の割合は、中学校国語は、「1 年生は、福島県 59.7%、田村市 55.5%」「2 年生は、福島県 48.6%、田村市 57.1%」中学校数学は、「1 年生は、福島県 63.2%、田村市 60.9%」「2 年生は、福島県 71.7%、田村市 67.3%」であった。
- ・ 中学 1 年生の国語で県平均を超えた学校は 5 校、数学は 5 校
- ・ 中学 2 年生の国語で県平均を超えた学校は 2 校、数学は 2 校

<指標・考察> 「田村市標準学力調査」 令和7年12月8日～12月19日

- ・実施学年、教科 小学1～6年生、国語・算数、中学1・2年生、国語・数学・英語
- ・目標 令和8年度までに全ての学年で全教科、全国平均を上回る。

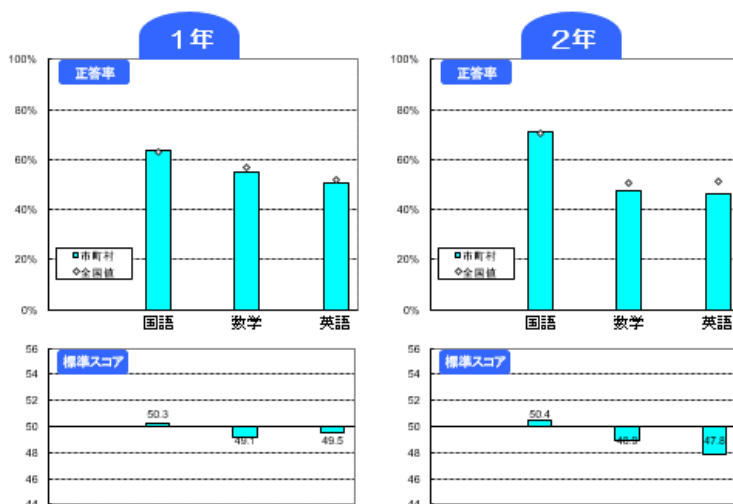
○考察

<全国平均正答率との比較>

【小学校】



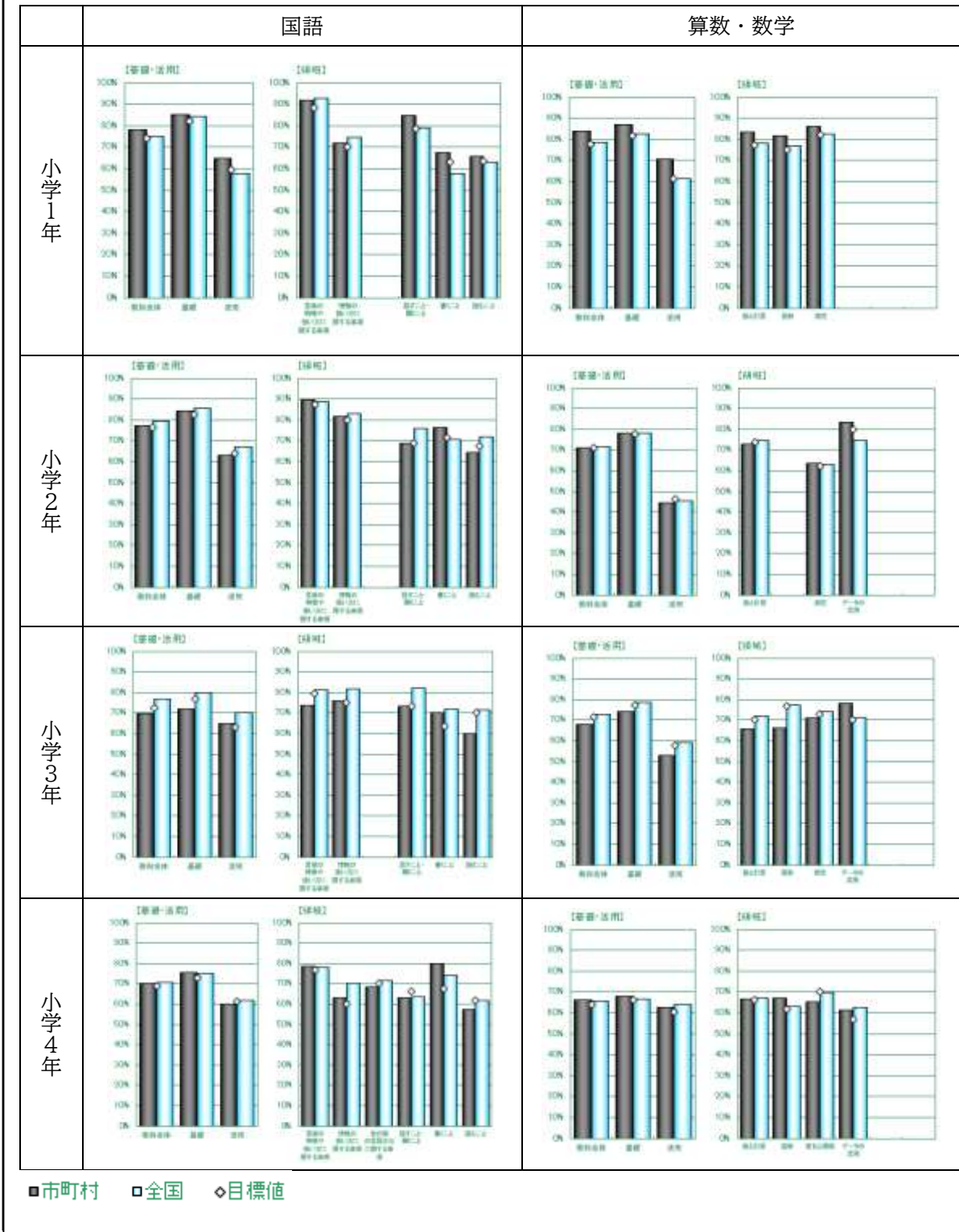
【中学校】



- ・小学校国語は、2・4年生が概ね全国平均であり、1・5年生が全国平均をやや上回った。算数は、2年生が概ね全国平均であり、1・4・5年生が全国平均をやや上回った。
- ・中学校国語は、1・2年生が概ね全国平均であり、数学・英語は、1・2年生共に全国平均を下回った。

<「基礎力」と「活用力」の育成状況及び領域別の分析>

【小学校】



・基礎的学力について

- ⇒小学校国語は、4年生が概ね全国平均であり、1・5年生が全国平均をやや上回った。一方、2年生が全国平均をやや下回り、3・6年生が大きく下回った。
- ⇒小学校算数は、2年生が概ね全国平均であり、4年生が全国平均をやや上回り、1・5年生が上回った。一方、3、6年生が全国平均を下回った。
- ⇒中学校国語は、1・2年生共に概ね全国平均であった。
- ⇒中学校数学は、1・2年生共に全国平均を下回った。
- ⇒中学校英語は、1年生が全国平均を下回り、2年生は大きく下回った。

・活用力について

- ⇒小学校国語は、5年生が全国平均を上回り、1年生が大きく上回った。一方で、4年生が全国平均をやや下回り、2年生が下回り、3・6年生が大きく下回った。
- ⇒小学校算数は、1・5年生で全国平均を大きく上回った。一方で、2・4年生は全国平均をやや下回り、3・6年生は大きく下回った。
- ⇒中学校国語は、1年生が全国平均をやや上回り、2年生が上回った。
- ⇒中学校数学は、1年生が全国平均を上回り、2年生が全国平均を下回った。
- ⇒中学校英語は、1年生が全国平均を上回り、2年生が全国平均を下回った。

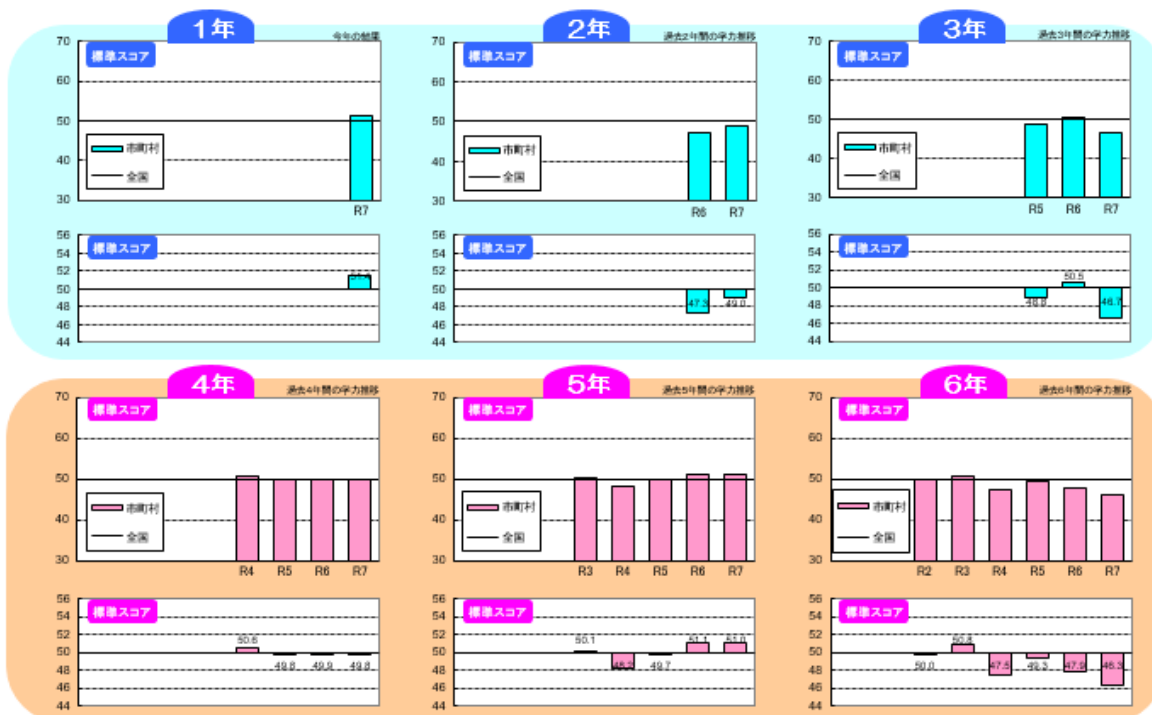
・領域別等分析について

領域ごとに全国平均正答率や目標値（学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの）と比較した結果は以下の通りである。

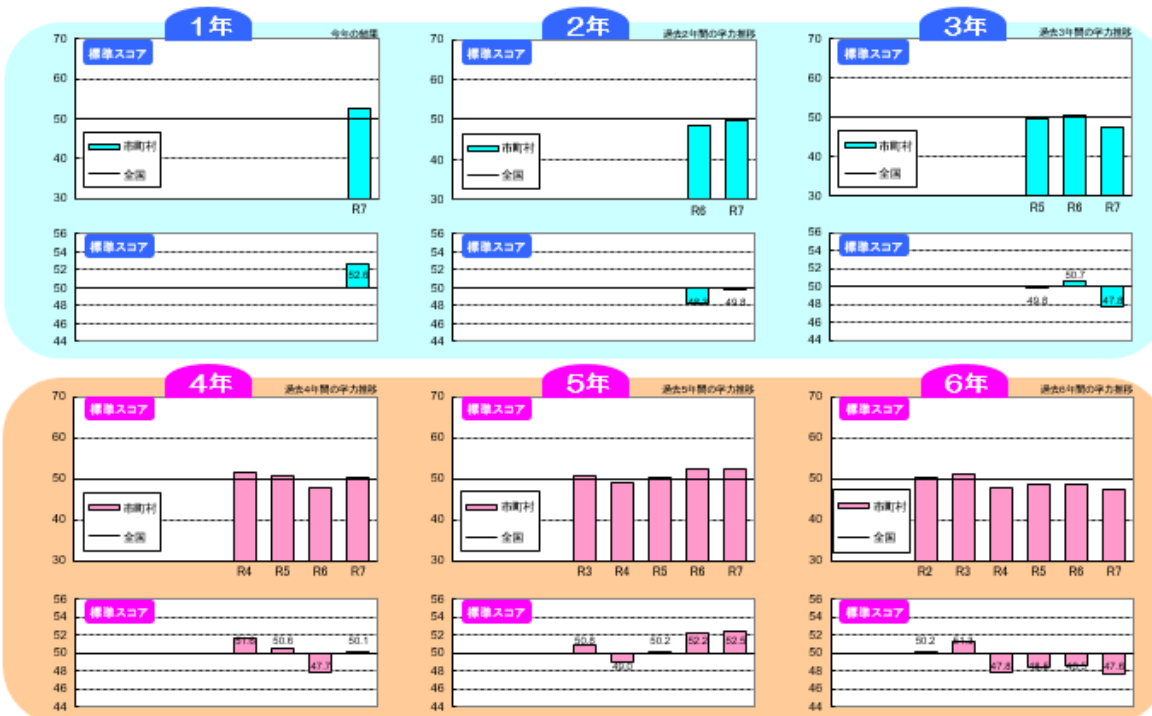
- ⇒小学校国語は、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題が見られる学年が多く、算数は、「数と計算」「変化と関係」「図形」に課題が見られた。
- ⇒中学校国語は、1・2年生共に「書くこと」で全国平均を大きく上回った。一方、「我が国の言語文化に関する事項」で課題が見られた。数学は、中学1年生が「図形」で概ね全国平均だった。一方で、「数と式」で課題が見られた。2年生が「数と式」「関数」で課題が見られた。英語は、中学1年生が特に「読むこと」に課題が見られ、2年生が、3つの領域全てで課題が見られた。

<各学年の経年変化>

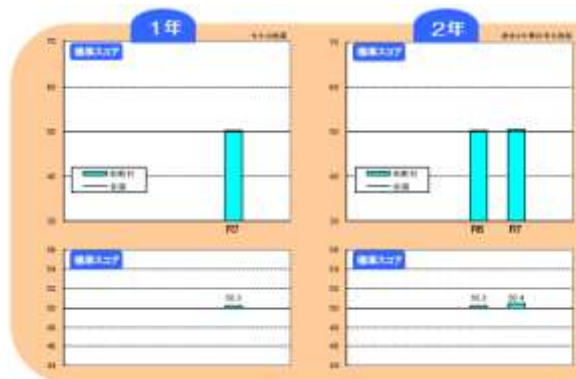
【小学校国語】



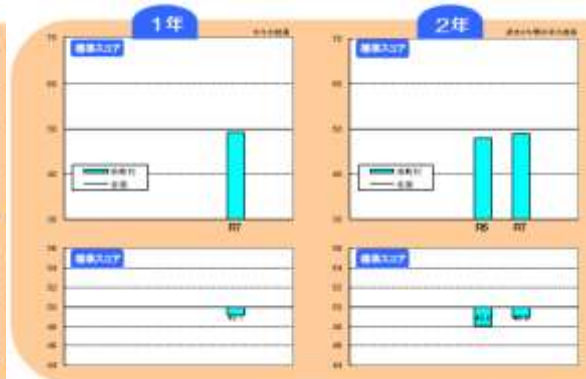
【小学校算数】



【中学校国語】



【中学校数学】



【中学校英語】



- ・小学2年生から6年生、中学2年生の経年変化（昨年度との比較）を見ると、小学校では、国語は2年生で昨年度より伸びが見られた。算数は2・4・5年生で昨年度より伸びが見られた。
- ・中学校では、3教科全てにおいて昨年度より伸びが見られたが、英語は課題が見られた。

## 施策2 「保幼小中一貫教育の推進」への取組み

### ア 保幼小中一貫教育の推進

- 小中連携を生かした小学校専科指導（通年）  
⇒小中連携を積極的に進め、小学校と中学校の教員が互いに他校種の授業が行えるよう環境整備を進めるとともに、授業支援をした。
- 5-4制小中一貫カリキュラムの推進（通年）  
⇒各中学校区内に組織されている幼小連携・小中一貫教育推進委員会の組織を生かし、各学校とも5-4制小中一貫カリキュラムを可能な限り取り入れて教育課程を編成した。各学校の実態に応じて教科担任制を取り入れている。特に常葉小・中学校並びに船引南小・中学校では、小学校6年生が中学校へ移動して中学校教員の指導を受けたり部活動に参加したりしている。
- 「スタートカリキュラム」の実践、「はぐくみステップ」の活用、架け橋期カリキュラムの作成（通年）  
⇒保育園・幼稚園・こども園では小学校入学までに身に付けさせたい資質・能力から幼児の姿を明らかにした「はぐくみステップ」を活用して、家庭と連携した保育に当たっている。また、小学校入学後の生活が円滑にできるように、小学校では保育園・幼稚園とのつながりを考慮して主に4月の授業の中でスタートカリキュラムを実施した。  
⇒県指定「架け橋期の学びをつなぐモデル地区実践研究」として、中通り地区実践公開2回、保幼小連携推進委員参観実践公開2回、市内実践公開1回の計5回の実践公開を行うとともに、各学校・園における実践を通して架け橋期カリキュラムの見直し・改善を行った。中学校区における校種間の連携や情報共有がスムーズになり、幼児教育から小学校教育へ、子どもの学びが途切れずに連続したものとなってきている。また、保幼小中での互見授業が活性化し、私立園も含めた田村市内全ての保幼小中が一体となって教育の質向上を図っている。

施策3 「英語が使える人材育成」への取組み

ア 児童生徒の英会話力向上

○ ALT を活用した外国語授業の充実（通年）

⇒外国語・英語の授業では、ALT を効果的に活用して、児童生徒がネイティブな英語に慣れ親しむことができるようにしている。英語の授業以外においても、他教科の授業や休み時間、部活動等を通して、ALT が児童生徒と積極的に関わるように各学校に指導している。

外国語指導助手の派遣実績（単位：回）

学 校 名	派遣回数	学 校 名	派遣回数
滝根小	62	滝根中	113
大越小	67	大越中	116
都路小	52	都路中	95
常葉小	59	常葉中	207
船引南小	65	船引南中	116
船引小	289	船引中	414
美山小	60	合 計	1061
合 計	654	※ 幼稚園には年に10回程度派遣	

○ たむらチャレンジ塾開校（小学生対象英語）

⇒（1回目19人、2回目25人、3回目40人、4回目25人、5回目17人）のべ126人参加  
45分間ほぼ英語でやりとりするスタイルで、活動を通して「聞く」「話す」力を高めるとともに、英語検定の問題などにも取り組んだ。

○ ウィンターチャレンジキャンプ（小学生対象英語）

⇒（1回目15人、2回目18人）のべ33人参加  
「聞く」「書く」を中心に、難易度の高い問題に取り組み、学習意欲の向上を図った。

○ セブ島での語学集中研修（11/2～11/9）

⇒英語検定準2級取得者3名、3級取得者7名参加。一人一人の英語力に応じたマンツーマンレッスン及びグループによるオールイングリッシュの学習を経験した。その成果を11/28に市役所にて、市長及び保護者、学校及び教育委員会関係者に向けて報告した。

○ サマーイングリッシュキャンプ（7/12,13）

⇒中学生のべ36名参加。ALT や早稲田大学セカクルメンバーと英語を使ったコミュニケーション活動のプログラムを実施。

○ 田村っ子の英会話力向上の支援

⇒イングリッシュスクールバス（通年）

スクールバスに乗車している児童生徒が日常的に英語に触れる機会を設定している。

⇒英検3級以上検定料補助

1/20 現在受検（3級：49名、準2級：22名、準2級プラス2名、2級：3名）合格（3級：29名、準2級：15名）

⇒ALT との園児交流

就学前から英語に触れる機会を設けるため、市立幼稚園・こども園にALT を派遣した。ALT との交流を通して、園児が英語に親しむ姿が見られている。

<指標・考察>

- ・目標 令和8年度までに中学卒業段階で英検3級以上取得者6割を目指す。

施策4 「ICT教育推進」への取組み

ア タブレット等 ICT 活用授業

○ ICT 支援員派遣

⇒各学校において、教職員と児童生徒が効果的にタブレットを活用できるよう市内小・中学校に ICT 支援員を各校年間約 24 回派遣した。

○ メクビットの活用

⇒文部科学省が中心となり様々な問題演習が利用できるように開発された「メクビット」の活用について、各学校の実態に応じて積極的に利用することを校長会議・教頭研修会を通して働きかけた。各学校においては、児童生徒がメクビットをそれぞれ利用できるよう計画的に授業を進めている。特に中学校では、令和8年度全国学力・学習状況調査英語において実施される CBT 化（コンピュータを使って調査実施）に対応できるよう準備した。

○ キビタンシートの活用

⇒県教育委員会が導入した、小・中学校の国語、算数・数学、英語（中学校のみ）の全単元を網羅した県独自のデジタルドリル「キビタンシート」を各学校の実態に応じて積極的に利用することを校長会議・教頭研修会を通して働きかけた。各学校では、基礎・基本の定着や、ICT を活用した学びの日常化に向けて活用した。

基本目標②：規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します

施策1 「道徳教育の充実」への取組み

- ア 「特別の教科 道徳」授業の充実
- イ 心や行動の指針の共有・実践
- ウ 情操教育への支援

○ 道徳教育推進委員会の活性化、地域素材や人材の活用

⇒5/21, 11/17 道徳教育推進委員及び市内希望者を対象に、道徳教育推進委員会を開催し、船引小学校長による提案授業の授業案の検討や授業参観、研究協議を行った。モデルになる授業を通して学んだ授業改善の視点を生かして、各学校での授業実践につなげるように働きかけた。学級担任だけでなく、校内の管理職をはじめ外部の人材を活用した授業実践を積極的に進めるよう推奨した。

○ 「心の道標（みちしるべ）」の啓発、「実践躬行5則（中学生）」「田村っ子のルール10（小学生）」の実践

⇒心や行動の指針としての「心の道標」を各学校において啓発するとともに、生活の中で実践できるように継続して指導を行った。

⇒中学生には「実践躬行5則」を、小学生・園児には「田村っ子のルール10」を実践できるように継続して働きかけてきた。各学校とも校舎内各所に掲示されており、駅や公民館等公共施設にもルール10の看板を掲げ、地域住民の目に触れられるようにしている。

○ 音楽グレートレッスン、日本フィルハーモニー交響楽団演奏会

⇒市内小中学校合唱・合奏部の演奏技術向上に向け、プロの指導者・演奏家の指導を受ける機会を設けた（合唱 7/19 常葉公民館, 8/5 文化センター、合奏 5/17, 6/7, 8/20, 9/21 船中, 10/25, 11/29 船小・船中）。専門的な指導により演奏の改善点・改善方法が明確になり、技術向上につながった。6/30, 7/1 に日本フィルハーモニー楽団員6名による吹奏楽クリニックを実施し、中学生に直接指導していただいた。7/1 午後には、市内中学校3年生及び保護者・一般市民が鑑賞して、中学生とのコラボステージを含む地域ふれあいコンサートを開催した。船引中学校吹奏楽部は、マーチングコンテスト全国大会に3年連続で出場した。船引中学校合唱部も、TBC こども音楽コンクール・全日本合唱コンクールで東北大会に出場した。

## 施策2 「読書活動の推進」への取組み

### ア 読書意欲の向上

#### ○ 図書支援員配置による読書環境整備

⇒各学校に図書支援員を週1回入れるよう配置した。学校図書館の図書を整備して児童生徒の読書意欲が高まるよう工夫するとともに、図書支援員に読みたい本をリクエストし探してもらいリクエストボックスや情報センターとしての機能が活性化できるよう教職員と連携している。

#### ○ 中学生ビブリオバトル大会の開催及び校内ビブリオバトル支援（知的書評合戦）

⇒各学校においては、学校図書館の環境整備、朝の読書タイムの日課表への位置づけ、本を常に身近に置くマイブックを実践。中学校においてビブリオバトルを実施。

- ・11/29に文化センターにおいて、各中学校代表生徒7名がバトラーとなり開催。オーディエンスの投票により、チャンプ本には「老害の人」、準チャンプ本には「どこの家にも怖いものはいる」が選ばれた。

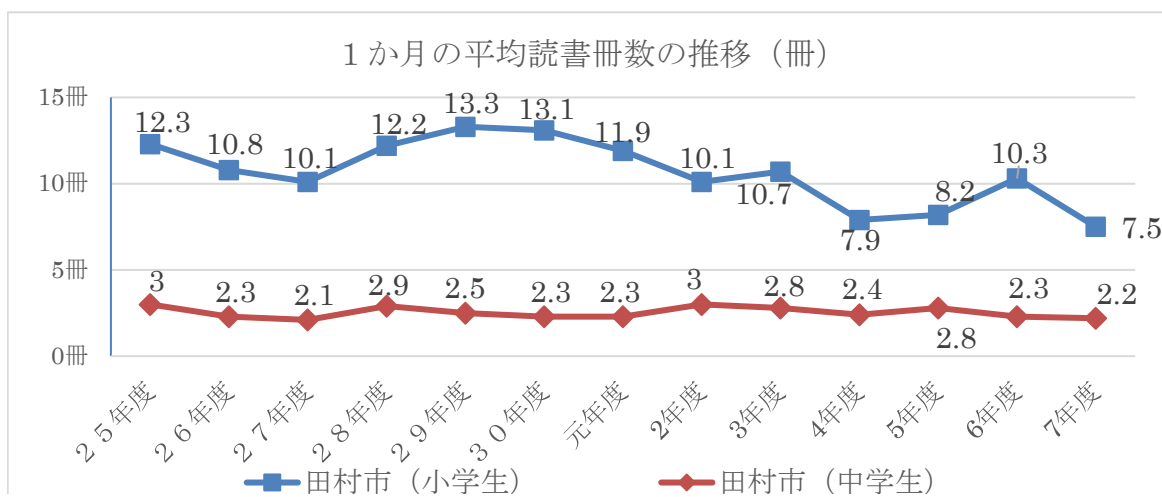
<指標・考察> 「児童生徒の1日当たりの読書量」 令和7年11月調査

- ・目標 令和8年度までに本を1ヶ月に1冊以上読んだ児童生徒の割合100%を目指す。

#### ○ 学校図書館の利用促進(貸出目標)目標値及び参考値としての令和6年度・令和7年度読書に関する調査結果(11月調査)

項目		目標値 (令和2年度～)	参考数値(1か月の読書冊数)	
			令和7年11月	令和6年11月
学校図書館の 利用促進(貸 出目標)	小学校低学年	年40冊以上/人	9.3冊/人	15.4冊/人
	小学校中学年	年30冊以上/人	8.5冊/人	11.2冊/人
	小学校高学年	年20冊以上/人	5.3冊/人	5.4冊/人
	中学生	年10冊以上/人	2.2冊/人	2.3冊/人

#### ○ 読書に関する調査結果経年変化



○ 考察

- ・本を1ヶ月に読んだ冊数は、小学校7.5冊（R6：10.3冊）、中学校2.2冊（R6：2.3冊）と、小・中学校ともに減少している。減少した理由は、小・中学校ともに、朝の時間を読書だけでなく、基礎学力向上の時間に充てたことが考えられる。また、本を1ヶ月に1冊以上読んだ児童生徒の割合は、小学校98.8%（R6：98.5%）、中学校91.0%（R6：94.0%）であった。「第五次福島県子ども読書活動推進計画」では、「子どもが読書に親しむ機会の充実のために」における数値目標の1つとして、令和11年度までに「本を1ヶ月に1冊以上読んだ児童生徒の割合」を100%に設定している。
- ・各学校において朝の読書や親子読書、家庭読書の日、校内ビブリオバトル等の実践により、本を読む機会を意図的に設定し、読書習慣の形成を推進している。
- ・学校図書支援スタッフを有効活用し、各学校における図書室の環境整備やビブリオバトルへの支援、読み聞かせ、ブックトーク等を行っている。ビブリオバトルへの支援は、教員の負担軽減にもつながっている。今後も学校図書館の活用促進、及び読書活動の推進に向けて積極的に活用していく。
- ・今年度も校内予選を勝ち抜いた各校の代表者による田村市中学生ビブリオバトル大会を文化センターで開催した。市内中学校の代表者7名の生徒がバトラー（発表者）となり、各中学校の観戦生徒及び一般市民等がオーディエンス（観戦者）として参加した。

### 施策3 「体力・運動能力の向上」への取組み

#### ア 体力・運動能力向上策の推進

- 全国体力・運動能力調査（小学5年生・中学2年生対象）の実施・分析、田村地区小学校陸上競技大会の支援、陸上グレートレッスン

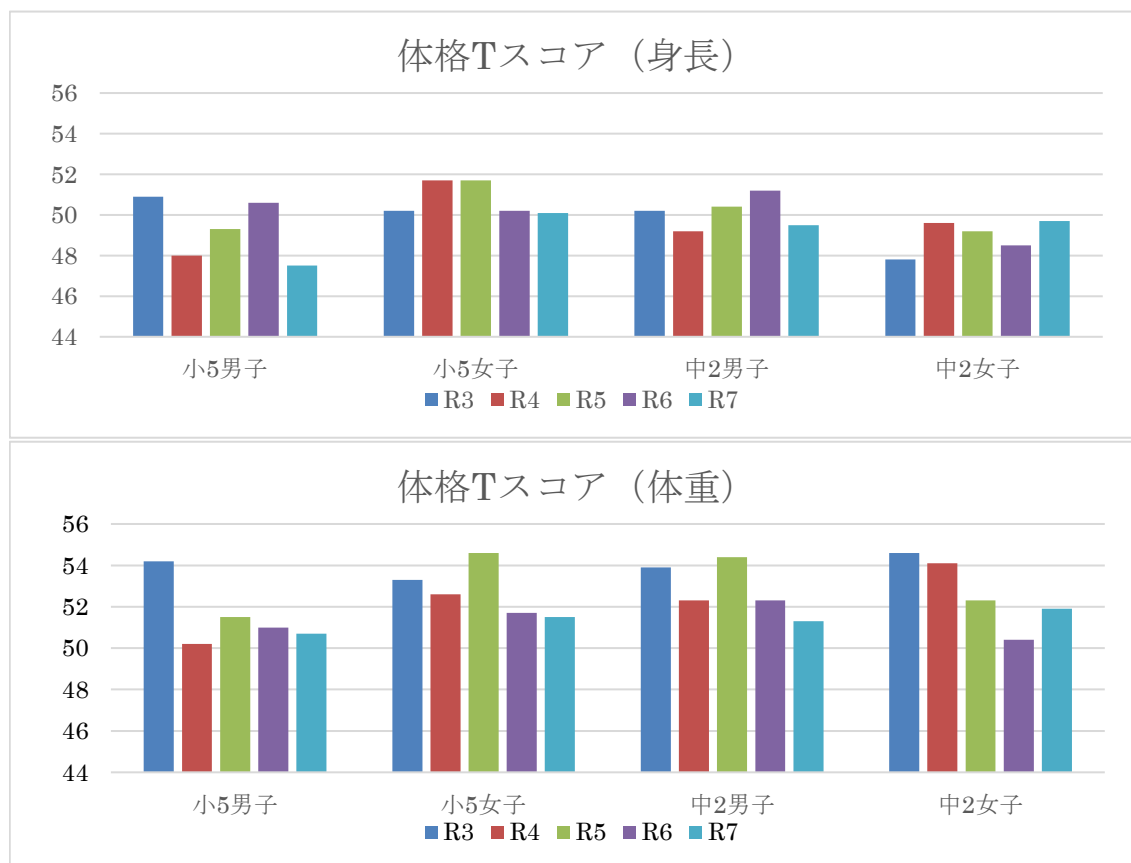
⇒令和6年度の体力・運動能力調査の結果を学校ごとに分析し、各学校の児童生徒の実態に応じた体力向上プログラムを作成・実践した。小学校では、体育の授業における運動身体づくりプログラムを積極的に取り入れている。また、地区陸上競技大会や校内マラソン大会などの行事やそれに向けた練習を通して、児童生徒の意欲や練習の量・質を高め、体力向上を図った。中学校においても、年間を通して保健体育の授業のほか、部活動の指導を効果的に行うことで体力向上を図ってきた。船引中学校駅伝部は、福島県初の県大会男女ダブル優勝を果たし、滋賀県開催の全国大会では女子が7位入賞し、男子も14位となった。また、船引中学校女子バスケットボール部が県大会2位となり、東北大会に出場した。小中連携の取組みの一つとして、船引中学校駅伝部の練習の様子を、船引小学校の校庭で児童に披露することで、児童の体力向上への意欲を高めた。

#### <指標・考察> 「令和7年度全国体力・運動能力調査」

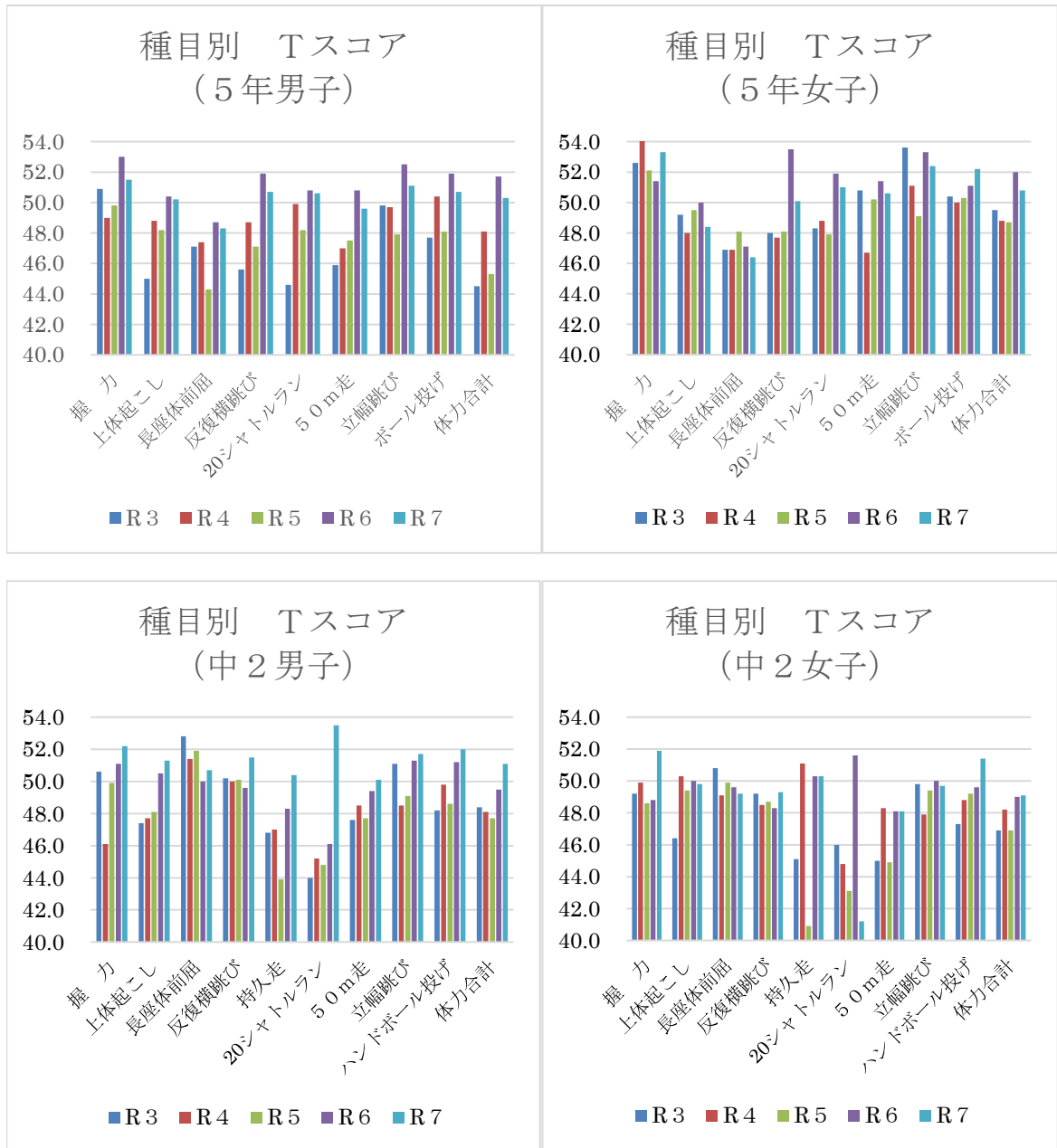
- ・目標 令和8年度までに、全ての種目において、全国平均を上回る。

- 全国体力・運動能力調査における田村市の状況（全国平均値=50）

##### (1) 体格面



(2) 運動能力面



○ 考察

- ・運動能力面については、小学5年男子は、長座体前屈・50m走以外の全ての種目で全国平均を上回った。小学5年女子は、上体起こし・長座体前屈以外の全ての種目で全国平均を上回った。中学2年男子は、50m走が全国平均とほぼ同じで、その他全ての種目で全国平均を上回った。中学2年女子は、握力、持久走、ハンドボール投げで全国平均を上回った。小学生は柔軟性に、中学生女子は筋力・全身持久力・疾走能力に課題が見られた。

○ 各校の体力向上推進計画の実施状況

運動身体づくりプログラムの実施（小学校）	・小学校7校 全クラスにおいて実施
業間等を利用した運動の機会の確保（小学校）	・朝（業間）マラソン ・運動タイムの実施 ・陸上競技練習の工夫
部活動の改善と特設部の活動の工夫（中学校）	・特設陸上部と駅伝部の活動時間と参加人数の確保 ・部活動でのランニングや体力（体幹）トレーニングの取組
その他の体力向上の取組	・外部講師（ダンス）の活用 ・運動の楽しさを味わわせる体育授業の工夫 ・体育の合同授業とT Tによる指導 ・体育行事での個人目標の設定と練習機会の確保 ・体力・運動能力テストでの個人結果の分析と活用 ・指導力向上のための校内研修と校外研修会への参加 ・肥満傾向改善のための食育の実践 ・自分手帳の活用

○ 考察

- ・小学校では、日課表に体力づくりの時間を設け、体育の日常化に取り組んだ。外部講師の活用や体育授業のT Tなど、効果的な指導と指導力向上の取組みが実施された。
- ・中学校では、年間を通して特設陸上部や駅伝部の練習に年間を通して取り組んだり、部活動の練習メニューを工夫したりして、学校全体の体力向上に意識して取り組んだ。
- ・中学校教員の体育科授業において小学校へ乗り入れ授業を行い、専門的な陸上技能の指導を充実させた。

○ 小学校陸上大会の参加者数

大会名	実施日	会 場	参加者数
第6回田村地区小学校陸上競技大会	9月19日(金)	田村市陸上競技場	6年生 442名 ※三春町 122名、小野町 81名、川内村 9名含む

○ 考察

- ・各校の実態に応じて練習に取り組み、体力の向上を図り、陸上を通して他校生と交流することができた。
- ・大会では、多くの児童が自己記録を更新し、自分の設定した目標を達成することができた。

施策4 「現代的諸課題の解決」への取組み

- ア 放射線・防災教育の充実
- イ SDGsに係る指導機会の確保
- ウ 健康教育の充実

○ 放射線教育の実施状況

	学校数	教科領域	内容等
小学校	7	学級活動 理科	放射線って何だろう 放射線から身を守るために 環境創造センター見学（5年生）
中学校	6	学級活動 理科	科学技術と人間、放射線と放射能、内部被曝と外部被曝、半減期と放射線量、食物と放射線、放射線の人体への影響、除染、放射線と未来 伝承館 等

○ 外部講師の活用（通年）

⇒福島県環境創造センター「コミュタンふくしま」を活用して行う学習を各小学校の5年生の教育課程に組み入れ、体験型学習を進めた。また、専門的な知識を持つ外部講師を招いて、発達段階に応じてわかりやすく学び、正しい情報を見童生徒に理解させる取組みを進めている。

○ 関連指導の確実な実施（通年）

⇒各学年の発達段階に応じ、教科との関連で指導を進めた。各学校とも、見童生徒の身近な生活に関わる環境学習を多く取り入れている。

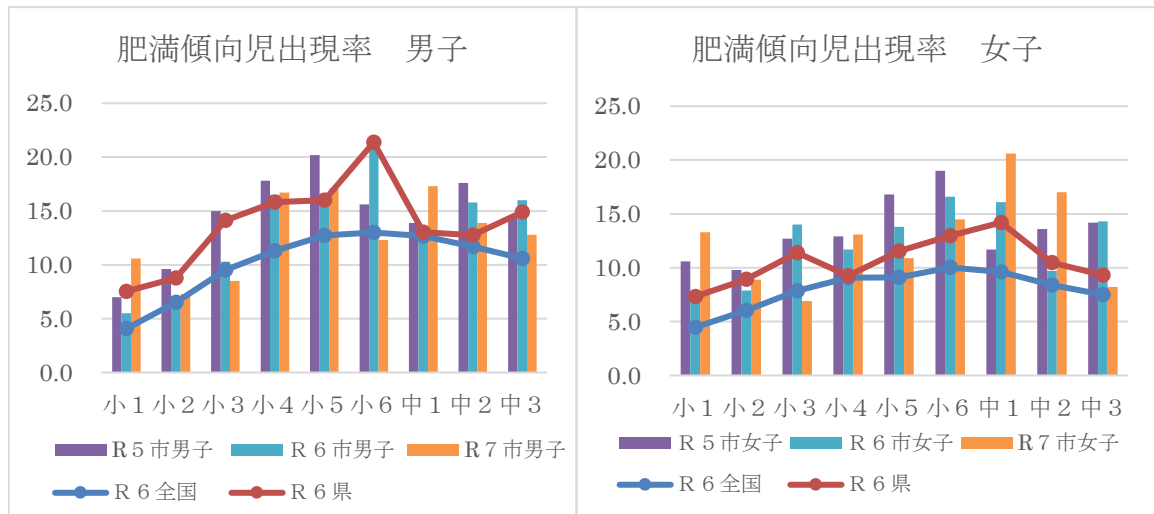
○ SDGsに係る教育活動の実施状況

⇒教育課程の年間計画の中にSDGsに係る内容を位置付け、計画的に指導している。国語科、生活科、理科、社会科、道徳科、図画工作科、音楽科などの各教科や学級活動、総合的な学習の時間の中で教科の目標と関連付けて実施している。

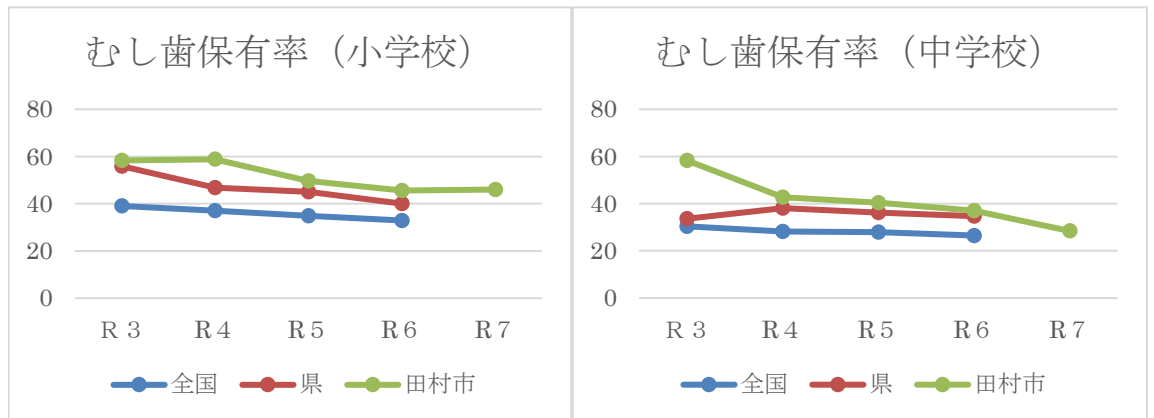
○ 肥満や齲蝕（むし歯）の解消・予防、給食センター栄養職員による食育の授業支援、個別相談指導の充実、歯科・思春期保健教室の開催（通年）

⇒健康教育については、見童生徒に自分の健康は自分で守っていくという意識を持たせられるよう、自分手帳等を活用しながら各学校で家庭と連携し進めた。特に、病気が懸念される肥満やむし歯については日常的に指導を行い、予防を習慣的に行えるよう努めている。運動量や食事の内容とも深く関わることから併せて食育にも力を入れて指導している。心の健康に関わる思春期保健教室は各学校の実態に応じて外部講師に依頼して思春期特有の身体の特徴や心の変化について取り上げて指導を行っているほか、養護教諭等による個別指導にも力を入れている。

○ 肥満傾向児の出現率



○ むし歯（う歯）保有率



○ 考察

- ・今年度の「肥満傾向児出現率」は、男子は小学1年生と中学1年生で、女子は小学1・4年生と中学1・2年生で県平均を上回った。ただし、令和6年度と比較すると、その他の学年では改善傾向が見られる。食育の面からも、望ましい食習慣、運動を含めた生活習慣の改善に向けた指導が引き続き必要である。
- ・各小中学校では、食育推進コーディネーターを中心に、毎日の給食指導を生かした食育や、養護教諭や給食センター栄養技師による「食に関する指導」などを通して、「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育成している。
- ・今年度の「むし歯（う歯）保有率」は、小学校は昨年と同程度、中学校は大きく減少した。全国や県と比較すると依然として高い結果だが、長期的な経年変化では減少傾向である。今後も歯科衛生士による歯科指導や家庭と連携したう歯治療の推進、フッ化物洗口事業（H29.1月～幼稚園・小学校、R1～中学校）を継続していく。

○ 食育に関する栄養技師の授業支援状況

(回)

	幼稚園	小学校	中学校	合計
食に関する授業		31	4	35
個別面談 (食物アレルギー)			2	2
個別指導				0
学校保健委員会		2		2
テーブルマナー会食		9		9
バイキング給食	2		6	8
給食センター見学				0
合計	2	42	12	56

○ 薬物乱用防止教室及び思春期保健教室、歯科保健教室実施状況

各種教育	内 容	実施校
薬物乱用防止教室	◇外部講師活用	小学校 7 校・中学校 6 校
思春期保健教室	◇外部講師活用	小学校 7 校・中学校 6 校
歯科保健教室	◇外部講師活用	小学校 7 校・中学校 6 校

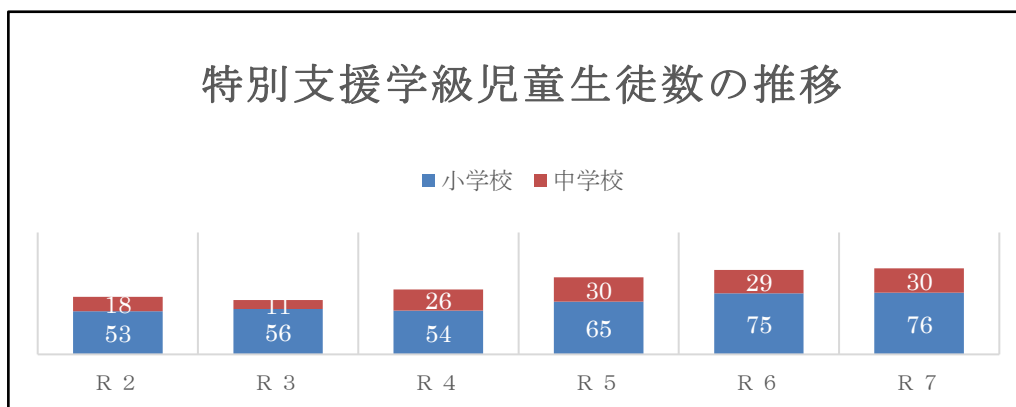
基本目標③：個に応じた教育を推進します

施策1 「特別支援教育の充実」への取り組み

- ア 一人一人の教育的ニーズに応じた支援
- イ 「サポネット田村」運営の充実
- ウ 各種関係機関との連携強化
- エ 就学前幼児への早期相談
- オ 高等学校段階までの切れ目のない支援

○ 特別支援教育支援員の適切な配置、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成、教育支援委員会の適正開催（通年）

⇒特別な支援が必要な児童生徒の支援のため、市内小・中学校 10 校に特別支援教育支援員 22 名を配置した。学校においては、支援が必要な児童生徒一人ひとりに個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、教員が支援員と連携し自立に向けてよりよい学校生活を送ることができるよう指導を継続している。なお、学校が保護者との相談を重ねて当該児童生徒にとって特別支援学級または特別支援学校での学習が最適と判断した場合には、就学指導依頼書を受けて教育支援委員会を開催して審議した。（教育支援委員会 6 回開催、計 67 名審議）



- ◇ 特別支援学校適 7 件 → 特別支援学校入学 7 件
- ◇ 特別支援学級適 45 件 → 特別支援学級入級 45 件
- ◇ 通級指導教室適 9 件 → 通級指導教室通級 9 件
- ◇ 通常学級 6 件 → 審議後通常学級 6 件

○ 個別最適な学びづくりへの訪問・相談支援、「サポネットファイル」の活用促進、たむら支援学校との連携、各種事業所との情報交換（通年）

⇒5/28 に障害のある児童生徒に関わっている関係機関（県中児童相談所、県中保健福祉事務所、市保健課、特別支援学校、学校、市教委、スクールソーシャルワーカー）の担当者同士がより良い支援について研修する「サポネット田村」を開催した。会議後には植草学園大学 佐藤慎二特命教授を講師に招いて市特別支援教育講演会を開催し、特別支援教育について学んだ。必要に応じて、市教委とスクールソーシャルワーカー、学校が連携して対応にあたった。児童生徒の関わりの記録であるサポネットファイルを情報共有のツールとして活用した。また、特別支援学校のセンター的機能を活用し、特別支援教育に係る様々な相談、訪問等による支援を受けた。

	幼稚園 (こども園)	小学校	中学校	教育委員会	合計
「相談支援」	1園 1件	1校 3件	1校 1件		3校 5件
「研修支援」					0校 0件

- こども未来課との情報共有、「すくすく教室」訪問、小・中・高切れ目のない個別の教育支援（通年）

⇒就学前幼児の早期相談に指導主事も関わり、「すくすく教室」訪問を通してこども未来課との情報共有を図った。幼児の状況に応じて、支援学級入級検討のための支援をするなど、小・中・高切れ目のない個別の教育支援を行った。

## 施策2 「実効ある生徒指導の推進」への取組み

- ア 学校生活への基盤づくり支援
- イ 不登校の未然防止と支援
- ウ いじめの未然防止と支援

- Q-U検査（学級生活満足度調査）の活用・訪問支援（通年）

⇒市内小学校3～6年生、中学校全学年の学級ごとにQ-U検査を実施した。学校生活満足群の数値は、今年度も全国平均に比べ高い結果となった。学校生活意欲についても、全国平均よりも高い。学級全体の傾向について課題のある学級には訪問して支援にあたった。

- まごころ教室（学習・適応支援教室）を活用した不登校対応、心の教室相談員の配置、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）派遣事業の活用、段階的生徒指導訪問支援（関係機関の連携強化）（通年）

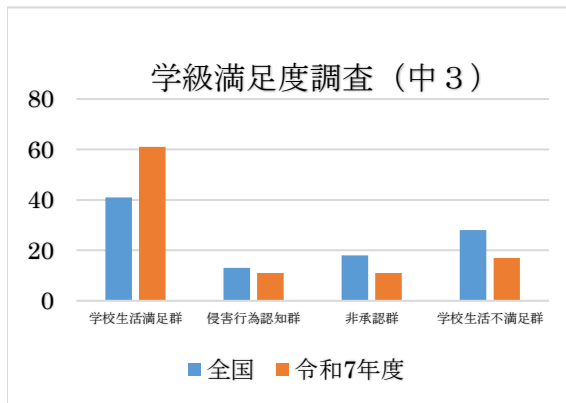
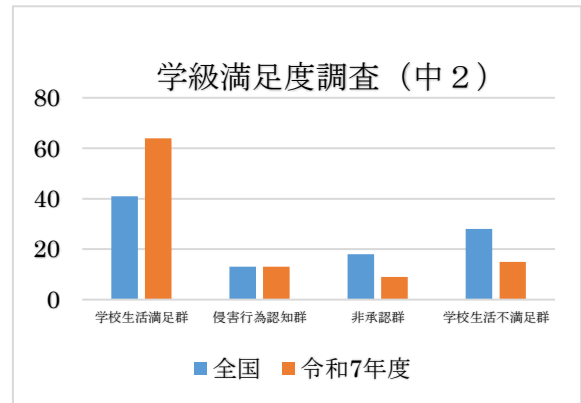
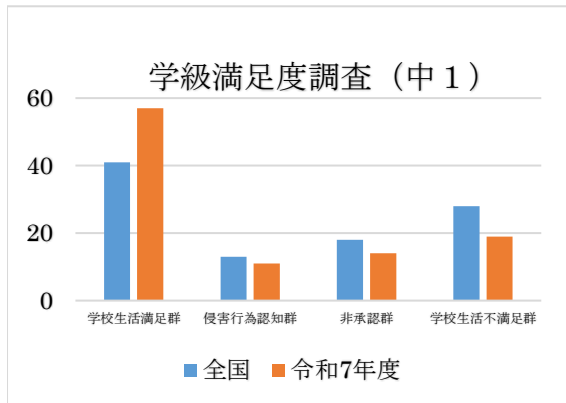
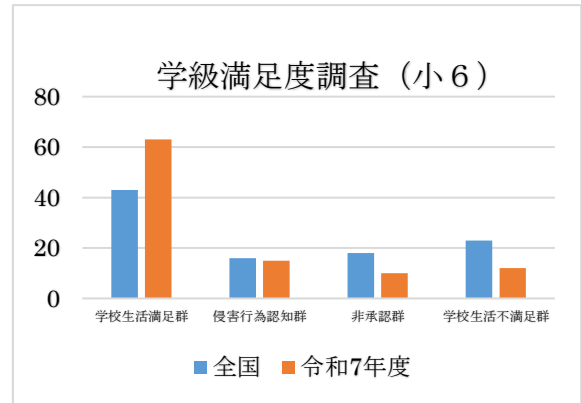
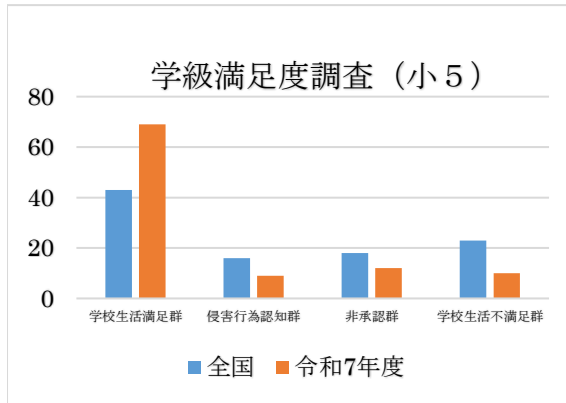
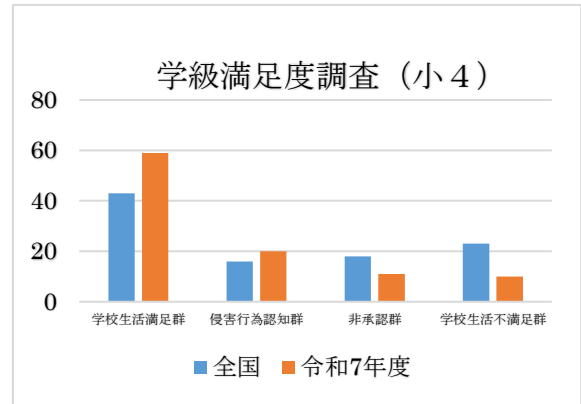
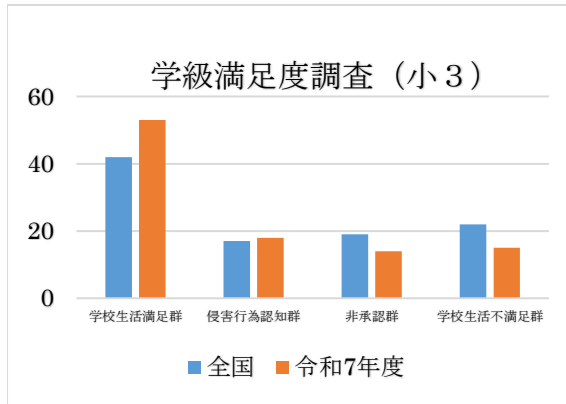
⇒不登校の未然防止として、学校の電話連絡や家庭訪問等のきめ細かな関わりを継続し、状況に応じてまごころ教室（市立図書館2階他で開室）利用を勧めるほか、家庭との連携が必要である場合にはSCやSSWが学校と共に関わりを持ち、不登校傾向の改善に向けて対応した。

- いじめの定期調査の実施、いじめの早期解決支援（通年）

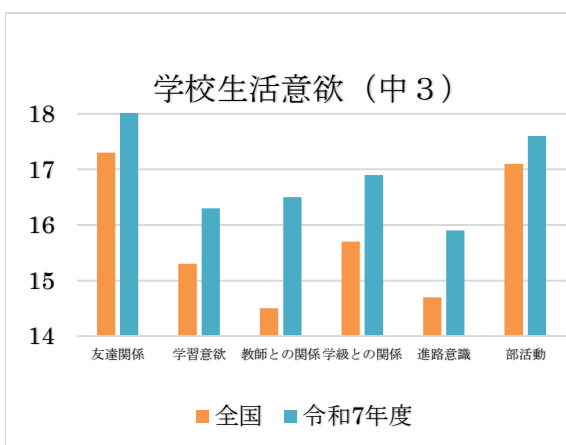
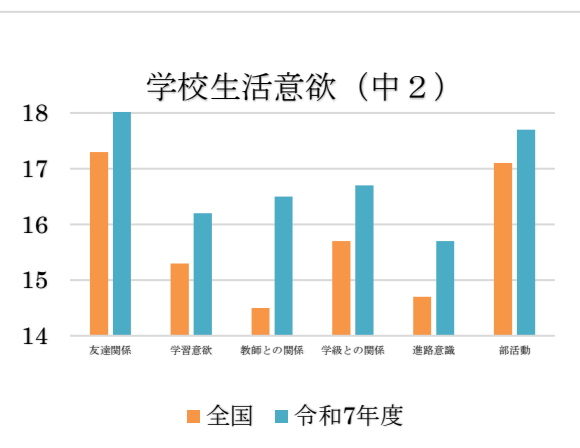
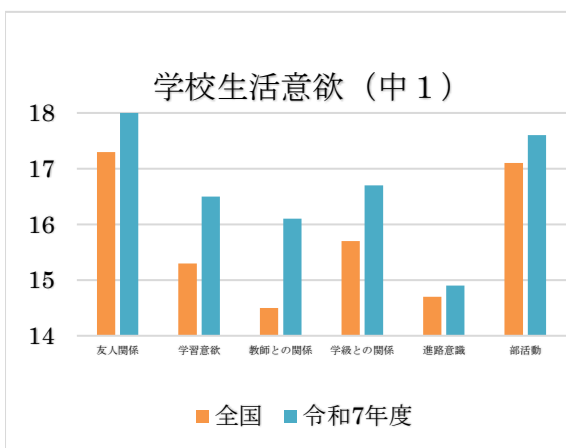
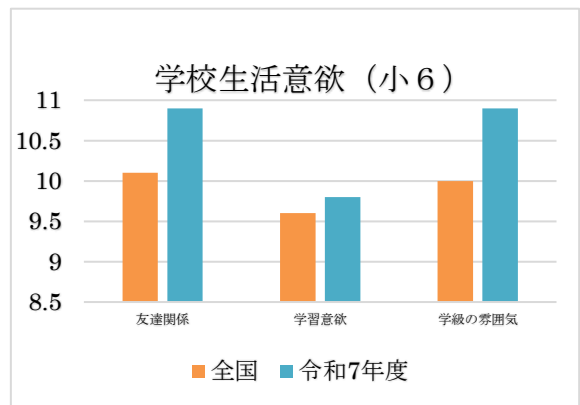
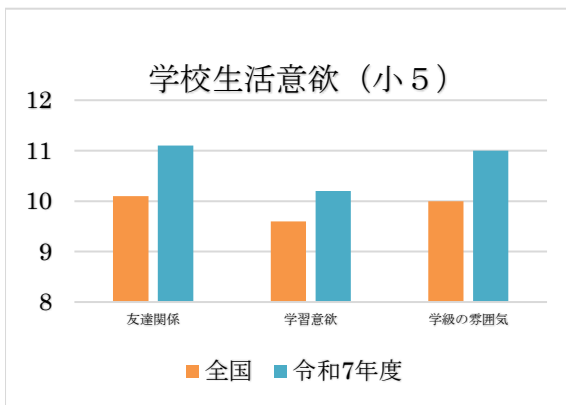
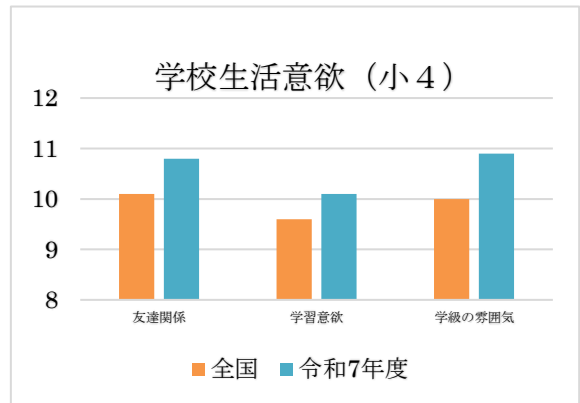
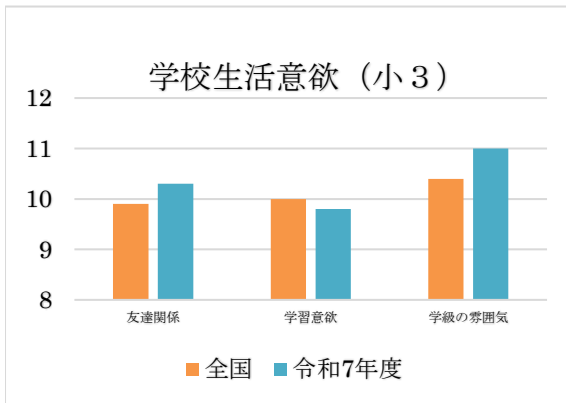
⇒いじめは絶対に許されないものであるとの強い方針のもと、各学校で指導にあたっている。いじめの定期調査を実施し、認知した場合の早期解決に向けて支援にあたった。

○ Q-U検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール

(1) 学級満足度尺度



(2) 学校生活意欲



○ 考察

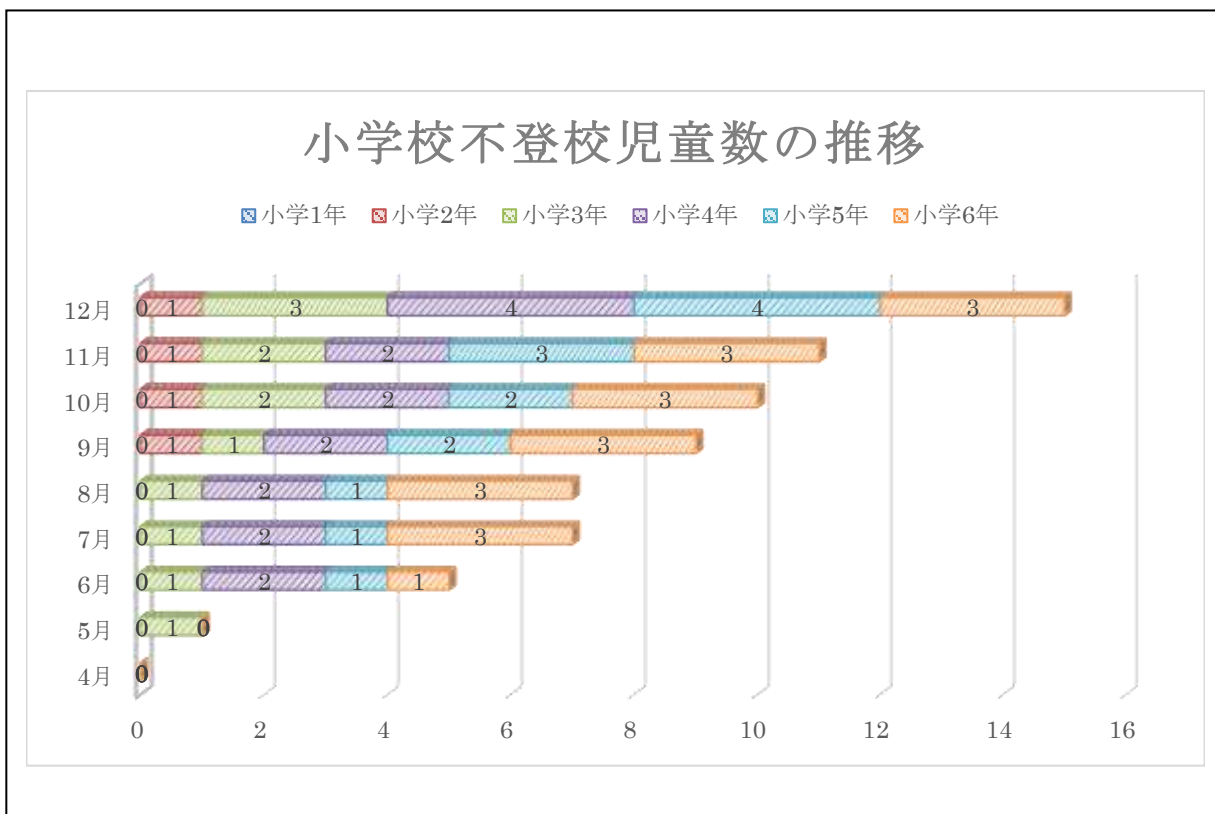
- ・各学校においては、Q-U検査を分析し、学級経営や個別支援に役立てている。
- ・令和7年度の結果をみると、「学級生活満足群」はどの学年においても全国平均を上回り、「非承認群」「学校生活不満足群」については、どの学年においても全国平均を下回っている。「傷害行為認知群」は小学3、4年生と中学2年生を除き、全国平均を下回っている。また、学校生活意欲を見ると、小学校においては、全国と比較して、「友人との関係」「学級との関係」が高い。中学校では、「友人との関係」「学習意欲」「教師との関係」「学級との関係」「進路意識」「部活動」のすべての項目で全国平均を上回っており、特に「学習意欲」「教師との関係」「学級との関係」では全国平均を大きく上回っている。

各学校の取り組みにより児童生徒一人一人を大切にされた学級経営が行われている結果であると推測できる。今後も親和的な集団の中で、安心した学校生活を送り、一人一人が認められるような学習集団を構築することや児童生徒にとって「わかる・できる」授業、「学びを実感できる」授業を実践していくことが必要である。一方、学級生活不満足群の要支援群の児童生徒に対しては、授業などでの教師の関わり方を工夫するなど、個別の支援を充実していく必要がある。

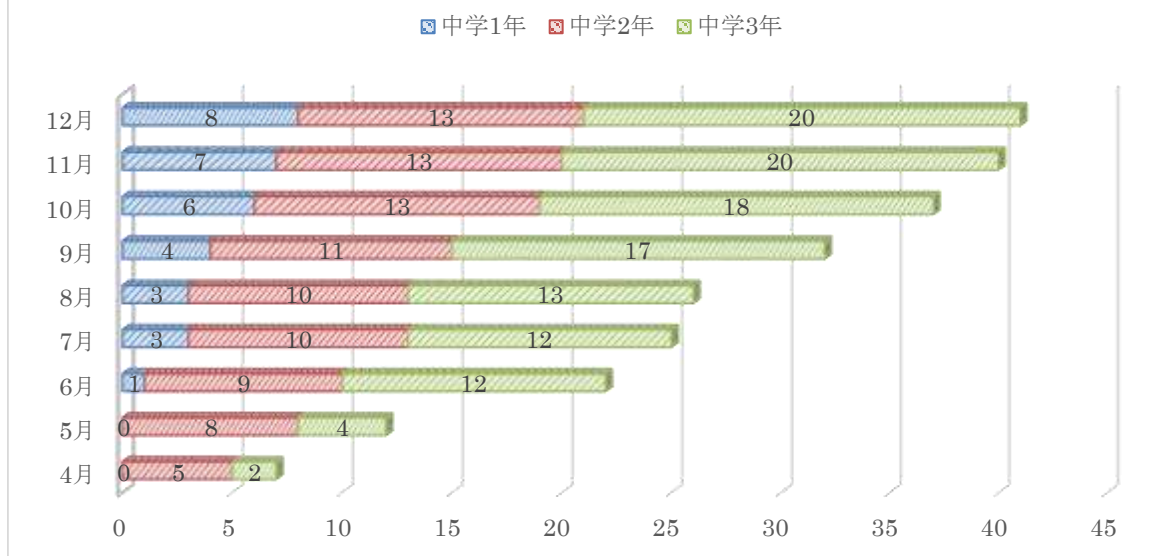
- ・今後もQ-U検査を活用して、教育相談のP（学級集団の分析、支援計画の作成）→D（支援策の実施、授業改善）→C（学級集団の分析、支援策の効果検証）→A（再支援策の実施）サイクルを学校全体で機能させるようにする。

<指標・考察> 「不登校の状況」

- ・目標 新規の不登校児童生徒の出現を0にする。



## 中学校不登校生徒数の推移



### ○考察

- ・12月末現在の不登校数は、小学校が15人、中学校が41人、合計で56人である。昨年度に比べ、小・中学校共に3人増となっている。学年別では、昨年度は小学校6年生と中学校2年生が多かったが、今年度は小学校は4・5年生が各4人、中学校は中学3年生が20人と最も多い。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒、家庭教育に困難さがみられる児童生徒、学業不振や友人とのトラブルがきっかけになっている児童生徒、夜型の生活習慣などの影響によって休みがちな生徒など様々な要因が関わり合い、不登校児童生徒の状況が複雑化・多様化している。関係機関との連携を図りながら、段階に応じた支援を行っていく。
- ・不登校児童生徒の学校復帰に向け、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員等と連携を図り、今後どのような方針のもとで、どのような支援を行っていくのかを保護者、関係者ととともに模索し、具体的かつ実効ある支援を行っていく必要がある。

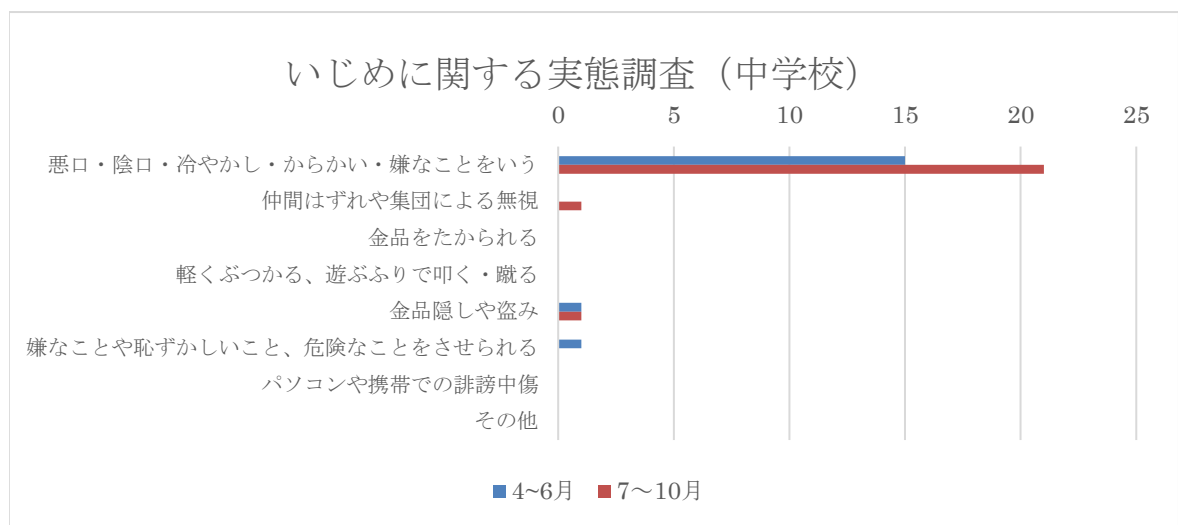
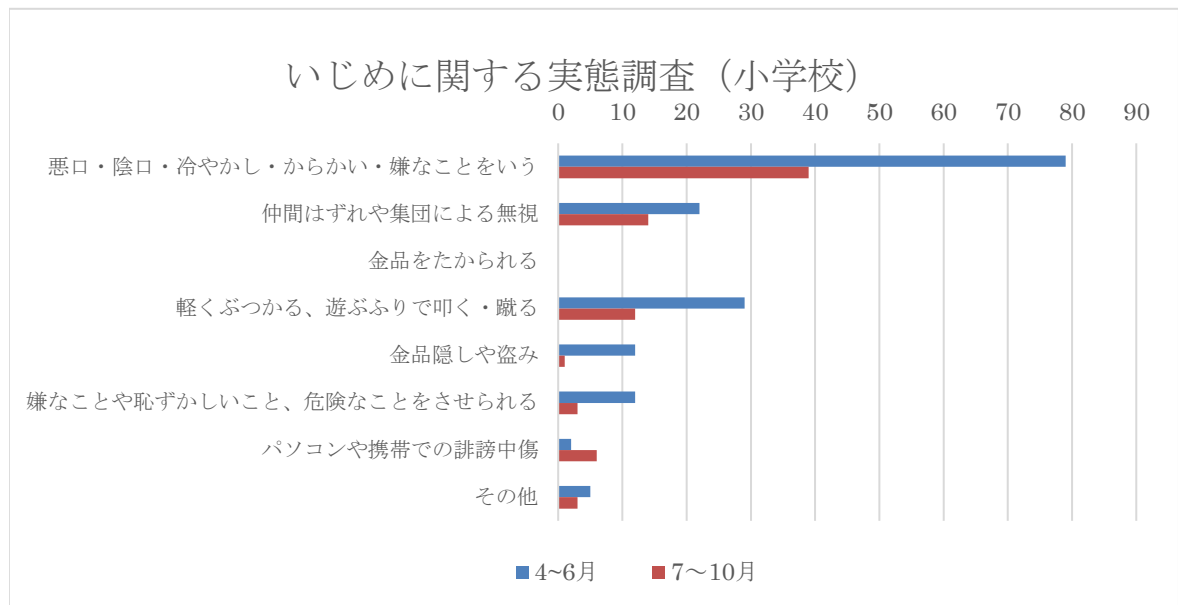
<指標・考察> 「いじめの状況」

- ・目標 いじめ重大案件を0にする。

○いじめの状況

令和7年度 いじめの認知件数（4月～10月）

178件（小学校 161件、中学校 17件）



○考察

- ・令和7年度4月～10月までにおける田村市内小中学校のいじめ認知件数は178件となっており、昨年度と比較して57件の減少となっている。特に中学校で34件の減少となっている。いじめの内容では、小中学校とも「悪口・陰口・冷やかす・からかい・嫌なことをいう」が最も多く、全体の5割以上を占めている。
- ・学校いじめ防止基本方針のもと、いじめの未然防止の指導とともに日常の観察やアンケート、教育相談等によるいじめの兆候の早期発見、丁寧な対応を継続していく。

### 施策3 「小学校キャリア教育推進」への取組み

#### ア 小学校キャリア教育の推進

- 県立中学校の資料収集・指導（通年）  
⇒令和7年度から、県立中学校が会津学鳳、ふたば未来学園、安積の3校になり、学力向上へ向けた意識も高まっていることから、市内小学生の学力向上に向け、各小学校でこれまでの県立中学校適性検査問題等に触れる機会を設けることができるよう資料を収集し、配布して個別に最適な指導ができるよう支援した。
- 小学校段階の進路指導・キャリア教育  
⇒市教育委員会として、希望する小学5、6年生を対象にウィンターチャレンジキャンプを2回開催し、難易度の高い問題に集中して取り組める場を設けた。

### 基本目標④：地域と共にある学校教育を実現します

#### 施策1 「開かれた学校づくり」への取組み

- ア 教育活動の積極的な公開
- イ 学校評価による学校運営の充実

- 学校便りやホームページの活用及び授業公開  
⇒各学校では「開かれた学校づくり」への取組みを積極的に進め、学校便りを定期的に発行すると共にホームページを活用して児童生徒の学習の様子や学校生活の状況等を発信している。
- 学校自己評価の公開、学校関係者評価の公開  
⇒学校評価を活用して学校運営の充実に努めている。学校自己評価、学校関係者評価の評価結果は、ホームページで公開するようにしている。

#### 施策2 「コミュニティ・スクール制度の充実」への取組み

##### ア 学校運営協議会（学園型：幼小中が一つの組織として設置）の充実

- 学校運営協議会委員の研修、学校運営協議会の協議内容の共有の場の設定（通年）  
⇒市内小中学校全校に学校運営協議会（コミュニティスクール）を発足させ、市教委担当も第1回協議会に出席した。積極的に学校運営に関わるという意識を高めることを目標に、協議会委員に学校に足を運んでいただく機会が増えるよう各学校へ働きかけた。1/13（火）に学校運営協議会情報交換会を開催し、船引南地区の実践発表や、文部科学省CSマイスター猿渡氏によるミニ熟議、講演を通して、各委員が研修を深めた。また、委員同士の情報交換を行い、それぞれの取組みを共有した。

### 施策3 「地域と連携したキャリア教育の充実」への取組み

- ア 郷土に貢献できる人材育成
- イ 総合的な学習の時間による地域学習

- こども議会（10/25）  
⇒各小中学校代表こども議員が市当局への質問を行った。実際の議場において、市長をはじめ市幹部職員がそろっている中での本議会は、参加した児童生徒にとって体験を通じた貴重な学びの場になった。
- 中学生 T2（Tamura Tankyu）プロジェクト（8/7,8）  
⇒田村を探究・英語で発信。郷土の先輩である三菱商事勤務 大橋俊則氏に講師を依頼し、市内各中学校から推薦された生徒 21 名と「田村市の未来を考える」ワーキンググループによる活動を行った。カリフォルニア大学バークレー校のデボラ教授とオンラインで直接話すなど、中学生にとっては英語で話す体験にもなった。東京大学出身でJリーグ勤務の小林祐介氏、慶應義塾大学医学部出身で経済産業省勤務の池辺将氏、早稲田大学出身で映像広告クリエイターのスチュアート・モーガン・海氏にも来庁いただき中学生が進路等の体験談を聞く機会を設けた。
- 地域素材による地域理解、地域人材活用によるキャリア教育（通年）  
⇒各学校の計画の下、生活科や総合的な学習の時間、社会科等の授業において地域人材を活用し地域理解を深めるための学習を積極的に進めた。

### 施策4 「特色ある教育に向けた家庭・地域との連携」への取組み

- ア 地域ボランティアの積極的活用
- イ 危機管理情報伝達体制の整備

- 地域学校協働本部事業との連携、学習支援ボランティアの活用（通年）  
⇒地域学校協働本部との連携により、各学校とも授業の充実に努めた。登校時や校外活動における安全見守りや読書活動支援、家庭科のミシン学習など技能を伴う活動において地域の方々にボランティア協力をいただいた。
- 緊急時「eメッセージ」メール配信システム、情報セキュリティポリシーの策定（通年）  
⇒緊急時メール配信システムを全校に導入し、緊急時に学校から保護者へ連絡する手段として頻繁に活用されている。また、情報セキュリティポリシーガイドラインを策定し、各学校へ周知・徹底を図った。

基本目標⑤：教職員の資質向上を図ります

施策1 「教職員の指導力向上」への取り組み

- ア 教育力向上のための教員研修体制の拡充
- イ 学力向上推進会議の活性化
- ウ 専門研修の充実

○ 田村市学力向上ラウンドテーブルの開催（12/19）

⇒船引小学校において、各学校・幼稚園教職員のほか、船引高校の教員、PTA、保護者、市役所職員が参集し、学力向上のほか児童生徒に関わる諸問題について意見交換をした。学校だけではなく職種の方々から意見をいただくことで、学校に勤務する教職員の意識改善に寄与できた。

○ 教員短期派遣研修・専門研修派遣 事業の推進（期間限定）

⇒指導力向上に向け、下記の通り市内教員・保育士を先進校へ1週間程度派遣した。

6/23（月）～ 6/27（金）愛知県春日井市立出川小へ都路小教諭1名、

高森台中へ船引中教諭1名

9/ 1（月）～ 9/ 5（金）秋田県大館市立有浦保育園へ滝根幼稚園教諭1名、

桂城小へ船引小教諭1名

9/29（月）～10/ 3（金）富山市立堀川小へ美山小教諭1名

10/27（月）～10/31（金）富山市立堀川中へ常葉中教諭1名

11/17（月）～11/21（金）岩手大学教育学部附属小へ船引小教諭1名、

岩手大学教育学部附属中へ船引南中教諭1名

11/17（月）～11/21（金）さいたま市立文蔵小へ大越小教諭1名、

上大久保中へ常葉中教諭1名

○ 教育講演会の開催（学力調査官等）（8/22）

⇒高知県教育委員会事務局教育課程推進専門官 齊藤一弥氏、文部科学省学力調査官 贄田悠氏を講師に迎えて、算数・数学科、英語科の学習指導の改善・充実について講演していただいた。

○ 計画及び要請訪問の実施

⇒6/16 船引南幼・小、7/3 常葉幼、9/24 美山小、10/20 大越小、11/19 大越こども園、12/1 船引小、12/18 都路中で実施。

○ 学校教育指導委員による授業研究会

⇒文科省学力調査官等を講師に招いて授業研究会を実施した。主な授業研究会は次の通り。

- ・ 7/15 小学校算数・中学校数学科授業研究会（講師：学力調査官 島尾 裕介先生）
- ・ 9/10 中学校英語科授業研究会（講師：学力調査官 贄田 悠先生）
- ・ 10/28 小学校国語科授業研究会（講師：前国語科学力調査官 渡辺 誠先生）
- ・ 11/21 中学校国語科授業研究会（講師：前国語科学力調査官 渡辺 誠先生）
- ・ 12/10 小学校外国語科授業研究会（講師：学力調査官 贄田 悠先生）

- 田村市共通テストの作成と分析、改善策提案  
⇒5/7,7/9,9/2,10/30,11/27 委員会において、田村市共通テストを作成・実施後の分析実施。10/14～10/24 第1回、1/13～23 第2回実施。知識・技能を問う問題は、小学校では改善が見られた。中学校は、昨年度と同様のつまづきが見られた。思考力等を問う問題は、小・中学校ともに式の意味を理解することに課題があった。問われていることが具体的にイメージできていないことが予想されるため、授業での教師からの「問い」を大切にしていく。
- 不登校・いじめ問題対策研修会（5/26）、特別支援教育担当者会(5/28)、幼保小中教諭等研修会（4/30,6/10,9/9,1/27）、ICT教育研修会（4/23）、常勤講師研修会(8/4)  
⇒各学校の担当者が参集し、それぞれの専門性を高める研修に取り組んだ。また、教諭以外の教員の研修の場として常勤講師研修会を開催し、指導力向上のための研修に取り組んだ。

## 施策2 「教職員サービス倫理の確立と働き方改革」への取り組み

- ア 不祥事根絶
- イ 勤務の適正化

- 校内相談体制の構築、サービス倫理委員会の充実  
⇒不祥事の根絶に向け、市サービス倫理対策委員会を3回（5/22,8/28,12/8）実施し、各委員の学校・園の取り組みや課題等をもとに、互いに危機意識を共有できるようにした。話題になった内容を校長会議及び教頭研修会の折に取り上げ、校内相談体制の構築とサービス倫理委員会の充実に努めた。また、管理訪問において、校内サービス倫理委員会の実施状況を確認し、不祥事防止について働きかけた。
- 教育長と教職員による不祥事防止に向けた対話  
⇒県教委の不祥事根絶プロジェクトに基づき、教育長と教職員の対話の機会を設け、各学校の不祥事根絶に向けた意識を高めた。
- 児童生徒性暴力等の防止に関する教職員のサービス規律の徹底  
⇒法律の施行に基づく県通知を受け、法律の趣旨の理解、校舎内の定期的な点検等について各学校へ働きかけた。
- 部活動地域展開推進委員会（部活動の在り方検討委員会から名称変更）の継続開催（6/13 第1回、10/8 第2回委員会開催）  
⇒4/20,6/22,9/28 の練習会は、体力づくりを中心としたメニューで実施し、10/8 の委員会での話し合いをもとに、10/26 の第4回練習会から地域指導者も加えて各種目ごとの練習会に変更し実施した。計8回の合同練習会を予定し、その後第3回委員会を開催する。
- 校務支援ソフトの活用促進・共有、勤務実態の把握と勤務適正化への指導助言  
⇒校務支援ソフトを用いて教職員の出退勤時刻や時間外勤務状況を把握し、時間外勤務が多くなることのないよう、校長会議及び教頭研修会等において指導してきた。月平均の教職員の時間外勤務時間は、昨年度（4月～12月）と比較して、小学校で1.65時間、中学校で1.85時間減少した。

# 市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実

(生涯学習課・中央公民館) 教育振興推進プログラムダイジェスト

## ① 青少年の健全育成を図ります **基本**

- (1) 青少年健全育成の体制充実及び活動支援
  - ◇ 青少年健全育成市民会議の活動支援
    - ・少年の主張大会の開催
    - ・体験活動の実施
- (2) 小中学生の健全育成事業
  - ・小中学校芸術鑑賞教室の開催

## ② 生涯学習の充実を図ります

- (1) リカレント教育(学びなおし)の充実
  - ◇ たむら市民大学たまりの推進
    - ・エンジョイライフ支援(生きがい)
    - ・講師の募集・育成
- (2) 生涯学習拠点の充実 **重点5**
  - ・生涯学習複合施設の整備方針の検討

## ③ 地域に遺された文化財の保存と継承を図ります **基本**

- (1) 文化財の保存と継承 **基本**
  - ・文化財保護審議会の開催と文化財等研修会への参加
  - ・指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
  - ・指定文化財の周知
  - ・田村市史シリーズの継続発行
  - ・無形民俗文化財の保存と伝統芸能の継承
- (2) 文化財施設の整備と充実
  - ・歴史民俗資料館の活用促進
  - ・文化財保存施設の整備
- (3) 文化財の調査と活用 **重点4**
  - ・遺跡調査出土品のデジタル化と保存
- (4) デジタル文化資源の活用 **重点3**
  - ・デジタル文化資源の公開

## ④ 図書館利用促進を図ります

- (1) 図書館の機能充実
  - ◇ 利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実
    - ・ニーズに合わせた蔵書の充実
    - ・蔵書検索等の利便性向上
    - ・図書館ボランティアの育成推進
    - ・テーマ、年代別図書コーナーの設置
    - ・自主事業の充実
- (2) 田村市子ども読書活動推進計画
  - ◇ 計画の推進
    - ・読書に親しむ機会の提供
    - ・読書環境の整備
    - ・読書活動についての啓発

## ⑤ 生涯・競技スポーツの振興を図ります **基本**

- (1) 中学校部活動支援
  - ◇ 部活動地域展開支援
    - ・地域スポーツ団体による中学校部活動支援
- (2) 競技スポーツの振興
  - ◇ 市代表によるスポーツ振興
    - ・市町村対抗野球大会、ソフトボール大会、ふくしま駅伝参加準備・運営・連絡調整

## ⑥ 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します

- (1) スポーツ・レクリエーション大会の推進 **基本**
  - ◇ 市民参加奨励大会の運営
    - ・田村富士ロードレース大会
    - ・ビートル駅伝大会・クロスカントリー大会
- (2) スポーツ・レクリエーション施設の活用
  - ◇ 運動公園内施設によるスポーツ交流人口の拡大
    - ・国内外高校や大学、社会人チームの合宿誘致
    - ・県レベル各種大会の誘致
    - ・総合体育館、地区運動場等の利用促進
- (3) 指導体制の充実
  - ・指導者対象の研修会や講習会の開催
  - ・スポーツ少年団活動への支援

## ⑦ 公民館学習講座を開設します

- (1) 学習講座の充実
  - ◇ 市民のニーズを捉えた学習講座の企画
    - ・市民の多様なニーズや各ライフステージに対応した講座の企画

## ⑧ 地域人材・資源を活用した活動を支援します

- (1) 地域学校協働活動の推進 **重点1**
  - ◇ 地域学校協働活動の充実
    - ・地域学校協働活動運営の充実
    - ・ボランティアの確保と資質向上
- (2) 放課後子ども教室の推進 **重点2**
  - ◇ 放課後子ども教室の円滑な運営
    - ・実施校の継続 ・コーディネーターの育成
    - ・安全管理員等の確保 ・事業活動の成果等発信

## ⑨ 多様な芸術文化活動を支援します

- (1) 芸術文化活動の推進
  - ・芸術文化団体活動への支援
- (2) 文化センターの利用促進
  - ・市民による身近な芸術文化の提供及び周知

## 2 市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実（生涯学習課・中央公民館所管）

基本目標①：青少年の健全育成を図ります

### 施策1 青少年の健全育成の体制充実及び活動支援

#### ア 青少年健全育成市民会議の活動支援

- 少年の主張大会の開催  
⇒「田村市少年の主張大会」開催(7/26・市文化センター)。市内小中学生代表 13 名が発表。  
今年度初の試みとして、来場者増のために土曜日の夕方開催とした。(前年比約 20 人増)
- 体験活動の実施  
⇒①自然体験会 (9/20 カヌー等体験・会津自然の家)  
②昔遊び体験事業 (12 月 市内幼稚園児等に「福笑いセット」を配布)  
③お仕事体験 (12/25 福島ファイヤーボンズ選手 の練習、スタッフの仕事見学)

### 施策2 小中学生の健全育成事業

- 小中学校芸術鑑賞教室の開催  
⇒①小学生 (5・6 年生・484 人 演劇鑑賞「パンプキン！-模擬原爆の夏-」)  
②中学生 (2 年生・233 人 「爆笑！東西どろんこ寄席」)  
鑑賞した児童生徒からは、生の舞台芸術等を鑑賞する機会を得て、芸術・文化に対する関心の高まりを表すアンケート結果が数多く寄せられた。

基本目標②：生涯学習の充実を図ります

### 施策1 リカレント教育（学びなおし）の充実

#### ア たむら市民大学「たまり」の推進

- エンジョイライフ支援（生きがい）  
⇒市民大学「たまり」の継続・推進。  
・前期 14 講座に 192 名  
・後期 14 講座に 189 名  
学習ニーズ調査を実施し、その結果を踏まえた講座企画を展開。地域の多様な年齢層が参加できる学びの場を提供できた。
- 講師の募集・育成  
⇒講師募集・育成にも取り組み、新規講師の公募や既存講師への運営支援等を行った。

### 施策2 生涯学習拠点の充実

- 生涯学習複合施設の整備方針の検討  
⇒令和 9 年度までの都市再生整備計画に続く、新たな計画の策定後に着工する予定として、財政状況を見据えながら、基本構想の見直しに向けた素案の検討等を進めている。

## 基本目標③：地域に遺された文化財の保存と継承を図ります

### 施策1 文化財の保存と継承

- 文化財保護審議会の開催と文化財等研修会への参加  
⇒審議会で提起された課題について、改善、解決のための議論を重ね必要に応じて現状の調査も実施した。
- 指定文化財の防災訓練と防火査察の実施  
⇒指定文化財の防災訓練及び防火査察は、消防署の協力も得て予定通り実施。  
指摘のあった箇所については適宜改善を要請、経過もフォローしていく。
- 指定文化財の周知  
⇒文化財に対する理解促進のために、市民大学に講座を設置した。  
ホームページでも随時情報を更新し周知に努めた。
- 田村市史シリーズの継続発行  
⇒郷土の偉人の功績を紹介しながら、郷土愛の醸成を図る目的で新刊発行の企画を立ち上げ、次年度にかけて発行に取り組む。
- 無形民俗文化財の保存と伝統芸能の継承  
⇒地域の無形民俗文化保存団体に対する補助金交付や事業助成を実施し、保存活動の継続を支援した。

### 施策2 文化財施設の整備と充実

- 歴史民俗資料館の活用促進  
⇒江戸時代後期の農家住宅を移築復元した建物に、人々の暮らしを支えた生活道具等を常設展示。併設する「平和祈念資料展示室」とともに遠方からの来館者もある。
- 文化財保存施設の整備  
⇒保存すべき資料が増えていく一方で、保存先が分散して管理しにくい状況もあるので、引き続き全体的な整理を進めていく。

### 施策3 文化財の調査と活用

- 遺跡調査出土品のデジタル化と保存  
⇒埋蔵文化財包蔵地台帳を整理するとともに、出土品のデジタル化の進展について引き続き検討を行った。

### 施策4 デジタル文化資源の活用

- デジタル文化資源の公開  
⇒令和4年度からの継続事業として「石井家」の文書約2,000点のデジタルデータ化を進めた。

## 基本目標④：図書館利用促進を図ります

### 施策1 図書館の機能充実

#### ア 利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実

- ニーズに合わせた蔵書の充実  
⇒リクエスト等、利用者のニーズにも寄り添いつつ、蔵書全体のバランスや社会の動向も考慮しながら計画的に新刊図書を購入。
- 蔵書検索等の利便性向上  
⇒検索スペースのパソコン配置と検索の容易さ、スマートフォンからの検索への対応等の利便性向上を継続的に取り組んでいる。
- 図書館ボランティアの育成推進  
⇒読み聞かせ等のボランティア育成や支援、スキルアップのために講座、研修会を開催。  
図書館事業の全般にわたりボランティア活動を通じて社会貢献意思のある方々の受け入れ、人材発掘や育成をめざし、「田村市図書館ボランティア受入れ実施要綱」を制定。  
事業支援や業務支援等、幅広く受け入れていく。
- テーマ、年代別図書コーナーの設置  
⇒各年代や高齢者、障害のある方などが利用しやすいコーナーを設置。季節や時事などをテーマに書籍の魅力をアピールする展示を定期的を実施。
- 自主事業の充実  
⇒季節ごと（春 4/26・夏 7/26、8/23・冬 12/20）に特別おはなし会を実施。  
本館では毎月第1・第3金曜日に乳幼児と保護者を対象に定例おはなし会を実施。  
分館は月1回程度、おはなし会を実施。  
書籍、図書館に関心を高めてもらうための情報（豆知識等）をホームページに掲載。

### 施策2 田村市子ども読書活動推進計画

#### ア 計画の推進

- 国・県の読書推進に関する基本計画が改訂されるタイミングに合わせ、子どもたちの健やかな成長を支える読書活動の推進のため、令和7年度から5年間を計画期間とする「第四次田村市子ども読書活動推進計画」の策定に取り組んでいる。令和8年3月に策定予定。
- 読書に親しむ機会の提供  
⇒家庭…4・10か月健診時に、絵本の読み聞かせ「ブックスタート」事業を継続。  
地域…保育所、幼稚園等に、興味を喚起する絵本購入や図書の貸し出し実施。  
学校…小中学校での朝読書、読み聞かせの実施。
  - 読書環境の整備  
⇒約17万冊を所蔵、年間300日以上の開館を維持。書架の配置や高さにも工夫を凝らし、子どもたちの利用しやすい環境を整備。
  - 読書活動についての啓発  
⇒図書館見学や職場体験の受入れ。  
保護者への読書活動推進啓発チラシの配布。  
中学生ビブリオバトルへの協力、エントリー本の展示や貸し出し。

基本目標⑤：生涯・競技スポーツの振興を図ります

施策1 中学校部活動支援

ア 部活動地域展開支援

- 地域スポーツ団体による中学校部活動支援  
⇒国の方針が変更されたことに伴い、「部活動地域展開」に事業名を改め、体力づくりやニュースポーツへの取り組みを中心に練習会が実施された。  
休日の部活動展開に資する人材確保に向け、市体育協会から人材の推薦を受けた。具体的に進むべき方向を見極めつつ、それぞれのニーズとマッチングしていく。

施策2 競技スポーツの振興

ア 市代表によるスポーツ振興

- 市町村対抗野球大会、ソフトボール大会、ふくしま駅伝参加準備・運営・連絡調整  
⇒市町村対抗野球大会  
市野球協会に市代表チーム運営を委託。(代表、コーチ、選手、スタッフ 計30名)  
1回戦(9/14)……田村市 5-4 塙町  
2回戦(9/23)……田村市 2-10 相馬市  
⇒市町村対抗ソフトボール大会  
市ソフトボール協会に市代表チーム運営を委託。(代表、コーチ、選手 計28名)  
2回戦(10/12)……田村市 7-0 南相馬市  
3回戦(10/12)……田村市 10-2 伊達市  
準々決勝(10/18)……田村市 7-0 南会津町  
準決勝(10/18)……田村市 1-2 福島市 ※第3位  
⇒ふくしま駅伝(11/16)  
市陸上競技協会に市代表チーム運営を委託。(団長、スタッフ、選手 計46名)  
市の部7位、総合9位  
いずれの競技も選手選考をはじめ技術的助言、メンタルケア等に至るまで市担当と連携を密にしながら、高い競技水準と成績を保つことができた。

基本目標⑥：幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します

施策1 スポーツ・レクリエーション大会の推進

ア 市民参加奨励大会の運営

- 田村富士ロードレース大会(10/19)  
⇒参加者…670組/770人  
招待選手…道下美里選手(三井住友海上) \*パラリンピックメダリスト  
各学校、スポーツ団体との連携により例年同様の参加があった。
- ビートル駅伝(11/3)  
⇒参加チーム…小学生の部…19、中学生の部…12、一般の部…17、計48組(前年比+8)
- クロスカントリー大会(3/15)  
⇒参加者…251人の参加があった。

## 施策2 スポーツ・レクリエーション施設の活用

### ア 運動公園内施設によるスポーツ交流人口の拡大

- 国内外高校や大学、社会人チームの合宿誘致  
⇒市陸上競技場において、全国都道府県対抗駅伝競走大会の男子チームが合宿を行った。  
(1/25~27)
- 県レベル各種大会の誘致  
⇒福島県小学生リレーカーニバル (9/13)  
県中・県南中学生新人陸上競技大会 (9/14・15)  
福島県中学生新人陸上競技大会 (10/4・5)
- 総合体育館、地区運動場等の利用促進  
⇒市内小中学校の各種体育大会、市陸上競技大会や市体育協会など市内スポーツ団体が主管する事業において積極的に利用され、県レベルの小学生リレーカーニバル大会、中体連陸上競技大会、県中大会、田村地区大会及び駅伝大会が開催された。また、大多鬼丸旗争奪児童ソフトボール大会が多目的運動広場ほかで開催された。  
⇒ふくしま駅伝田村市チームの練習が田村市陸上競技場、クロスカントリーコースで行われた。

## 施策3 指導体制の充実

- 指導者対象の研修会や講習会の開催  
⇒スポーツ少年団主催のスタートコーチインストラクター養成講習会等の研修会への参加周知を積極的に実施。
- スポーツ少年団活動への支援  
⇒「田村っ子の元気を支援する事業」を活用し、各団に対する活動助成を実施。

## 基本目標⑦：公民館学習講座を開設します

### 施策1 学習講座の充実

#### ア 市民のニーズを捉えた学習講座の企画

- 学習ニーズアンケート調査の実施と結果分析  
⇒受講者のアンケートでの意見（満足度、習得度、成果）と結果を反映し、学習効果の高い講座、教室の開設及び運営を行えるよう努めている。
- 5館合同講座の企画  
⇒中央公民館事業として、市政だよりとポスター（チラシ）、SNSを活用し、講座・学級の受講生を募集。地域に偏りが見られるため、開催場所等の検討が必要。  
4/19 歴史講演会、7/27 水生生物観察、10/10 文化財めぐり、12/7 そば打ち体験教室、  
12/21 ふるさとふれあい教室、1/24 親子木工クラフト、2/8 親子お菓子づくり、  
9/5, 11/11, 11/21, 12/2, 1/30 高齢者学級、6/21, 10/5, 12/6, 1/31 女性学級、  
6/14 シーサイドウォーキング、11/9 ふれあいハイキング

基本目標③：地域人材・資源を活用した活動を支援します

施策1 地域学校協働活動の推進

ア 地域学校協働活動の充実

- 地域学校協働活動運営の充実  
⇒地域学校協働活動本部会議等で各地域コーディネーターからの活動状況報告により、地域の実情に応じた様々な活動状況について情報共有している。  
今後も、地域と学校と行政が連携し合い、地域における課題解決やボランティア協力者の確保に努めていく。
- ボランティアの確保と資質向上  
⇒地域のボランティアについては、高齢化や現在の多様化したライフスタイルの変化により、人員確保が厳しいが、地域コーディネーターの伝手で確保できている。  
また、ボランティアの資質向上については、今後研修会の機会を設け、実施向け検討していきたい。

施策2 放課後子ども教室の推進

ア 放課後子ども教室の円滑な運営

- 実施校の継続  
⇒滝根小 67 名、常葉小 46 名、美山小 53 名、船引南小 71 名が登録し、継続して放課後子ども教室めだかの学校を利用している。(10/1 現在)
- コーディネーターの育成  
⇒県主催の研修会や市の情報交換会を通して、コーディネーターの育成及び資質の向上を図る。
- 安全管理員等の確保  
⇒安全管理員については、高齢化や現在の多様化したライフスタイルの変化により、人員確保が厳しいが、確保できている。
- 事業活動の成果等発信  
⇒各教室とも年2回お便り等を地域に配布し、活動内容や成果を発信している。

基本目標⑨：多様な芸術文化活動を支援します

### 施策1 芸術文化活動の推進

#### ○ 芸術文化団体活動への支援

⇒5/15 迎賓館辰巳屋において、「市文化協会定期総会」が開催された。

⇒6/7～8 市文化センターにおいて、「市文化祭作品展示会」が開催された。

⇒6/15 市文化センターにおいて、「市文化祭芸能発表会」が開催された。

⇒10/5～11/23 市文化センター、中央公民館等において、「船引地区文化祭」が開催され、秋の芸能まつりや作品展示会など行われた。

⇒10/18～19 滝根体育館において、「星の村文化まつり」、10/25～26 大越行政局において、「大越町文化祭」、また、文化の館ときわにおいて「常葉町文化祭」、11/8～9 古道体育館において「都路町文化祭」が開催された。

⇒11/29～12/7 田村市文化振興発信事業における体験ワークショップで文化活動への門戸を広げることができた。

### 施策2 文化センターの利用促進

#### ○ 市民による身近な芸術文化の提供及び周知

##### 自主文化事業

⇒7/19 丘みどりコンサートは、約 700 枚販売した。中には、ファンクラブの方で遠く大阪の方もいた。

⇒8/2 紺野美沙子朗読会 194 名

⇒8/31 避難訓練コンサート 404 名

⇒まちそわシネマ（映画上映会）全 8 回 5/31 アイミタガイ 241 名、6/29 小学校 185 名、7/13 はたらく細胞 573 名、9/15 片思い世界 231 名、11/2 それいけアンパンマン 70 名、11/2 104 歳哲代さんのひとり暮らし 179 名、11/3 ゴットマザー 98 名、12/21 ぼくのお日さま 61 名、3/7 風のマジム（予定）

⇒2/28 たむら春待ち落語会（予定）

市政だよりやポスター、SNSのほか新聞などメディアを利用して周知広報に努めた。

# 快適で安全な教育環境の整備・充実

(教育総務課) 教育振興推進プログラムダイジェスト

## ① 教育環境の充実を図ります

- (1) 児童生徒の通学支援
  - ◇ スクールバスの効果的な運用
    - ・運行環境の整備充実
    - ・安全運転マニュアルの励行
    - ・計画的な更新 **重点11**
  - ◇ 遠距離・自転車通学支援
    - ・遠距離通学児童生徒への支援
    - ・自転車通学生徒への支援
- (2) 未来を担うたむらの子応援事業の推進
  - ◇ 田村っ子の元気を支援する事業 **重点6**
    - ・総合学習・体験学習、小中学校部活動、スポーツ少年団活動への支援
- (3) 人材育成の推進
  - ◇ 市独自の奨学金制度 **重点8**
    - ・高校生、大学生等の修学支援
  - ◇ 海外留学支援制度 **重点7**  
(猪狩俊郎人材育成基金活用)
    - ・英語圏諸外国への語学留学支援

## ④ 教育委員会の活性化を図ります

- (1) 開かれた教育委員会
  - ◇ 教育委員会の透明性を高める取組み
    - ・所管事務調査、施設等視察
    - ・会議運営の工夫と公表
- (2) 教育委員会施策の評価と公表
  - ◇ 教育委員会施策の内容を高める取組み
    - ・教育振興推進プログラムの首長部局との連携
    - ・施策事業の内部評価、外部評価
    - ・議会報告と市民への公表
- (3) 教育アドバイザーによる実施事業支援
  - ◇ 教育大綱に基づく事業実施支援
    - ・事業実施にかかる助言
    - ・教育アドバイザー学校訪問

## ② 教職員の健康管理・相談体制を整備します

- (1) 教職員の心身の健康管理支援
  - ◇ 教職員の健康状態の維持・向上
    - ・定期健康診断
    - ・教職員支援プログラム (EAP)
- (2) 学校からの相談体制の充実
  - ◇ 学校からの相談・支援
    - ・スクールロイヤー助言

## ③ 教育施設的环境整備に努めます

- (1) 学校施設長寿命化対策事業の推進 **重点10**
  - ◇ 田村市学校施設長寿命化計画に基づく教育環境の整備
    - ・校舎及び施設の経年劣化の状況を踏まえた計画的な整備及び修繕
- (2) 施設設備の安全管理と通学路の点検
  - ◇ 安全な学校生活のための環境整備
    - ・学校からの報告及び安全点検後の迅速な改善
    - ・防火管理体制の強化
    - ・通学路の点検と危険箇所解消

## ⑤ 学校規模・配置の適正化を推進します

- (1) 学校規模・配置の適正化
  - ◇ 学校規模・配置適正化の推進
    - ・教育効果を高めるための学校規模適正化に向けた「田村スタンダード」の設定
    - ・中長期的な視点からの検討

田村スタンダード (小学校)

- 1 複式を生まない学級規模
  - 2 学年4学級以下の学校
  - 3 通学時間は、スクールバスを利用しても1時間以内
- 令和3年3月29日提言より —

・統廃合等に伴う廃校の維持管理

- (2) 地域に根差した特色ある学校支援
  - ◇ 小規模特認校制度導入
    - ・都路小・中学校指定

### 3 快適で安全な教育環境の整備・充実（教育総務課所管）

基本目標①：教育環境の充実を図ります

#### 施策1 児童生徒の通学支援

ア スクールバスの効果的な運用

イ 遠距離・自転車通学支援

##### ○ 運行環境の整備充実

⇒遠距離児童生徒の通学支援のため、利用計画を策定してスクールバスを運行した。

滝根小学校で広瀬・菅谷方面、大越小学校で下大越・牧野・栗出方面、都路小学校で岩井沢・大久保方面、常葉小学校で山根・関本・西向方面、船引南小学校で門沢・櫛山・芦沢方面、船引小で今泉・春山・石森・要田方面、美山小で移・瀬川方面、船引中で移・要田方面など 合計38台を運行した。

##### ○ 安全運転マニュアルの励行

⇒民間会社と運転業務委託契約を結び、乗降場所や時刻などの詳細な打ち合わせにより、遅延等トラブルが発生しないよう、学校と綿密に連携して対応した。

学校行事や中学校の部活動についても各学校からの要請に応じて柔軟に運行した。

##### ○ 計画的な更新

⇒スクールバスの更新は、今後の少子化の状況や社会情勢の見通しを考慮した上で計画的に行う。

##### ○ 遠距離通学児童生徒への支援

⇒自宅から学校までの通学距離が4 km以上の小学生、6 km以上の中学生を対象とし、保護者に費用的支援を行った。（注意：スクールバス通学者は除く。）

・今年度は小学生2名、中学生2名に対して支援した。

##### ○ 自転車通学生徒への支援

⇒自転車通学の中学校生徒を対象として、不測の事態に備え、ヘルメット着用義務を遵守するよう学校に働きかけ、ヘルメットを購入するための補助金を交付した。

・今年度は、37名に対して支援した。

#### 施策2 未来を担うたむらの子応援事業の推進

ア 田村っ子の元気を支援する事業

##### ○ 総合学習・体験学習支援

⇒各学校の総合的な学習の時間に行う学習活動や体験学習に必要な経費について、計画書に基づき、その一部を補助した。

##### ○ 小中学校部活動支援

⇒小中学校の部活動に対し経費の一部を補助し、児童生徒の活動を支援した。

##### ○ スポーツ少年団活動支援

⇒市内のスポーツ少年団活動にかかる経費の一部を補助し、児童生徒の学校外の活動を支援した。（22団体）

### 施策3 人材育成の推進

#### ア 市独自の奨学金制度

#### イ 海外留学支援制度（猪狩俊郎人材育成基金活用）

##### ○ 高校生、大学生等の修学支援

⇒市ホームページや市政だよりのほか、市内中高校生が通学する学校に奨学資金（貸与・給与）制度の周知を行い、経済的な理由で修学困難な学生への生活の一助として、修学支援を図る。さらに、卒業後は市内居住及び市内事業所等に就職した奨学資金貸与者に対して、一部返還金の免除措置制度の周知を図り、若者の移住定住を促進する。

##### ⇒貸与金額

高等学校	自宅通学	月額	15,000円	自宅外通学	月額	30,000円
専修学校等	自宅通学	月額	20,000円	自宅外通学	月額	40,000円
大学	自宅通学	月額	30,000円	自宅外通学	月額	50,000円

##### ⇒給与金額

国公立の場合	自宅通学	月額	20,000円	自宅外通学	月額	30,000円
私立の場合	自宅通学	月額	30,000円	自宅外通学	月額	40,000円

##### ⇒新規決定年度支給額

令和7年度 現時点では申込者なし

令和6年度 大学生 3名 1,240,000円

令和5年度 専修学生 2名 520,000円

令和4年度 大学生 2名 1,200,000円

高専学生 2名 960,000円

##### ○ 英語圏諸外国への語学留学支援

⇒市のホームページに掲載し、英語圏諸外国への語学留学支援制度（猪狩俊郎人材育成基金）について、田村市出身の生徒または学生に広く周知するとともに、進学先の高校（県中管内35校）に対して文書により案内したが、今年度の申し込みはなかった。

基本目標②：教職員の健康管理・相談体制を整備します

施策1 教職員の心身の健康管理支援

ア 教職員の健康状態の維持・向上

○ 定期健康診断

⇒11月上旬から中旬（11月4日～14日）にかけ、教職員へ健康診断の機会を提供した。

受験済数は令和7年12月時点で166名。

体調不良等による未受験者（令和7年度においては4名）については、1月～2月（1月28日、2月3日）に再度受検機会を提供し、健診漏れが無いように実施。

○ 教職員支援プログラム（EAP）

⇒年度当初の校長会において、引き続き教職員支援プログラム（EAP）を導入している状況や利用方法について、制度活用に向けた説明を行い、利用に関する理解・協力を依頼した。

⇒市立小・中学校校長向けに、ラインケアに関する研修を、オンデマンドで実施。

研修講師として、あさかストレスケアセンターに所属する公認心理士・精神保健衛生士を講師に、田村市におけるストレスチェックの結果を踏まえた講義を開催し、EAP事業活用につながる理解促進に努めた。

⇒市内教職員225名に対してメンタルヘルスに関わるストレス調査を実施した。不調をきたしている教職員に対しては、校長を通して医師の面接を受けるよう促した。

（休職等のやむを得ない事情を除き、受験率100%）

⇒毎月発行されるメンタルヘルスレターを教職員へ展開、今年度は心理的安全性×アサーティブコミュニケーションをテーマとし、職員間のコミュニケーションポイントなどにおいてヒントになる内容を共有した。

施策2 学校からの相談体制の充実

ア 学校からの相談・支援

○ スクールロイヤー助言

⇒学校支援としてのスクールロイヤー（学校関係顧問弁護士）との契約を引続き行い、本年度も活用していただいた2件の事例において相談を受け、弁護士から助言等を頂いた。

基本目標③：教育施設の環境整備に努めます

施策1 学校施設長寿命化対策事業の推進

ア 田村市学校施設長寿命化計画に基づく教育環境の整備

○ 校舎及び施設の経年劣化の状況を踏まえた計画的な整備及び修繕

⇒校舎や体育館、用具室等学校施設の状況を把握し、建築年数に応じた計画的な修繕や整備に努めて劣化状況に応じて修繕を進めた。

今年度を実施した事業は、下記のとおり。

・小学校修繕工事等内容

大越小体育館 LED 照明器具修繕工事、常葉小体育館 LED 照明器具修繕工事・体育館前道路舗装工事、旧西向小貯水槽解体撤去工事、船引小体育館壁面緩衝材修繕工事・体育館遮光カーテン修繕工事・図書室・普通教室エアコン更新工事、船引南小屋根防水等工事、美山小プールろ過機改修工事、各小学校防犯カメラ設置工事

・中学校修繕工事等内容

滝根中職員室空調設備更新工事、都路中屋内体育館屋根塗装改修工事、船引中揚水ポンプ改修工事・トイレ換気扇修繕工事、船引南中揚水ポンプ改修工事・オイルポンプ交換工事、各中学校防犯カメラ設置工事

施策2 施設設備の安全管理と通学路の点検

ア 安全な学校生活のための環境整備

○ 学校からの報告及び安全点検後の迅速な改善

⇒学校が毎月実施している校舎内設備の点検結果を受け、修繕を要する箇所の迅速な改善について、できるだけ早く業者へ連絡し、修繕等に対応した。

○ 防火管理体制の強化

⇒学校で実施している防火診断を着実に進め、消防署の助言を受けながら、不備のないように改善を努めた。

○ 通学路の点検と危険箇所の解消

⇒通学路の安全点検については、各学校からの報告を受け、改善点をまとめた。

児童生徒の交通安全に向けて、地域学校協働本部など地域の方々の協力を得て、指導に当たることを学校に助言している。

基本目標④：教育委員会の活性化を図ります

施策1 開かれた教育委員会

ア 教育委員会の透明性を高める取組み

○ 所管事務調査、施設等視察
⇒教育委員会の事業実施状況を教育委員に説明するとともに、市内全小・中学校の視察を実施して児童生徒への指導内容のほか、施設設備の状況を確認し、教育環境の改善に向けた意見交換を行った。
・令和8年1月、大越武道館（旧大越娯楽場）、中央公民館において所管施設訪問を実施
・小中学校訪問視察（年7回）
・義務教育学校（小中一貫校）、中高一貫校の教育方針などを視察
○ 会議運営の工夫と公表
⇒教育委員会定例会などでは、資料を事前配付するとともに、一人ひとりの委員と綿密に連絡を取りながら、市の教育課題の共有に努めた。
教育委員会定例会などの記録については、ホームページに公表している。
・教育委員会定例会（各月）、臨時会（3月、7月）の開催
・教育委員会勉強会（先進地視察、次年度の重点事業等）の開催
・市長との教育懇談会（教育委員会の所管事業に関する検討）の開催
・市長による総合教育会議（評価報告）の開催
・その他、教育委員会・学校主催行事等の見学

<資料> 教育委員の事業実績

月	日	会議・事業名	場 所
4	7	市内小・中学校入学式	各学校
	15	令和7年教育委員会4月定例会	市役所
5	13	田村市総合教育会議	市役所
	13	令和7年教育委員会5月定例会	市役所
	30	令和7年度外部評価委員会第1回委員会	市役所
6	5	令和7年教育委員会6月定例会	市役所
	24	第2回教育委員会勉強会（学び舎 ゆめの森 視察）	大熊町
7	1	令和7年教育委員会第2回臨時会	市役所
	3	教育委員学校視察（船引南小学校、船引南中学校）	各学校
	9	教育委員学校視察（大越小学校、大越中学校）	各学校
	11	東北六県教委連合会研修会	いわき市
	18	教育委員学校視察（美山小学校）	美山小学校
	22	令和7年教育委員会7月定例会	市役所
8	19	令和7年教育委員会8月定例会	市役所
	20	県市町村教育委員会連絡協議会教育委員・教育長研修会	福島市
9	18	令和7年教育委員会9月定例会	市役所
10	6	教育委員学校視察（常葉小学校、常葉中学校）	各学校
	8	教育委員学校視察（滝根小学校、滝根中学校）	各学校

	20	令和7年教育委員会10月定例会	市役所
	20	第3回教育委員会勉強会（福島成蹊中学校、高等学校 視察）	福島市
	23	教育委員学校視察（船引小学校）	船引小学校
11	18	令和7年教育委員会11月定例会	市役所
	18	第4回教育委員会勉強会	市役所
12	11	教育委員学校視察（船引中学校）	船引中学校
	15	教育委員学校視察（都路小学校、都路中学校）	各学校
	16	教育に関する懇談会	市役所
	16	令和7年教育委員会12月定例会	市役所
1	20	第1回教育委員会所管施設訪問	大越武道館 ほか
	20	令和8年教育委員会1月定例会	市役所
	20	第1回教育委員会勉強会	市役所
2	3	令和8年教育委員会2月定例会	市役所
	27	令和8年教育委員会第1回臨時会	市役所
	27	令和7年度田村市教育委員会表彰式	市役所
3	4	令和7年度外部評価委員会委員会第2回委員会	市役所
	12	田村市総合教育会議	市役所
	13	市内中学校卒業式	各学校
	18	市内幼稚園・こども園卒園式	各幼稚園 ほか
	23	市内小学校卒業式	各学校
	30	令和8年教育委員会第3回定例会	市役所

※外部評価委員は、教育委員会事業予定一覧をもとに、各委員の都合に合わせて可能な限り出席して実施状況を確認するとともに、教育委員会からの内部評価報告を受けて外部評価を行った。

## 施策2 教育委員会施策の評価と公表

### ア 教育委員会施策の内容を高める取組み

- 教育振興推進プログラムの首長部局との連携  
⇒教育大綱に基づく重点事業については、市の総合計画との関連を重視して設定した。
  - ① 奨学金制度の活用
  - ② 海外留学支援制度の活用
  - ③ 田村っ子の元気を支援する事業
  - ④ 学校施設長寿命化対策事業の推進
  - ⑤ スクールバス更新等
- 施策事業の内部評価、外部評価  
⇒教育振興推進プログラムに係る各課の事業については、それぞれマネジメントサイクル（PDCA）により計画・実践・評価し、改善に向けて検討を加えてきた。  
さらに、外部評価委員には、自己評価した内容を伝えた上で評価をいただくよう依頼し、その結果をもとに委員会を開催して、事業効果の点検評価に努めた。
- 議会報告と市民への公表  
⇒事業効果の点検評価については、議会に報告するとともに、会議内容については、議事録をホームページに掲載して市民に公表した。

### 施策3 教育アドバイザーによる実施事業支援

#### ア 教育大綱に基づく事業実施支援

##### ○ 事業実施にかかる助言

⇒学校教育課・生涯学習課・教育総務課が連携協力して事業を実施できるように教育アドバイザーから助言を受けて、教育大綱の一部改訂を行った。

総合教育会議や教育委員会定例会、外部評価委員会等の会議に教育アドバイザーが出席し、内部だけでなく外部の意見を聞き取りながら、所管課の事務事業実施に生かせるように連絡調整を図った。

##### ○ 教育アドバイザー学校訪問

⇒各学校を訪問し、校長・教頭に対して教員の授業についての感想や意見を伝え、学校運営の一助となるよう努めた。

### 基本目標⑥：学校規模・配置の適正化を推進します

#### 施策1 学校規模・配置の適正化

##### ア 学校規模・配置適正化の推進

##### ○ 教育効果を高めるための学校規模適正化に向けた「田村スタンダード」の設定

⇒統廃合した学校における児童生徒の状況を把握しながら、学校運営が円滑に進められるように、地域住民との連携についても学校と情報共有した。

田村スタンダード（小学校）（複式を生まない学校規模、学年4学級以下の学校、通学時間はスクールバスを利用しても1時間以内）を念頭に置き、0歳から就学前までの子どもの数を調べるなど情報収集をした。

##### ○ 中長期的な視点からの検討

⇒社会性を育むための集団規模の確保、教育施設における維持管理コストの削減と老朽化対策、学校を核とした地域再生や跡地利用などの検討を進めていく。

##### ○ 統廃合等に伴う廃校の維持管理

⇒統廃合等に伴う廃校について、定期的に維持管理のための点検を行った。

長期的な見通しについては、関係各課との連携を密に、廃校施設の利活用や校舎の解体などの検討を進めている。

#### 施策2 地域に根差した特色ある学校支援

##### ア 小規模特認校制度導入

##### ○ 都路小・中学校指定

⇒小規模特認校ならではのきめ細かな教育を希望する児童・生徒のために、地域に根差した特色ある学校として、都路小学校・都路中学校を特認校に指定し、市内のどこからでも通える、少人数教育に特化した学校として市内児童生徒の転入を円滑にする仕組みを導入した。

・小規模特認校制度にかかる都路地区以外からの交通手段等についてスクールバスの運行などの要望書が提出された。



### Ⅲ 実施事業の内部評価・外部評価

令和7年度事業実施結果・評価

(夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施策	内部評価	外部評価
<p>学校教育の充実</p> <p>① 確かな学力を育成します (1) 子どもの夢がかなう学力支援【重点3】</p> <p>◎ 東大10人構想</p> <p>◇ 全国トップクラスの学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業推進員(ClassCo-workerTeacher)</li> <li>・ CCT配置</li> <li>・ 主体的、対話的で深い学びの実現</li> </ul> <p>(「田村市版ミニマム授業スタイル」配付)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田村市共通テストの実施</li> <li>・ たむらチャレンジ塾開校(国語・算数)</li> <li>・ オータム・マスマティクスキャンプ</li> <li>・ ウィンターチャレンジキャンプ(算数)</li> </ul>	<p>○ 新たに授業推進員を配置したことで、これまで学びが停滞していた学習内容の理解が早い児童生徒への支援・指導が充実するようになった。</p> <p>○ 田村市版ミニマム授業スタイルの活用を研修会や学校訪問などの機会をとらえて指導し、教員一人一人に児童生徒主体の授業のイメージを持たせてきたため、各学校で意識して授業を行うようになってきている。</p> <p>△ 教師が子どもの反応を待ちきれず、矢継ぎ早に問いかけてしまう傾向がある。子どもの言葉をつないで学びを深める授業について引き続き指導が必要である。</p> <p>△ 今年度の田村市共通テストの結果、知識・技能を問う問題は、今年度も課題として残った。思考力等を問う問題は、問われていることがイメージできない状況が続いている。</p> <p>○ たむらチャレンジ塾への参加者はのべ126人で、昨年度の2.1倍となった。子どもたちが学びを楽しむとともに、向上心を伸ばすきっかけにもなっている。小学生段階から子ども一人一人の学びに向かう意欲を高めるために、参加を奨励する働きかけが引き続き必要である。</p> <p>○ オータムマスマティクスキャンプには小・中学生21人が参加し、算数・数学の難問に取り組み、意欲を高めることができた。</p> <p>○ ウィンターチャレンジキャンプにはのべ33人の小学生が参加し、中学校進学等に向けて難易度の高い問題に取り組み、学力の底上げを図った。</p>	<p>A</p> <p>○ 授業推進員を配置は、学びが停滞していた学習内容の理解が早い児童生徒への一人一人の支援・指導のために有効な施策であると思います。</p> <p>○ 理解して出来ている子をサポートして伸ばすという発想の転換に着眼したのがすごいと思いました。</p> <p>○ 特に若い教員や新しい指導法を身に着けようとする教員にとって、田村市版ミニマム授業スタイルの活用は大変有難い施策であると思います。教員一人一人が授業のイメージを持ち意識して授業を行うようになれると思います。</p> <p>○ 授業推進員の配置、たむらチャレンジ塾への参加者の大幅増、オータムマスマティクスキャンプ、ウィンターチャレンジキャンプへの参加者確保は、評価できる。</p> <p>○ たむらチャレンジ塾への参加者はのべ126人で、昨年度の2.1倍となったことは、向上心を伸ばし子ども一人一人の学びに向かう意欲を高めるのに有効であり継続願いたい。</p> <p>○ たむらチャレンジ塾への参加者は、昨年度比で2.1倍と大きく増加している。その要因をどう捉え、次年度の取り組みにどう活かしていくのかを知りたい。</p> <p>○ 昨年2倍以上の参加人数は成果の現れだと感じます。継続は力なり。続ける事で子どもたちの意識が向上していると思われまます。</p> <p>○ オータムマスマティクスキャンプには小・中学生21人が参加し、ウィンターチャレンジキャンプにはのべ33人の小学生が参加し難易度の高い問題に取り組み、学力の底上げが図られたことは望ましい。なお、定着の遅い児童生徒にも今後とも手を差し伸べて頂きたい。</p> <p>内部評価に「思考力等を問う問題は、問われていることがイメージできない」との表記がある。これは国語力・言語力の不足がその要因であると思われる。算数・数学、英語と同じように国語力・言語力の育成を図る施策がもう少しほしい。特に小学校低学年からの育成が有効と思われる。</p> <p>A</p>

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげたS:目標を上回る成果をあげたA:おおむね目標を達成したB:業務に支障はないが、目標は下回ったC:目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価	
学校教育の充実	<p>◇難関大学挑戦等の夢や希望の実現支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東大見学・体験学習(東大で学ぼう)</li> <li>・県教委事業参加奨励(算数・数学ジュニアオリンピック・科学の甲子園ジュニア)</li> <li>・数検及び漢検3級以上受験料補助</li> </ul>	<p>○東京大学見学、算数・数学オリンピック、科学の甲子園ジュニアへの参加奨励は、子どもたちのより高みを目指す経験の場となった。今年度は、県事業「科学の甲子園ジュニア」に出場した1チームが県2位となり、全国大会においても優良賞を受賞したことは大きな成果である。</p> <p>○数学検定料を補助することで検定にチャレンジした生徒は、3級23人、準2級1人で、合格者は3級14人であった。</p> <p>○新たに検定料補助を実施した漢字検定の受検者は、3級58人、準2級22人、2級3人で、多くの申請があった(合格者は3級30人、準2級10人)。</p>	<p>A</p> <p>○県事業「科学の甲子園ジュニア」に出場した1チームが県2位となり、全国大会においても優良賞を受賞したとのこと、素晴らしい大きな成果が上がったと思います。</p> <p>○夢を形にして見せるのが、その子ども達のその後の人生に大きな影響を与えます。東京大学見学は、大きな影響力があると思います。</p> <p>○数学検定料を補助で検定にチャレンジした生徒は、3級23人、準2級1人で、合格者は3級14人、新たに検定料補助を実施した漢字検定の受検者は、3級58人、準2級22人、2級3人で、多くの申請があったとのこと。意識を高めるためにも継続して支援頂きたい。</p> <p>○補助をする事で、検定にチャレンジしやすい生徒が増える事に期待しています。</p> <p>○小さなステップを踏ませ成功体験を重ねることで子どもたちのモチベーションが向上していく。多くの子どもたちが検定試験にチャレンジしたことは大きな成果である。数学、漢字にとどまらず、子どもたちが関心を持ちチャレンジできるものがあれば、随時その対象の拡大を検討していくことが必要と思われる。</p>	<p>A</p>
	<p>(2)保幼小中一貫教育の推進【重点9】</p> <p>◇保幼小中一貫教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携を生かした小学校専科指導</li> <li>・5-4制小中一貫カリキュラムの充実</li> <li>・「スタートカリキュラム」の実践</li> <li>・「はぐくみステップ」の実践</li> <li>・架け橋期カリキュラムの作成・完成</li> </ul>	<p>○中学校教員が小学生に授業をすることで、小学生の実態や指導の系統性の理解が深まり、わかりやすい授業に向けた指導改善にもつながっている。小学生にとっては、中学校進学時の不安解消につながっているとの小学校教員の評価もある。</p> <p>○「スタートカリキュラム」や「はぐくみステップ」を活用しながら、幼稚園・こども園職員と小学校教員が協力して「架け橋期カリキュラム」を完成させた。校種間の相互理解・連携が深まるとともに、学力の基礎となる力を身に付ける保育実践の充実につながっている。また、保・幼・小の交流も更に盛んになっている。</p> <p>△「幼児期の終わりまでに育ってほしい」10の姿の共通理解を図り、幼稚園(こども園)・小学校・中学校の接続をより円滑にしていく必要がある。また、完成した「架け橋期カリキュラム」は、実践により今後も見直しや改善を図っていく必要がある。</p>	<p>A</p> <p>○教育は連続して、継続してなされるものと考えています。学力も生徒指導の諸問題も小学校、中学校の責任ではなく連続性を持たせることが大切と考えます。中学校教員が小学生の実態や指導の系統性の理解が深まり、小学生にとっては、中学校進学時の不安解消につながることもなり、協力と相互理解がますます求められます。</p> <p>○縦は勿論、横のつながりが情報共有、連携するのにもとても心強いと思います。</p> <p>○継続的な保幼小中の連携教育がさまざまな形で成果となって現れてきている。小中教員による交流授業は、児童・生徒たちへの好影響はもとより、教員の授業力向上にもつながっていると思われる。</p> <p>○「スタートカリキュラム」や「はぐくみステップ」を活用しながら、幼稚園・こども園職員と小学校教員が協力して「架け橋期カリキュラム」を完成させたことは素晴らしい。校種間の相互理解・連携、保・幼・小の交流も更に進まることを期待します。</p> <p>○「スタートカリキュラム」や「はぐくみステップ」を活用した「架け橋期カリキュラム」の作成は、今後の田村の教育に好循環を生み出す一つとなりうるものと評価できる。「架け橋期カリキュラム」を成長させる取り組みを次年度以降も持続的にして行ってほしい。</p>	<p>A</p>

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価
学校教育の充実	<p>(3)英語が使える人材育成【重点1】</p> <p>◇児童生徒の英会話力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTを活用した外国語授業の充実</li> <li>・セブ島での語学集中研修</li> <li>・サマーイングリッシュキャンプ</li> <li>・ウィンターチャレンジキャンプ(英語)</li> <li>・たむらチャレンジ塾開校(英語)</li> <li>・たむらっ子の英会話力向上の支援(EnglishSchoolBus、英検3級以上検定料補助、ALTとの園児交流)</li> </ul>	<p>○小・中学校ともに、外国語や英語の授業にALTが常に入っている授業が継続されており、児童生徒にとってはネイティブスピーカーと共に学ぶ環境が整備されて、英語に慣れ親しみ、聞く力が向上している。</p> <p>△話すことには、まだ消極的な児童生徒が多い。各学校には、ALTを英語の授業以外にも積極的に参加させ、英語でのコミュニケーションを身近に感じる環境づくりについて指導・助言している。</p> <p>○サマーイングリッシュキャンプやたむらチャレンジ塾では、楽しく英語に親しむことで英会話力の素地を培うことができた。英会話力向上のための支援によって、児童生徒にとって英語が身近なものとなっており、抵抗感なく、意欲を持って取り組めるようになっていく。</p> <p>○セブ島での語学集中研修は、英検3級以上取得者10名により、昨年度に続き実施した。集中レッスンにより研修受講者の英語力が飛躍的に向上した。また、外国の文化に直接触れることで視野が広がった。英語検定の上位級取得のモチベーションにもつながっている。</p> <p>○1月20日現在、英語検定の受検者は、3級49人、準2級22人、準2級プラス2人、2級3人で、合格者は3級29人、準2級15人であった。</p>	<p>A</p> <p>○小・中学校ともに、外国語や英語の授業にALTが常に入っている授業が継続されており、英語に慣れ親しみ、聞く力が向上していることは素晴らしい。</p> <p>○語学は、日常的な使用がマスターへの近道である。英語使用のハードルを下げるために、授業だけでなく、学校生活の中で、oneword、onephraseだけの会話だけでもいいので、使用する機会や場面を設定することが大切だと思う。ALTだけでなく全教職員が参加することが重要。</p> <p>△話すことには、まだ消極的な児童生徒が多いので英語でのコミュニケーションを身近に感じる環境づくりを工夫していただきたい。</p> <p>○サマーイングリッシュキャンプやたむらチャレンジ塾では、楽しく英語に親しむことの素地を培うことができ、英語が身近なものとなり、意欲を持って取り組めるようになっていくことは素晴らしい。</p> <p>○セブ島での語学集中研修は、集中レッスンにより研修受講者の英語力が飛躍的に向上したことは素晴らしい。</p> <p>○セブ島での英語研修の報告会を見学しましたが、乾いたスポンジがぐんぐん水を吸い上げるように、あれだけ集中して研修を受けると吸収力の大きさに驚きました。たかが八日間、されど八日間。濃密な八日間だったと思いました。</p> <p>A</p>

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげたS:目標を上回る成果をあげたA:おおむね目標を達成したB:業務に支障はないが、目標は下回ったC:目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価		
学校教育の充実	<p>(4)ICT教育推進【重点2】</p> <p>◇タブレット等ICT活用授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員派遣</li> <li>・メクビットの活用</li> </ul>	<p>○ICT支援員による支援が、各学校のタブレット端末の積極的活用につながっている。授業においては、個別学習が容易にできるようになり、児童生徒も操作に慣れ、学習意欲の向上につながっている。</p> <p>△2月末にはタブレット端末の入れ替えを完了するため、今後、学習等に支障が出ないよう研修会等を実施する。</p> <p>○文部科学省が推奨している問題演習等が容易にできる「メクビット」や、県教委が導入したデジタルドリル「キビタンシート」を積極的に活用するよう指導・助言をしている。</p> <p>△タブレット端末を利用するにあたっては、様々なトラブル等が発生しないよう情報リテラシーや情報モラルの指導を充実し、児童生徒に十分に理解させた上で、教職員が細心の配慮の下、使用させる必要がある。</p> <p>△各種学力調査のCBT化に対応するため、学年の発達段階や個に応じてタイピング能力の向上を図っていく必要がある。</p>	A	<p>○ICT支援員による支援が、各学校のタブレット端末の積極的活用につながり、児童生徒も操作に慣れ、学習意欲の向上につながっていることは大変望ましい。</p> <p>○ひとりひとり、あらゆる生徒の学習に対応するには、タブレット授業は不可欠だと思われます。ICT支援員の派遣支援が向上につながっているなら、成果が出ている証です。</p> <p>○タブレットの使用は、多くの子どもたちができていると思われる。力点を入れるべきは、情報リテラシーの育成と教員の教材開発能力の育成にある。外部の力を活用しながら、中長期的な視点をもって取り組むべき事項である。次年度以降の着実な取り組みに期待したい。</p> <p>○文部科学省が推奨している問題演習等が容易にできる「メクビット」や、県教委が導入したデジタルドリル「キビタンシート」を積極的に活用するよう指導・助言をして効果をあげて頂きたい。</p> <p>△情報リテラシーや情報モラルの指導を充実を図り、使用させることが今後ますます大切になってくると思います。</p>	A
	<p>②規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します</p> <p>(1)道徳教育の充実</p> <p>◇「特別の教科道徳」授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進委員会の活性化</li> <li>・地域素材や人材の活用</li> </ul>	<p>○道徳教育推進委員会を中心とした各学校の授業の充実に向け、今年度もモデル授業参観後に推進委員会を開催した。「考え・議論する」道徳の授業改善に向け、各委員が具体的なイメージを共有し、各学校の授業実践につなげるよう意欲付けを図ることができた。担任だけでなく、管理職や教員のローテーションによる授業により、道徳の授業の充実を図っている学校がある。</p>	A	<p>○道徳教育推進委員会を中心とした「考え・議論する」道徳の授業改善に向け、各委員が具体的なイメージを共有し、各学校の授業実践につなげている。また、担任だけでなく、管理職や教員のローテーションによる授業により、道徳の授業の充実を図っている学校があることは心強い</p> <p>○今後も期待したいと思います。</p> <p>○道徳教育に関しては、魅力的な実践をしている教職員や市民を、市としてしっかりと紹介・顕彰する姿勢を示すことが大切だと思う。教職員にとどまらず、子どもたちを含む市民を対象とすることで、市全体の意識の向上を図ることができると思う。</p>	A

令和7年度事業実施結果・評価

(夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげたS:目標を上回る成果をあげたA:おおむね目標を達成したB:業務に支障はないが、目標は下回ったC:目標を大幅に下回った

施策		内部評価		外部評価	
学校教育の充実	<p>◇心や行動の指針の共有・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「心の道標(みちしるべ)」の実践</li> <li>・「実践躬行5則」(中学生)「田村っ子のルール10」(園児・小学生)の実践</li> </ul>	<p>○心や行動の指針としての「心の道標(みちしるべ)」を校内掲示することにより、常に児童生徒・保護者の目に触れるようにしている。「実践躬行5則」「田村っ子のルール10」も、行動目標として学校だけでなく家庭でも具体的に教えることができ、生活の拠り所になっている。</p> <p>△更なる定着へ向けて、学校運営協議会と連携して、家庭への働きかけを強化していく必要がある。</p>	A	<p>○具体的なスローガンや、あるべき姿の明確は大切であると考えます。心や行動の指針としての「心の道標(みちしるべ)」掲示することは有効であります。また、「実践躬行5則」「田村っ子のルール10」も、行動目標として学校だけでなく家庭でも具体的に教えることができ、生活の拠り所にてできるよう啓蒙して頂きたい。</p> <p>○田村市のペースとなる「実践躬行5則」「田村っ子のルール10」の指針は素晴らしいものと感じております。子どもの頃から復唱など繰り返してれば、記憶に残り大人になっても心に留まるものと考えられます。</p>	A
	<p>◇情操教育への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽グレートレッスン</li> <li>・日本フィルハーモニー交響楽団演奏会</li> </ul>	<p>○プロからの専門的な指導を受ける機会を設けることで、各学校の合唱・合奏のレベルは大きく向上した。中学生とのコラボレーションによる日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会は好評で、市文化センターがほぼ満員だった。中学生のマーチングコンテスト全国大会や合唱コンクール東北大会の出場にもつながった。</p> <p>△プロの指導を受けるまでに一定程度の基礎的な技能の向上が、可能な限り各学校で進めておくと、より講師の指導の効果が見込まれる。</p>	A	<p>○プロからの専門的な指導を受ける機会を設けることで、各学校の合唱・合奏のレベルは大きく向上したことは素晴らしい。中学生とのコラボレーションによる日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会も素晴らしい。中学生のマーチングコンテスト全国大会や合唱コンクール東北大会の出場も大きなきっかけであったと思います。</p> <p>○「地域ふれあいコンサート」を今年も見学させて頂きましたが、プロのちょっとしたコツで格段に上達するのは間違いないですが、それについていく基本を備わっている事ができているかというのも今後の課題です。が、それにも増して思い出に残る体験をさせてもらったのは、子どもたちにとって貴重です。</p> <p>○プロからの専門的な指導を受ける機会を提供していただいたことに謝意を示したい。その道のプロから学ぶことは、子どもたちの成長の大きな糧となる。市の予算だけでなく、補助金・助成金、企業の社会還元事業などを活用し、音楽分野にとどまらず、さまざまな分野で協力いただけるような仕組みづくりを構築してほしい。</p> <p>△プロの指導を受けるまでに一定程度の基礎的な技能の向上が、可能な限り各学校で進めておくことは大事ですね。</p>	A

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげたS:目標を上回る成果をあげたA:おおむね目標を達成したB:業務に支障はないが、目標は下回ったC:目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価
学校教育の充実	<p>(2)読書活動の推進【重点5】</p> <p>◇読書意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書支援員配置による読書活動の充実</li> <li>・中学生ビブリオバトル大会の開催及び校内ビブリオバトル支援(知的書評合戦)</li> </ul>	<p>○図書支援員が学校図書館の環境整備をすることで、児童生徒が読書への関心を高め、利用しやすくなっている。また、情報センターとして、授業の内容と関連した利用がしやすくなっている。</p> <p>○中学生ビブリオバトル大会は、生徒の読書意欲の喚起に加え、表現力向上の一助となっている。</p> <p>△活字に触れて思考し、他と対話する経験を積ませていくためにも、読書をより多くの生徒に広げられるよう継続して働きかけていく必要がある。</p> <p>△本を1ヶ月に読んだ冊数は小学校7.5冊(R6:10.3冊)、中学校2.2冊(R6:2.3冊)と小・中学校共に減少している。また、本を1ヶ月に1冊以上読んだ児童生徒の割合は小学校98.8%(R6:98.5%)、中学校91.0%(R6:94.0%)で中学校で減少している。学習や心の教育の基盤ともなる望ましい読書習慣の形成に向けて、各学校に配慮されている図書費を計画的に活用して魅力ある図書購入を進めるとともに、家庭と連携した取組みの充実について指導・助言している。</p>	<p>B</p> <p>○図書支援員が学校図書館の環境整備をすることで、児童生徒が読書への関心を高め、情報センターとして、授業の内容と関連した利用がしやすくなっていることは望ましい。</p> <p>○毎年参観させて頂き、興味深く聞いています。今年も文化センターに行き、楽しく中学生ビブリオバトル大会に感心して帰ってきました。ますます読書意欲の喚起と表現力向上に役立ってほしいと願っています。</p> <p>○読書をしている子どもが前年度より減少している。残念である。子どもたちが読書をする一つの契機として、大人からの働きかけがある。教職員・保護者は果たしてどれくらい読書をしているだろうか。この層への働きかけがあってもいい。</p> <p>△本を1ヶ月に読んだ冊数は小学校7.5冊(R6:10.3冊)、中学校2.2冊(R6:3冊)と小・中学校共に減少しているとのこと。残念です。。また、本を1ヶ月に1冊以上読んだ児童生徒の割合は小学校98.8%(R6:98.5%)、中学校91.0%(R6:94.0%)で中学校で減少。読書習慣の形成は大きな課題です。</p> <p>○図書支援委員の方の活動の充実にもかかわらず、子どもたちの読書量が減っているのは遺憾です。只、第6回を迎えた「中学生ビブリオバトル」では回を重ねるごとにおもしろさが増して、中身が濃くなっていると感じました。</p> <p>○市民(個人、市内の企業・団体等)から、「面白かった本」「小学生で読んでほしい本」等の推薦図書を募るなど、市民を巻き込んだ形で本紹介の動きを展開し、児童生徒だけではなく市民全体に本を紹介したりすることも大切かなと思う。生涯教育との関連で考えることも重要であると思う。</p>

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげたS: 目標を上回る成果をあげたA: おおむね目標を達成したB: 業務に支障はないが、目標は下回ったC: 目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価
学校教育の充実	<p>(3)体力・運動能力の向上</p> <p>◇体力運動能力向上策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国体力・運動能力調査の実施・分析</li> <li>・田村地区小学校陸上競技大会の支援</li> <li>・陸上グレートレッスン(小中乗り入れ授業)</li> </ul>	<p>○体力運動能力調査の結果分析を通して明らかになった児童生徒の実態を、各学校の体力向上推進計画に生かすことができた。各学校とも体育の授業をはじめ教育活動全体を通して体力向上に取り組む機運が高まっている。</p> <p>○小学校陸上競技大会は校長会主催で実施しており、70名を超える係員が必要であるが、教育委員会からも支援することで、円滑な大会運営に寄与できている。市内児童の活躍についても直接確認できる良い機会となっている。</p> <p>○陸上グレートレッスンは、小中学校の連携により、中学校教員の乗り入れ授業が展開され、専門的な指導により小学生の運動技能の向上につながっている。また、小中連携の一つの取り組みとして、県大会で優勝し全国大会出場した中学校駅伝部の練習の様子を小学生に披露し、児童の体力向上の意欲を高めた学校がある。</p> <p>○令和7年度全国体力・運動能力調査の結果から、運動能力面について、小学5年男子は長座体前屈と50m走以外は全国平均を上回った。小学5年女子は上体起こしと長座体前屈以外は全国平均を上回った。中学2年男子は50m走は全国平均と同じで、その他の種目は全国平均を上回った。中学2年女子は握力、持久走、ハンドボール投げが全国平均を上回った。小学生は柔軟性に、中学生女子は筋力、全身持久力、疾走能力に課題が見られた。</p>	<p>A</p> <p>○体力・運動能力は一朝一夕には荒城が難しい。児童生徒の実態を、各学校の体力向上推進計画に生かし授業をはじめ教育活動全体を通して体力向上に取り組むようになったことは大変良いことです。</p> <p>○体力・運動能力の向上においては、健康な体づくりが基礎におかれるべきで、食育と関連した取り組みが大切だと思う。</p> <p>幼稚園・小学校段階では、遊びやゲームの要素を取り入れ体を動かすことの楽しさを感じさせたり、健康な体づくりに力点を置くことが重要だと思う。</p> <p>中学校では、競技力の向上を通じたチャレンジ意欲の創出といった面も見逃せないで、そのためにもスポーツ大会等を通じたモチベーションの向上と外部専門家の活用が必要かと思う。今後の取り組みに期待します。</p> <p>○私の現職時代は、一般教員だけで運営し大変だったと記憶しています。小学校陸上競技大会が校長自ら係員となったり、教育委員会が自ら支援することでみんなで運営する大会となり素晴らしいと感じます。</p> <p>○船引中学校駅伝部に代表されるように本市の体育が全県・全国レベルに近づいていることは素晴らしい。陸上グレートレッスンは、小中学校の連携により、中学校教員の乗り入れの指導により小学生の運動技能の向上につながったり、県大会で優勝し全国大会出場した中学校駅伝部の練習の様子を小学生に披露したりして、意欲が高まったりしていることはうれしいことである。</p> <p>○子どもたちの実態を分析し、向上に向けた取り組みを実践したからこそ、県大会・全国大会につながったのでしょう。本当に素晴らしいことです。</p> <p>○令和7年度全国体力・運動能力調査から、小学5年男子は長座体前屈と50m走以外は全国平均を上回り小学5年女子は上体起こしと長座体前屈以外は全国平均を上回り中学2年男子は50m走は全国平均と同じで、その他の種目は全国平均を上回り中学2年女子は握力、持久走、ハンドボール投げが全国平均を上回ったとのこと。各学校の努力が感じられて素晴らしい。</p> <p>○震災直後やコロナ禍の運動を制限されていた時期を思い返せば、調査の結果、全国平均を上回っている項目があるのはうれしいです。</p>

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげたS: 目標を上回る成果をあげたA: おおむね目標を達成したB: 業務に支障はないが、目標は下回ったC: 目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価		
学校教育の充実	(4)現代的諸課題の解決 ◇放射線・防災教育の充実 ・外部講師の活用	○放射線・防災教育には、専門的な知識が必要であり、「コミュニティふくしま」を活用した学習や外部講師を依頼して授業を行うことにより、児童生徒に発達段階に応じてわかりやすく伝えることができている。学校から問い合わせがあった場合には、講師の紹介をしている。	A	○「コミュニティふくしま」を活用した学習や外部講師を依頼して授業を行うことは専門家活用の観点からも推進してほしい。  ○今だに残る風評被害があっても、子どもたちには震災はもう昔の出来事になってきている。それでも放射線・防災教育は欠かせないものだと思う。「災害は忘れたころにやってくる」。頭の片隅に常に考えていて欲しいフレーズです。  ○放射線教育では、今後も「コミュニティふくしま」の活用を一層進め、子どもたちに視覚的にも実感できる学びを提供してください。	A
	◇SDGsに係る指導機会の計画的実施 ・関連指導の確実な実施	○指導計画に学習内容とSDGsを関連付けて明記したことにより、授業の中で取り上げられ、意識化が図られている。	A	○指導計画に学習内容とSDGsを関連付けて明記することは大切である。  ○意識化が図られているのは良かったです。	A
	◇健康教育の充実 ・肥満、齲蝕(うしょく)の解消と予防 ・給食センター栄養職員による食育の授業支援 ・個別的相談指導の充実 ・歯科及び思春期保健教室の開催	○学校ごとに肥満、齲蝕の実態についてまとめ、歯科教室等を計画的に開催したり個別の指導を継続したりして対策を立てて取り組んでいることから、一定の予防効果をあげている。  ○「肥満傾向児出現率」については、男子は小学1年生と中学1年生で、女子は小学1・4年と中学1・2年で県平均を上回った。ただし、令和6年度と比較すると、その他の学年では改善傾向が見られる。「う齲罹患率」については、小学校は昨年と同程度、中学校は大きく減少した。全国や県と比較すると依然として高いが、減少傾向にある。  △栄養職員による「食に関する指導」により、小・中学生の実態に応じて健康や成長に係る専門的な内容をわかりやすく指導されているが、望ましい食事量や栄養のバランス、塩分摂取量など家庭の協力が必要である。また、健康課題の解決には家庭との連携が不可欠であり、各学校とも学校だよりや個別のお知らせなどにより意識啓発に力を入れている。しかし、なかなか改善に結びつかない状況もあるため、学校運営協議会と課題等を共有して、家庭への働きかけを強化していく必要がある。	B	○学校ごとに肥満、齲蝕の実態から、歯科教室等の開催、個別の指導を継続、など対策を立てて取り組んで一定の予防効果をあげている事は評価できる。  ○それこそ歯みがきも食べることも、365日毎日のことです。学校では補いきれない事なので家庭での意識が最も重要で、連携して取り組んでいく事が不可欠です。 「食べる事は生きる事」口腔ケアも食の考え方も、子どもの将来像を見据えていって欲しいです。  ○肥満、齲蝕については、家庭の役割が大きい。家庭への働きかけをどうしていくかが重要。学校を通じてだけでなく、市全体として健康都市たむらを作り上げていく観点から、その一つの柱として取り組んでいくかが大きな課題と思う。  ○「肥満傾向児出現率」については、男子は小学1年生と中学1年生で、女子は小学1・4年と中学1・2年で県平均を上回ったが、令和6年度と比較すると、その他の学年では改善傾向が見られることは大変望ましい傾向であると思います。「う齲罹患率」については、小学校は昨年と同程度、中学校は大きく減少し、減少傾向にあることも評価できる。  △栄養職員による「食に関する指導」は是非各学校で実践してほしいと思います。専門的な内容をわかりやすく指導し、望ましい食習慣を家庭の協力により理解し実践につなげてほしいと思います。	B



令和7年度事業実施結果・評価

(夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価	
学校教育の充実	<p>◇高等学校段階までの切れ目のない支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中・高切れ目のない個別の教育支援</li> </ul> <p>(2)実効ある生徒指導の推進</p> <p>◇学校生活への基盤づくり支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U検査の活用・訪問支援</li> </ul>	<p>○小・中・高と切れ目のない個別の教育支援体制は整えられてはいる。中学校卒業後の情報については詳細に把握できてはいない。今後、他課とも連携し、可能な方法で情報収集に努めたい。</p> <p>○Q-Uテストの具体的な活用については、計画訪問時に学校の取組みを把握した。外部から講師を招いてテスト結果の分析を行い、日々の学級運営に生かしているという報告もあった。</p> <p>○令和7年度の結果では、「学級生活満足群」はどの学年においても全国平均を上回り、「非承認群」「学校生活不満足群」については、どの学年においても全国平均を下回っている。また、学校生活意欲を見ると、小学校においては、全国と比較して、「友人との関係」「学級との関係」が高く、中学校では「友人との関係」「学習意欲」「教師との関係」「学級との関係」が全国平均を大きく上回っている。</p> <p>○年度初めの年1回の調査を生かし、教育活動が展開できている。成果については、数値的エビデンス、個別事例群、アンケート調査といった多様な方法で検証を実施している。</p> <p>○不登校児童生徒にとってまごころ教室は学校以外の心の居場所の一つになっている。心の教室相談員・SC・SSWが一人一人に丁寧に寄り添って支援し、心の安定や学習への意欲を高める働きかけにより、不登校の未然防止や解消につながっている。</p> <p>△12月末現在の不登校数は、小学校が15人、中学校が41人であり、昨年度に比べ、小・中学校共に3人増となっている。引き続き、関係機関と連携し、組織を生かした対応を継続する必要がある。</p>	<p>A ○小・中・高と切れ目のない個別の教育支援体制が整えられてはいることは、児童生徒にとって大変望ましい事であると思います。</p> <p>○1年で終わりではなく、義務教育の間切れ目なくという体制が整っていることは素晴らしいです。</p> <p>A ○学校生活の充実は、日々そこで生活する児童生徒にとってこの上なく重要な事であり、Q-Uテストの具体的な活用を行い、日々の学級運営に生かしてほしいと願っています。</p> <p>○先生方や教育委員会のきめ細やかな取り組みが奏功している。今後も各種データも活用した分析と経験値を踏まえた指導を期待したい。</p> <p>○「学級生活満足群」はどの学年においても全国平均を上回り、「非承認群」「学校生活不満足群」については、どの学年においても全国平均を下回っているとのこと。また、学校生活意欲を見ると、小学校においては、全国と比較して、「友人との関係」「学級との関係」が高く、中学校では「友人との関係」「学習意欲」「教師との関係」「学級との関係」が全国平均を大きく上回っているとのこと。各学校での努力に敬意を表したい。</p> <p>○子どもたちが「学校が好きだ」という気持ちが表れていると感じました。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>
	<p>◇不登校の未然防止と支援【重要4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まごころ教室(学習・適応支援教室)を活用した不登校対応</li> <li>・心の教室相談員の配置、相談活動の拡充</li> </ul> <p>・SC, SSW派遣事業の活用</p> <p>・段階的生徒指導訪問支援(関係機関の連携強化)</p>	<p>○不登校児童生徒にとってまごころ教室は学校以外の心の居場所の一つになっている。心の教室相談員・SC・SSWが一人一人に丁寧に寄り添って支援し、心の安定や学習への意欲を高める働きかけにより、不登校の未然防止や解消につながっている。</p> <p>△12月末現在の不登校数は、小学校が15人、中学校が41人であり、昨年度に比べ、小・中学校共に3人増となっている。引き続き、関係機関と連携し、組織を生かした対応を継続する必要がある。</p>	<p>B ○心の居場所が、不登校児童生徒にとって必須です。まごころ教室はその大切な場所であるとのこと。学校とともに心の教室相談員・SC・SSWが一体となって支援し、心の安定や学習への意欲を高めるようご努力願います。</p> <p>○「あなたは一人じゃないよ」という意識づけが大事で、SCさん、SSWさんに寄り添っていただけるサポートに期待します。</p> <p>○不登校については、数値の増減ではなくどのような対応をしているのかが大事なところ。心の教室相談員・SC・SSWが一人一人に丁寧に寄り添って支援しているのであれば、低く評価する必要はないと思う。</p> <p>△12月末現在の不登校数は、小学校が15人、中学校が41人であり、昨年度に比べ、小・中学校共に3人増とのこと。引き続き、関係機関と連携し、組織を生かした対応を継続を願います。</p> <p>○不登校の要因をどのように分析し対応しようとしているのかが知りたい。</p>	<p>B</p>

令和7年度事業実施結果・評価

(夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげたS:目標を上回る成果をあげたA:おおむね目標を達成したB:業務に支障はないが、目標は下回ったC:目標を大幅に下回った

施策		内部評価		外部評価	
学校教育の充実	<p>◇いじめの未然防止と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ定期調査の実施</li> <li>・いじめ早期解決支援</li> </ul>	<p>○いじめの定期調査では、令和7年度4月から10月までのいじめ認知件数は178件となっており、昨年度と比較して57件減となっている。特に中学校で34件減となっている。今後も、いじめの早期発見、早期解決に向けて、各学校の丁寧な対応について、市教委としても指導を継続していく。</p>	A	<p>○いじめの定期調査では、昨年度と比較して57件の減少が見られるとのこと。努力に敬意を表します。令和7年度4月から10月までのいじめ認知件数は178件。特に中学校で34件減。今後も、いじめの早期発見、早期解決に向けて、努力願いたい。</p> <p>○減になる事は良いことです。</p> <p>○いじめについては、問題を軽視しない姿勢が最も大切で、早期発見早期対応が重要。市は、いじめ問題解決に取り組む教職員を支援する体制づくりに一層努めていただきたい。</p>	A
	<p>(3)小学校キャリア教育の充実</p> <p>◇小学校キャリア教育の具体的計画推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立中学校の資料収集と指導支援</li> <li>・小学校段階の進路指導・キャリア教育(ウインターチャレンジキャンプ)</li> </ul>	<p>○教育委員会が、校長会議・教頭研修会の折に指導することで、小学校における進路指導を積極的に進めようとする意欲が高まってきている。全ての児童の学習意欲の喚起と学習習慣の確立に向けた契機になっている。</p> <p>○教育委員会が、希望する小学生を対象にウインター・チャレンジ・キャンプを2回開催し、つまずきやすい内容の克服や、難易度の高い問題へ取り組ませ、中学校進学等を見据えた学びの機会となった。</p>	A	<p>○生涯を通したキャリア教育が、小学校段階から計画的に実施されつつあり大変心強く感じます。自分がどう生きるかを発達段階に応じて考えることは適切な進路指導に繋がると期待いたします。</p> <p>○個に応じた指導のため、希望する小学生を対象にウインター・チャレンジ・キャンプを2回開催し、難易度の高い問題へ取り組ませ、中学校進学等を見据えた学びの機会を設定したことは意義がある。</p> <p>○子どものやる気を引き出しってもらうのに、大いに役立っている企画だと思われれます。</p>	A
<p><b>④地域と共にある学校教育を実現します</b></p> <p style="text-align: right;">【基本】</p> <p>(1)開かれた学校づくり</p> <p>◇教育活動の積極的な公開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りやホームページの活用及び授業公開</li> </ul> <p>◇学校評価による学校運営の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己評価の公開</li> <li>・学校関係者評価の公開</li> </ul>		<p>○各学校では、学校だよりを定期的に発行するとともに、ホームページ記事更新数が増加し、学びの様子を積極的に発信している効果が出てきている。授業公開や授業参観のほか、研究授業にも学校運営協議会委員に来ていただくよう案内する学校も増えてきた。</p> <p>○各学校では、学校自己評価、学校関係者評価が確実に遂行され、評価結果の公開も行っている。引き続き、学校評価をいただく学校運営協議会委員に対して、学校の取り組みを見ていただく機会を更に増やすなど、日常的に教育活動を参観できる体制整備や働きかけをしていく。</p>	A	<p>○各学校では、学校だよりを定期的な発行、ホームページ更新数など開かれた学校の発信が見られ努力が感じられる。</p> <p>○保護者の働き方も多様化している昨今、学校側で発信している事からは、親にとっては身近に感じやすいのではないかと思います。</p> <p>○「学校だより」、「学校HP」の内容が充実してきている。学校からの情報発信はうまくできている。</p>	A
		<p>○各学校では、学校自己評価、学校関係者評価が確実に遂行され、公開も実施されていることは素晴らしい。</p> <p>○まさに開かれた学校づくりだと思われれます。</p> <p>○学校運営協議員だけでなく、保護者を含む市民の目をどう学校の教育活動に向けさせるかが今後の課題だと思われる。</p>	A		A

令和7年度事業実施結果・評価

(夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげたS:目標を上回る成果をあげたA:おおむね目標を達成したB:業務に支障はないが、目標は下回ったC:目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価		
学校教育の充実	(2)コミュニティ・スクール制度の充実 ◇学校運営協議会の充実(年間計画・熟議等) ・学校運営協議会委員の研修 ・学校運営協議会の協議内容の共有の場の設定	○学校または中学校区単位の学校運営協議会は定着し、計画的に会議を開催するようになっている。昨年度の情報交換会を契機に、協議会の回数を増やしたり、熟議を行ったりする協議会が増えている。  ○情報交換会として、船引南地区の実践発表や、CSマイスターを招聘してミニ熟議や講演を行ったことで、学校運営協議会委員としての役割について学んだり、各地区の協議会の活性化について考えたりする機会を提供できた。	A	○学校運営協議会が定着し、計画的に会議を開催されていることに敬意を表します。  ○通学路の安全点検など実際に足で歩いて、子ども目線で確かめるなど、車を運転していて気付かない事が、回ることで認識されたのは意義があったと思います。  ○コミュニティスクールは、良好な形で展開されていると思う。一方で、学校運営委員は比較的年齢層が高い方が任命されているケースが多いのではないかと。今後は、若い年代の方、現役世代の方に入っていただくことが求められる。  ○学校に大きな負担が生じないような学校運営協議会になるよう希望します。	A
	(3)地域と連携したキャリア教育の充実 ◇郷土に貢献できる人材育成 ・こども議会 ・中学生T2プロジェクト	○小・中学生が議員となって質問内容を具体的に考え、議場で質問することで、議会についてのより実践的な学びとなった。議会をより身近なものとして、今後関心をもって情報を得るようになることが期待できる。市当局にとっても、児童生徒の生の声を聴く良い機会になっている。  ○T2プロジェクトは、中学生が自分たちの住んでいる田村市の「未来」にかかわる正解のない問題について、主体的に創造力を生かして考える貴重な機会となった。また、カリフォルニア大学教授との英語による対話は、貴重な経験となった。さらに、Jリーグ事務局や経産省で活躍している方から経験談を聞く機会を設けたことにより、将来への夢や希望を膨らませる生徒の姿が見られた。	A	○今年も、子ども議会を見学する機会を頂き、楽しみに議場に赴きました。小・中学生議員が質問内容を具体的に考え、議場で質問することで、議会についての深い理解ができたように感じました。市長始め幹部が真摯に答弁する姿に感動しました。子どもたちにとって、考えを深めると途に素晴らしい経験になったと感じました。  ○子どもたちの真面目な取り組みに毎年感心させられます。駅の活用法など、今すぐ実践できそうな提案に感心いたしました。  ○子どもたちが本物に触れる機会がしっかりと提供されており、いい刺激になっていると思う。このような機会を多くの子どもたちに数多く提供して欲しい。	A
	◇総合的な学習の時間による地域学習 ・地域素材による地域理解 ・地域人材活用によるキャリア教育	○地域学習を各校で教育課程に位置付けて実践することで、キャリア教育の一環として定着し、児童生徒の身近な生活環境を知る機会になっている。また、地域と共にある学校づくりにもつながっている。  ○地域で育てていくという意義が、学校と家を往復するだけの子どもたちにとって、地域学習を受けることにより、愛着が芽生えてくれることに期待します。	A	○現在、自分の地域さえもよくわかっていない児童生徒が多い。その時期に、児童生徒の身近な生活環境を知る機会として、地域と共にある学校づくりになっていて貴重である。	A

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげたS:目標を上回る成果をあげたA:おおむね目標を達成したB:業務に支障はないが、目標は下回ったC:目標を大幅に下回った

施策		内部評価		外部評価	
学校 教育 の 充 実	(4)特色ある教育に向けた家庭・地域との連携充実 ◇地域ボランティアの積極的活用 ・地域学校協働本部事業との連携 ・学習支援ボランティアの活用	○各学校が、地域学校協働本部(教育活動地域協議会)に、学習活動をより充実させるためのボランティアを依頼する体制は確立された。学校からの要請にできるだけ応じられるようコーディネーターを中心とした地域の受け入れ態勢も充実してきている。	A	○各学校が、学習活動をより充実させるためのボランティアを依頼する体制は確立され、コーディネーターを中心とした地域の受け入れが充実していることはうれしいことである。	A
	◇危機管理情報伝達体制の活用 ・緊急時「eメッセージ」メール配信システム活用 ・情報セキュリティポリシーの遵守	△地域によりボランティアを依頼する頻度には差がある。協議会ごとに連携を深めることで、より地域の実態に応じた教育活動が実践されていくことが期待できる。また、学校運営協議会との役割の確認や連携強化も必要である。  ○メール配信システムが各学校とも整備され、緊急時の保護者への迅速な連絡や注意喚起の手段として有効に活用されている。  △セキュリティポリシーガイドラインについて各学校に周知徹底を図るとともに、ICT技術の発達が著しいということを念頭において常にアップデートしていく必要がある。	A	○新しい時代を感じます。メール配信システムが各学校とも整備され、緊急時の保護者への迅速な連絡や注意喚起の手段として有効活用されていることは素晴らしい。  ○eメッセージ配信は保護者にとって、とっても助かっているアイテムだと思います。  ○システムの維持管理、改善については、行政の果たすべき役割が大きい。計画的に適切な執行に努めていただきたい。	A

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげたS:目標を上回る成果をあげたA:おおむね目標を達成したB:業務に支障はないが、目標は下回ったC:目標を大幅に下回った

施策		内部評価		外部評価	
学校教育の充実 ⑤教職員の資質向上を図ります (1)教職員の指導力向上 ◇教育力向上のための教員研修体制の充実 ・田村市学力向上ラウンドテーブルの開催 ・教員短期派遣研修 ・専門研修派遣事業の推進 ・教育講演会の開催(学力調査官招聘) ・計画及び要請訪問の実施  ◇学力向上推進会議の充実 ・学校教育指導委員による授業研究(教科調査官等招聘) ・田村市共通テストの作成と分析及び改善策提案	○教員短期派遣研修、専門研修派遣事業は、市内教員の指導力向上の意識改革に効果を上げている。先進的な取り組みを学ぶ良い機会となり、派遣教員自身の研鑽の下、授業改善が進んでいる。	A	○教育の向上は、教員の資質向上なくしては実現されないと思います。教員短期派遣研修、専門研修派遣事業は、市内教員にとって素晴らしい取り組みであると思います。  ○専門的な事はわかりませんが、研修や派遣など先生方の努力に感謝します。  ○多くの教職員は、授業づくりの大切さを実感しているし努力している。教委にはそのサポートをぜひお願いしたい。各県、各地域の優秀教員の授業実践や教育専門家の指導などを提供してほしい。オンライン動画でも十分に役立つはずである。教職員が、授業づくりや生徒理解のための情報交換ができる時間確保も大事である。	A	
	○文部科学省学力調査官等による教育講演会において、算数・数学科の学習指導要領の趣旨の解説や、全国学力学習状況調査の結果に基づく英語科の授業改善について聞くことができ、それぞれの教員が自身の授業や指導を振り返る良い機会となった。授業改善に取り組む意欲を高める講演となった。  ○計画及び要請訪問において、市教委指導主事が直接授業参観をして教員を指導することで、指導内容の捉え方や児童生徒へのかかわり方など授業者自身の指導力を高めることができた。特に初任者は、深く教材研究をし、日々の授業を進める上で自信を深める良い機会となった。  △時間外勤務が多くなったり教員の負担感が増すようになってきたりしないよう、管理職が積極的に授業づくりに関わるよう折に触れて指導助言している。	○学校教育指導委員による授業研究会を行ったことにより、委員自身の指導力が磨かれ、市内及び校内のリーダーとしての自覚を高めることができた。また、教科調査官の指導をいただき、質の高い授業の在り方を学ぶ機会ともなった。  ○共通テストの作成により、教師が児童生徒にどのような資質・能力を付けさせたいかを確認することができ、日々の授業において着地点を明確にした授業づくりへの意識を高めることができた。	A	○最先端の情報として、基本的な重要な情報として、文部科学省学力調査官等による教育講演会、算数・数学科の学習指導要領の趣旨の解説や、全国学力学習状況調査の結果に基づく英語科の授業改善について聞くことができたことは素晴らしい。  ○現場の教員にとって、指導主事から直接授業参観により指導をうけることは、教員としての資質向上に直結すると思います。授業者自身の指導力を高めることになっています。初任者には、自信を深める良い機会となったことは今後の宝物になることでしょう。  △管理職者の考えと姿勢が問われることと思います。時間外勤務が多くなったり教員の負担感が増すようになってきたりしないよう、管理職が責任をもってほしいと感じます。	A

令和7年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施策		内部評価		外部評価	
学校教育の充実	<p>◇専門研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校・いじめ問題対策研修会</li> <li>・特別支援教育担当者会</li> <li>・保幼小中教諭等研修会</li> <li>・ICT教育研修会 (文科省GIGAスクール推進課招聘)</li> <li>・常勤講師研修会</li> </ul>	<p>○学校が抱える課題に適切に対応するためには、教員一人一人の力量を高める必要があることから、市教委が主催して行っている研修の役割は大きい。</p> <p>△不登校やいじめ、特別支援教育、ICT教育など複雑化・多様化する問題がある中で、日々求められる専門性を磨くことができるよう研修内容を検討し、更に充実させていく必要がある。</p>	A	<p>○学校が抱える課題に適切に対応するためには、教員一人一人の力量を高める必要があることから、市教委が主催して行っている研修の役割は大きい。</p> <p>○「市教委が主催して行っている研修の役割は大きい」。その通りだと思います。こちらもバージョンアップをお願いします。</p> <p>○研修を重ねて行く事により対応の仕方の幅も広がるので、研修の役割に期待しております。</p> <p>△不登校やいじめ、特別支援教育、ICT教育など複雑化・多様化する問題がある中で、日々求められる専門性を磨くことができるよう研修内容を検討し、更に充実させていく必要がある。</p>	A
	<p>(2)教職員服務倫理の確立と働き方改革の推進</p> <p>◇不祥事根絶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内相談体制の構築</li> <li>・服務倫理対策委員会の充実</li> </ul>	<p>○各学校において相談体制が整備されており、教員が不安や悩みがあっても、一人でストレスを抱え込むことなく勤務できている。</p> <p>○校内服務倫理対策委員会において、当事者意識や職場のセーフティネットの機能を高めるための取り組みが行われており、不祥事防止に向け職員同士が互いに声を掛け合う姿が日常的に見られている。</p> <p>△服務倫理対策委員会が形骸化することのないよう、引き続き、教職員一人ひとりが自分事として捉えるための工夫が必要である。</p>	A	<p>○教員は精神科疾患が危惧される職業です。相談体制が整備され、教員が不安や悩みがあっても、一人でストレスを抱え込むことなく勤務できるよう配慮願います。</p> <p>○教師といえど一人の人間であることには間違いないので、ストレス、悩み、不安など相談体制が整っていることは頼もしいです。</p> <p>○不祥事防止は、日常的な教職員間の会話が非常に重だと思ふ。教委や管理職は、学校現場における教職員の会話づくりの醸成に努めることが求められる。</p> <p>○教育は保護者・地域との信頼なくしては成り立ちません。服務倫理対策委員会等で、不祥事防止に向け職員同士が互いに意識を高めるよう指導願います。</p>	A

令和7年度事業実施結果・評価

(夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価
学校教育の充実	<p>◇勤務の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動地域展開推進委員会(部活動の在り方検討委員会)の継続開催</li> <li>部活動地域展開合同練習会の開催(10回程度)</li> <li>校務支援システムの活用促進・共有</li> <li>勤務実態の把握と勤務適正化への指導・助言</li> </ul>	<p>○部活動の地域展開に向けて、地域の指導代表者等を交えての話し合いが充実してきている。4月から3回実施した体力づくり等を中心とした練習会の反省をもとに、再度、委員会で話し合い、地域指導者も加えた種目ごとの練習会に変更して実施し、田村市の実態に基づく地域展開へ向けて着実に取り組みを進めている。</p> <p>△教職員の勤務の適正化と関連付けながらも、生徒が満足する、そして、継続可能な部活動の在り方について、さらに協議を深めていく必要がある。</p> <p>△時間外勤務時間がなかなか減らない実態もあることから、市教委としても教職員の勤務実態をしっかりと把握し、勤務の適正化に向けて引き続き指導助言していく必要がある。</p>	<p>A</p> <p>○勤務の適正化については、教育委員会と各学校の管理職者の意識と指導にかかっていると看しても過言ではないと考えております。思い切ったスクラップ&amp;ビルドにより適正な勤務にしていきたいと願っております。</p> <p>○少子化の為、部活動の今後の在り方も問題山積みですが、関係者との話し合いでいい方向に向かってくれる事を期待します。</p> <p>○教職員の勤務の適正化は、国・県・市への報告事項の精選が不可欠。不断の見直し・検討が必要。また、授業づくりや生徒指導の時間確保のためには、校務支援システムの一層の整備が重要で、PCによる報告・連絡事項の自動化、定型化を進めていく必要がある。</p> <p>○部活動の地域展開に向けて、学校そして地域指導者も加えた会議により適正な地域展開がなされるよう臨みます。</p> <p>△教職員の勤務の適正化と、生徒の満足、そして、継続可能な部活動の在り方は今後の大きな課題です。</p> <p>△時間外勤務時間がなかなか減らない実態もあることから、市教委としての強い指導を期待いたします。</p> <p>A</p>

令和7年度事業実施結果・評価

(市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
青少年の健全育成	<p>① 青少年の健全育成を図ります【基本】</p> <p>(1)青少年の健全育成の体制充実及び活動支援</p> <p>◇ 青少年健全育成市民会議の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少年の主張大会の開催</li> <li>・体験活動の実施</li> </ul>	<p>○7月26日「少年の主張大会」を文化センターで開催(市内小中学校代表13名が発表)。</p> <p>主張大会を計画的に実施、児童・生徒たちの表現機会を確保、一定の来場者があり地域の青少年育成に資する基盤を維持できた。</p> <p>○9月に自然体験会、12月にお仕事体験等の活動を実施し、幼児から中学生まで幅広い年齢層を対象にした体験機会を提供。内容は実践的で教育効果が高く、将来的な地域関係性や地域文化理解の醸成に寄与する。</p> <p>○改善点・今後の取組としては、参加者層の拡大と継続参加の促進が必要。特に中学生以外の年代(小学生低学年や保護者層)の参加促進と地域間の偏在是正に向け、校内事前学習や地域ボランティアによる導入支援等の強化を検討する。</p>	A	<p>○「少年の主張大会」を見学させていただき、大変感銘を受けました。将来の田村市を背負うであろう若者のフレッシュな主張を聞くことができ頼もしく感じました。小中学生に貴重な経験になったとおもいます。次年度以降も継続したいと思います。</p> <p>○夕涼みの時間帯に開催された事は賛同です。</p> <p>○「少年の主張大会」の参加者を増やすために、単独開催ではなく、別のイベントとの同時開催などを検討してみるのはどうだろう。</p> <p>○お仕事体験等は将来の自分の姿が具体化されたりするきっかけになりうるので、良いと思います。</p> <p>○中学校時に、本物に触れることは生徒にとって大きな意味を持つ。その意味で、鑑賞会は非常に有意義な取り組みである。今後も継続していただければと思う。</p>	A
	<p>(2)小中学生の健全育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校芸術鑑賞教室の開催</li> </ul>	<p>①小学生(5・6年生・484人演劇鑑賞「パンキン!-模擬原爆の夏-」)</p> <p>②中学生(2年生・233人「爆笑!東西どろんこ寄席」)</p> <p>鑑賞した児童生徒からは、生の舞台芸術等を鑑賞する機会を得て、芸術・文化に対する関心の高まりを表すアンケート結果が数多く寄せられた。</p>	A	<p>①小学生の演劇鑑賞「パンキン!-模擬原爆の夏-」)</p> <p>②中学生の「爆笑!東西どろんこ寄席)いずれも生の鑑賞を受けることができ子ども達に貴重な経験になりました。予算の制約もあると思いますが、時代を担う子どもたちの豊かな感性を培うためにも、生の舞台芸術等を鑑賞する機会を与えて頂きたいと思います。</p> <p>○芸術鑑賞教室は本物を見る、聞く、触れる、体験するという経験を通して心が育まれるのだと感じました。</p>	A
生涯学習の充実	<p>② 生涯学習の充実を図ります【基本】</p> <p>(1)リカレント教育(学びなおし)の充実</p> <p>◇ たむら市民大学「たまり」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジョイライフ支援(生きがい)</li> <li>・講師の募集・育成</li> </ul>	<p>○市民大学「たまり」を継続実施。前期14講座に192名、後期14講座に189名が参加。学習ニーズ調査を実施し、その結果を踏まえた講座企画を展開、高齢期の生きがい形成や地域参加の支援を実施した。また、新規講師公募や講師向け支援(運営補助、研修機会の提供等)を行った。</p> <p>○一方で、受講者層の拡大(若年層・働き世代の参加促進)に向けた時間帯・テーマ設定導入を検討する。講座の継続受講率や学習成果の定量的把握の仕組み(フォローアップ調査等)を整備する必要がある。講師育成の恒常的な仕組みを制度化し、外部専門家等と連携したネットワーク構築を推進する。講師の質を担保する評価指標の導入も検討していく。</p>	A	<p>○昨年に引き続き、市民大学「たまり」をが継続実施され、前期14講座に192名、後期14講座に189名が参加されたことは喜ばしい。</p> <p>○私も「歴史講座」「和算講座」をはじめ可能な限り参加いたしました。妻も4つの講座に入構し夫婦二人で6個の楽しみを感じながら参加しました。市内の高齢者の生きがい形成や地域参加に大きく寄与している事業であると感じています。</p> <p>○受講者層の拡大に向けた時間帯・テーマ設定導入の検討。講師育成は大きな課題であります。講師の人数確保と質の担保は難しいですね。</p> <p>○市民大学「たまり」は、魅力的な講座が増えてきた。参加者増のためには、若者世代が参加したいと思う講座の設定が大切であり、講師発掘が生命線である。市内在住者が講師になるのが本義であるが、魅力的な講師であれば、市外の力を積極的に活用して市民大学「たまり」の起爆剤とすることも考えられるのではないかと思います。</p> <p>○リカレント教育に参加したい人は、その方の精神的、物理的余裕がないと、なかなか参加しづらいのかなと思われ、若年層などの拡大には難しい問題だと感じました。</p>	S

令和7年度事業実施結果・評価

(市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施策	内部評価		外部評価
<p>生涯学習の充実</p> <p>(2)生涯学習拠点の充実 ・生涯学習等複合施設の整備方針の検討</p>	<p>○令和9年度までの都市再生整備計画に続く、新たな計画の策定後に着工する予定として、財政状況を見据えながら、基本構想の見直しに向けた素案の検討等を進めている。</p>	B	<p>○是非ぜひ、早期の完成に向けてご努力頂きたい。令和9年度までの都市再生整備計画に続く、新たな計画の策定後に着工する予定とありますが、高齢化のますます進む中、市民のニーズは増すばかりです。</p> <p>○予算等難しいです。</p> <p>○生涯学習等複合施設は、言葉を聞くだけにどまっておき、全体像が見えてこないので評価が難しい。</p>
<p>③ 地域に遺された文化財の保存と継承を図ります</p> <p style="text-align: right;">【基本】</p> <p>(1)文化財の保存と継承 ・文化財保護審議会の開催と文化財等研修会への参加 ・指定文化財の防災訓練と防火査察の実施 ・指定文化財の周知 ・田村市史シリーズの継続発行 ・無形民俗文化の保存と伝統芸能の継承</p> <p>(2)文化施設の整備と充実 ・歴史民俗資料館の活用促進</p> <p>(3)文化財の調査と活用 ・遺跡調査出土品のデジタル化と保存</p>	<p>○文化財保護審議会の開催し、文化財関連の審議・助言を実施。文化財等研修会等への参加を通じ関係職員の知見向上を図った。</p> <p>○指定文化財に対する防災訓練および防火査察を実施し、地域周知の取り組みを継続。</p> <p>○指定文化財のPRとともに田村市史シリーズの企画を通じ地域資料の整備・発信を行った。</p> <p>○無形民俗文化財の保存・継承支援として、伝統芸能団体への補助や継承支援を実施。</p> <p>○無形文化財の担い手不足・高齢化対策は喫緊の課題であり、学校連携による若年層の体験機会創出、継承記録(映像・技術記録)の作成、若手支援制度の強化を進める必要がある。</p> <p>○江戸時代後期の農家住宅を移築復元した建物に、人々の暮らしを支えた生活道具等を常設展示。併設する「平和祈念資料展示室」とともに遠方からの来館者もあった。</p> <p>○展示の更新や体験型展示の導入、学校向け教材開発などにより教育的な活用方法を検討していく。</p> <p>○文化財保存施設の整備については、保存すべき資料が増えていく一方で、保存先が分散して管理しにくい状況もあるので、引き続き全体的な整理を進めていく。</p> <p>○埋蔵文化財包蔵地台帳を整理するとともに、出土品のデジタル化の進展について引き続き検討を行った。</p>	A	<p>○私も全く微力と力不足ながら、文化財保護審議会に参加させていただき、文化財関連の審議を行ってきました。</p> <p>○一度消滅したものはもとに戻らないことをあの大水害時に経験しました。是非ダメになる前に貴重な文化遺産を残せるための施設を重ねて希望いたします。</p> <p>○内部評価にあるように、早急に「学校連携による若年層の体験機会創出、継承記録(映像・技術記録)の作成、若手支援制度の強化を進める必要」があります。デジタル化の推進は不可欠だと思います。</p> <p>○後継者の問題はどの分野も厳しいですが、若手の支援の充実をお願いします。</p> <p>○歴史資料館は、江戸時代後期の農家住宅を移築復元した建物、そして、人々の暮らしを支えた生活道具等を常設展示され、生きた歴史教材になっており、各学校での活用を願いたい。また併設する「平和祈念資料展示室」を見学しましたがこれまた、貴重な資料であると感じています。</p> <p>○昨年度とあまり状況が変わっていないように思われます。歴史民俗資料館の来場者の推移はどうなっているのでしょうか。また、文化財保存施設の進捗状況はどうなっているのでしょうか。</p> <p>○文化財保存施設の整備については、資料の増大と管理と難しい状況でもあり、引き続き努力願いたい。</p> <p>○保存、維持、管理にはそれなりの費用もかかるので、引き続きの助成を今後もお願いしたい。</p> <p>○貴重な文化財に関して埋蔵文化財包蔵地台帳の整理と、出土品のデジタル化の進展がなされ大変望ましい。</p> <p>○デジタルで保存状態が分かるのは、画期的です。</p>

令和7年度事業実施結果・評価

(市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施策	内部評価	外部評価
<p>生涯学習の充実</p> <p>(4)デジタル文化資源の活用 ・デジタル文化資源の公開</p>	<p>○古文書デジタル化(石井家文書約2,000点等)の継続的な取組を推進。デジタル文化資源の公開に資する準備を進めた。</p> <p>○デジタル公開の使いやすさに配慮しながら今後のホームページ公開の準備を行った。</p>	<p>A ○私も全く微力ながら、古文書デジタル化(石井家文書約2,000点等)に参加させていただき、江戸時代のこの地域の生の実態を感じさせていただいています。素晴らしい取り組みであり、継続的しながら、デジタル文化資源の公開に資することを期待しています。</p> <p>○デジタル化が進んだことは、良かったです。</p> <p>○埋蔵文化財包蔵地台帳を整理や、出土品のデジタル化の進展に関する検討状況がどうなっているのか。進行状況がわからない。</p>
<p>④ 図書館利用促進を図ります</p> <p>(1)図書館の機能充実 ◇利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実 ・ニーズに合わせた蔵書の充実 ・蔵書検索等の利便性向上 ・図書館ボランティアの育成推進</p> <p>・テーマ、年代別図書コーナーの設置 ・自主事業の充実</p> <p>(2)田村市子ども読書活動推進計画 ◇計画の推進 ・読書に親しむ機会の提供 ・読書環境の整備</p>	<p>○リクエスト等、利用者のニーズにも寄り添いつつ、蔵書全体のバランスや社会の動向も考慮しながら計画的に新刊図書を購入。</p> <p>○検索スペースのパソコン配置と検索の容易さ、スマートフォンからの検索への対応等の利便性向上を継続的に取り組んでいる。</p> <p>○読み聞かせ等のボランティア育成や支援、スキルアップのために講座、研修会を開催。 図書館事業の全般にわたりボランティア活動を通じて社会貢献意思のある方々の受け入れ、人材発掘や育成をめざし、「田村市図書館ボランティア受入れ実施要綱」を制定。事業支援や業務支援等、幅広く受け入れていく。</p> <p>○各年代や高齢者、障害のある方などが利用しやすいコーナーを設置。季節や時事などをテーマに書籍の魅力をアピールする展示を定期的実施。</p> <p>○季節ごと(春4/26・夏7/26、8/23・冬12/20)に特別おはなし会を実施。 ▽本館では毎月第1・第3金曜日に乳幼児と保護者を対象に定例おはなし会を実施。 ▽分館は月1回程度、おはなし会を実施。 ▽書籍、図書館に関心を高めてもらうための情報(豆知識等)をホームページに掲載。</p> <p>○子どもの読書率向上には、学校と図書館の更なる連動(カリキュラム連携、出前図書館)や家庭向け啓発の強化に資する施策を検討する。併せて、ボランティアの担い手確保と継続的な研修、読み聞かせの質向上のためのプログラム等を展開していく。</p>	<p>A ○利用者のニーズと、社会の動向を考慮しながら計画的に新刊図書を購入されていることは望ましい。</p> <p>○毎月の広報誌の最後の方のページに新刊やおすすめが書いてあるので、図書館に行ってみようかなという思いにつながります。</p> <p>○田村市は本屋さんが少ないので、図書館の果たす役割には非常に大きい。児童・生徒の学力向上とも密接につながっている。固定観念にとらわれず、学校との連携、本屋さんとの連携などや、イベントなどを通して図書館を身近に感じ集う方法なども模索する必要があると思う。</p> <p>○検索のパソコン配置と検索の容易さ、スマートフォンからの検索など利便性向上への取り組みも継続願いたい。</p> <p>○私の妻も読み聞かせボランティアに参加させていただき生き甲斐をもって活動しております。 図書館事業へのボランティア活動を通じて社会貢献したい方々の受け入れ、人材発掘や育成を継続願いたい。</p> <p>A ○季節ごとに特別おはなし会を実施したり、本館では毎月第1・第3金曜日に乳幼児と保護者を対象に定例おはなし会を実施したりと活動されていることは望ましい事です。</p> <p>○子どもの読書率向上のため、学校と図書館の連動(カリキュラム連携、出前図書館)や家庭向け啓発の強化に資する施策を検討など継続願いたい。</p> <p>○読み聞かせなどは幼児の頃から好きなものなので、それが読書意欲につながってくれば幸いです。</p>

令和7年度事業実施結果・評価 (市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
生涯学習の充実	<b>⑤ 生涯・競技スポーツの振興を図ります</b> <b>【基本】</b> (1)中学校部活動支援 ・地域スポーツ団体による中学校部活動支援	○国の方針が変更されたことに伴い、「部活動地域展開」に事業名を改め、体力づくりやニュースポーツへの取り組みを中心に練習会が実施された。  ○休日の部活動展開に資する人材確保に向け、市体育協会から人材の推薦を受けた。具体的に進むべき方向を見極めつつ、それぞれのニーズとマッチングしていく。	A	○国の方針が変更され「部活動地域展開」に事業名を改められ、地域で中学校部活支援がなされることに時代の変化を感じます。  ○人口減少、少子化が進む中において、部活動は学校内だけで完結できなくなっており、地域スポーツへの移行は必然的な流れである。技術指導だけでなく教育的配慮ができる地域の人材をどのように発掘し活用していくのかが問われている。  ○スポーツ、芸術活動の成果は、地域に活力を与えるものなので、そのサポートを含めて今後の施策に期待したい。  ○部活動をはじめ教育は正に指導する人材にかかっています。その材確保に向け、市体育協会と連携し人材の推薦を受けることは大変望ましいことと思います。  ○体制が整うことに期待します。	A
	(2)競技スポーツの振興 ◇市代表によるスポーツの振興 ・市町村対抗野球大会、ソフトボール大会、ふくしま駅伝参加準備・運営・連絡調整	○市町村対抗野球大会 ▽市野球協会に市代表チーム運営を委託。(代表、コーチ、選手、スタッフ30名) <input type="checkbox"/> 1回戦(9/14)…田村市5-4塙町 <input type="checkbox"/> 2回戦(9/23)…田村市2-10相馬市 ○市町村対抗ソフトボール大会※第3位 ▽市ソフトボール協会に市代表チーム運営を委託。(代表、コーチ、選手28名) <input type="checkbox"/> 2回戦(10/12)…田村市7-0南相馬市 <input type="checkbox"/> 3回戦(10/12)…田村市10-2伊達市 <input type="checkbox"/> 準々決勝(10/18)…田村市7-0南会津町 <input type="checkbox"/> 準決勝(10/18)……田村市1-2福島市  ○ふくしま駅伝(11/16) ▽市陸上競技協会に市代表チーム運営を委託。(団長、スタッフ、選手32名) <input type="checkbox"/> 市の部7位、総合9位  ○いずれの競技も選手選考をはじめ技術的助言、メンタルケア等に至るまで市担当と連携を密にしながら、高い競技水準と成績を保つことができた。	A	○各種大会に向けた、市当局並びに関係者の皆様のご努力に敬意と感謝を申し上げます。  ○関係者の皆さまがたのご支援ご協力があってこそ、各種大会や大きな行事が運営できます。ありがとうございます。  ○野球大会やふくしま駅伝等、ふるさとを背負って立つ選手や関係者の皆様、サポートして下さるスタッフの皆様にご感謝いたします。良い成績を取められて良かったです。	A

令和7年度事業実施結果・評価

(市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
生涯学習の充実	<p><b>⑥ 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します</b></p> <p style="text-align: right;">【基本】</p> <p>(1)スポーツ・レクリエーション大会の推進</p> <p>◇市民参加奨励大会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田村富士ロードレース大会</li> <li>・ビートル駅伝</li> <li>・クロスカントリーコースの利活用</li> </ul>	<p>○田村富士ロードレース大会(10/19)</p> <p>▽参加者670組/770人。パラリンピックメダリスト道下美里選手(三井住友海上)を招待し、各学校、スポーツ団体との連携により例年同様の参加があった。</p> <p>○ビートル駅伝(11/3)</p> <p>▽小学生の部…19</p> <p>▽中学生の部…12</p> <p>▽一般の部…17</p> <p>□計48組が参加、前年を上回った。</p> <p>○たむらクロスカントリー大会(3/15)を参加者251人で開催予定。</p>	A	<p>○田村富士ロードレース大会(10/19)の参加者770人。</p> <p>私も朝7時から大会運営の様子を見学させていただきました。関係者の皆様の活動が素晴らしくこのような縁の下の力持ちの支えがあって運営できていることを改めて感じました。ありがとうございました。</p> <p>○市民参加型のスポーツ大会の運営等ご苦労もあるでしょうが、前年度より参加数が増えたのは、嬉しいです。</p> <p>○田村市のスポーツ・レクリエーション大会は楽しいと思ってもらえるように、大会後に参加者による交流会などがあれば地域の活性化にもつながると思う。</p>	A
	<p>(2)スポーツレクリエーション施設の活用</p> <p>◇運動公園内施設によるスポーツ交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外高校や大学、社会人チームの合宿誘致</li> </ul> <p>・県レベル各種大会の誘致</p>	<p>○市陸上競技場において、全国都道府県対抗駅伝競走大会の男子チームが合宿を行った。(1/25～27)</p> <p>○福島県小学生リレーカーニバル(9/13)のほか、今年度から初めて県中・県南中学生新人陸上競技大会(9/14・15)および福島県中学生新人陸上競技大会(10/4・5)が開催された。老朽化していた競技用ハードルを更新。広い駐車場をアドバンテージに大会招致を積極的に進めていく。</p>	S	<p>○市陸上競技場において、全国都道府県対抗駅伝競走大会の男子チームが合宿を行ったことは素晴らしい。しかも全国一位になった男子チームの合宿場所になったことは誇らしく思います。</p> <p>○全国区のチームが合宿を行ったのは誇らしいことです。</p> <p>○地域活性化、公共施設の有効活用、交流人口の増大、地域の賑わい創出のためにも、積極的に大会を誘致していただければと思います。</p> <p>○福島県小学生リレーカーニバル(9/13)のほか、今年度初めて県中・県南中学生新人陸上競技大会(9/14・15)および福島県中学生新人陸上競技大会(10/4・5)が開催されたとの実績が示された。田村市の陸上競技場が、多く県内外に広く知られ活用されていることは素晴らしい。</p>	S
	<p>(3)指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者対象の研修会や講習会の開催</li> <li>・スポーツ少年団活動への支援</li> </ul>	<p>○スポーツ少年団主催のスタートコーチインストラクター養成講習会等の研修会への参加周知を積極的に実施した。</p> <p>○「田村っ子の元気を支援する事業」を活用し、各団に対する活動助成を実施した。</p>	A	<p>○「田村っ子の元気を支援する事業」活動助成の継続を願います。</p> <p>○スポーツ少年団への活動助成はありがたいことです。</p>	A
生涯学習の充実	<p><b>⑦ 公民館学習講座を開設します</b></p> <p style="text-align: right;">【基本】</p> <p>(1)学習講座の充実</p> <p>◇市民のニーズを捉えた学習講座の企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ニーズアンケート調査の実施と結果分析</li> <li>・5館合同講座の企画</li> </ul>	<p>○受講者のアンケートでの意見と結果を反映し、学習効果の高い講座、教室の開設及び運営を行えるように努める。</p> <p>○中央公民館が開催することで、市全体へ学習の機会を提供することができた。</p>	A	<p>○受講者の意見を反映した事業は必要でありニーズに対応した講座、教室の開設及び運営に協力したい。</p> <p>○合同講座の内容がバラエティに富んでいて、興味を持ちました。</p> <p>○中央公民館が開催することで、市全体へ学習の機会となりました。私も市のバスによる「歴史講座」等に参加させていただきました船引町以外の方々との交流を深めることができました。</p>	A

令和7年度事業実施結果・評価

(市民の笑顔と地域の活気につながる生涯学習の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施策		内部評価		外部評価		
生涯学習の充実	<p><b>⑧ 地域人材・資源を活用した活動を支援します</b></p> <p><b>【基本】</b></p> <p>(1)地域学校協働活動の推進 ◇地域学校協働活動の充実 ・地域学校協働活動運営の充実 ・ボランティアの確保と資質向上</p> <p>(2)放課後子ども教室の推進 ◇放課後子ども教室の円滑な運営 ・実施校の継続 ・コーディネーターの育成 ・安全管理員等の確保 ・事業活動の成果等発信</p>	<p>○各地域とも学校への教育支援活動が行われ、円滑に運営が進められ、地域コミュニティの活性化と地域教育力が向上された。</p> <p>○学校からの要望を元に支援活動を行っているが、ボランティアが確保できている地区と十分ではない地域があり、今後とも地域人材の確保が必要である。</p> <p>○滝根、常葉、船引南、美山の4小学校で運営され、放課後の子どもの居場所を提供したことで、子どもたちだけでなく家庭・地域の安心感が得られた。</p> <p>○県主催の研修会や市の情報交換会を通じて育成及び資質の向上を図る。</p> <p>○今後とも安全管理員等、人材の確保が必要である。(情報発信)</p> <p>○各教室とも年2回お便り等を地域に配布し、活動内容や成果を発信している。</p>	A	<p>○地域で育てていくという活動にボランティアさんは不可欠なので、人材確保は課題です。</p> <p>○滝根、常葉、船引南、美山の4小学校で運営され、放課後の子どもの居場所を提供していることは地域の保護者にとって大変有難いことであると思います。子どもたちだけでなく家庭・地域の安心感が得られています。</p> <p>○放課後の子どもの居場所があるというだけで、安心です。</p>	A	A
	<p><b>⑨ 多様な芸術文化活動を支援し</b></p> <p><b>【基本】</b></p> <p>(1)芸術文化活動の推進 ・芸術文化団体活動への支援</p> <p>(2)文化センターの利用促進 ・市民による身近な芸術文化の提供及び周知</p>	<p>○芸術文化団体への支援を行うことにより、書や絵画、舞踊、音楽、演劇などの芸術文化が盛り上がっている。市民一人一人が文化意識を高め潤いのある豊かな生活を志向することにつながっている。</p> <p>○田村市文化振興発信事業で体験ワークショップによる文化活動への門戸を広げることができた。</p> <p>○自主文化事業として、7月19日「丘みどりコンサート」を開催し約700名が鑑賞した。 ▽8月2日「紺野美沙子朗読会」を開催 ▽8月31日「避難訓練コンサート」を開催 ▽まちそわシネマ(映画上映会)を8回開催した。(3/7含む) ▽2月28日「たむら春待ち落語会」を開催</p> <p>○市政だよりやポスター、SNSのほか新聞などのメディアを活用して周知広報に努めた。</p>	B	<p>○芸術文化団体への支援は市内の文化団体の活動のために必須であります。</p> <p>○個人が学んでいるだけでは広がりも進歩も限られたものとなる。学んだことを発表する場を準備してその成果を共有することが大切である。 市文化祭だけではなく、たとえば毎月第1土曜日に発表会を設けるなどの取り組みを検討してみてもはどうだろうか。</p> <p>○コロナ以降、文化団体の数、団員数が大きく減少しました。復活のためにも大きな支援を今後とのお願い申し上げます。</p> <p>○思いはあっても飛び込む勇気がない時に、体験ワークショップなど行きやすい環境づくりは良かったです。</p> <p>○私も可能な限り文化センター行事に参加させていただき楽しんでます。 自主文化事業の「丘みどりコンサート」 ▽8月2日「紺野美沙子朗読会」 ▽8月31日「避難訓練コンサート」 ▽まちそわシネマ(映画上映会)を8回開催いずれも楽しく鑑賞しました。 ▽2月28日「たむら春待ち落語会」が楽しみ市民の文化向上のために今後ともご努力願います。</p> <p>○市政施行20周年ということで、文化センターの稼働率も高く大いに楽しめました。</p> <p>○地方にあっては民間主催のイベントはあまり期待できないので、行政がこのようなイベントを開催する意義は大きい。今後も魅力ある企画を期待しています。</p>	A	A

令和7年度事業実施結果・評価（快適で安全な教育環境の整備・充実）【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施策	内部評価	外部評価
<p><b>教育環境の充実を図ります</b></p> <p>(1)児童生徒の通学支援</p> <p>◇ スクールバスの効果的運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行環境の整備充実</li> <li>・計画的な更新</li> <li>・安全運転マニュアルの励行</li> </ul> <p>◇ 遠距離・自転車通学支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠距離通学児童生徒への支援</li> <li>・自転車通学生徒への支援</li> </ul> <p>(2)未来を担うたむらの子応援事業の推進</p> <p>◇ 田村っ子の元気を支援する事業【重点6】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学習・体験学習支援</li> <li>・スポーツ少年団活動支援</li> <li>・小中学校部活動支援</li> </ul>	<p>○スクールバスの運行は、学校・市教委・委託業者との入念な打ち合わせのほか、緊急連絡等の連携も図ることができ、円滑に進められた。</p> <p>また、通園・通学のあり方に関する検討委員会を開催し、児童生徒の通園・通学方法や通学支援について提言をいただいた。今後、提言の実現に向けて条例等の制度改正や、スクールバスの適正配置等を検討していく。</p> <p>○スクールバスの安全対策・運行に万全を期して、委託業者と連絡を密に対応してきたため、トラブル等もなく効果的な運用を進められた。</p> <p>○児童生徒の安全な交通手段を確保するため、修繕が必要な場合には、迅速に対応した。</p> <p>○遠距離通学児童生徒を対象に助成金を支給した。また、自転車通学の中学生にはヘルメット購入費の一部補助を行い、保護者の経費負担軽減・重傷化防止に寄与できた。</p> <p>○通園・通学のあり方に関する検討委員会からの提言をもとに、助成金の増額や購入物品の選択自由化等の制度改正を実施した。 (令和8年度から変更)</p> <p>○各学校が計画・実施している総合的な学習及び体験学習に対し補助を行った。総合的な学習及び体験学習は費用を要する内容が多くあり、本事業により大半の経費を賄っている。体験学習は学校を離れて行う学習を補助対象としており、児童生徒が直接現場で体験できるメリットは大きく、学校からも大いに期待されている。</p> <p>○スポーツ少年団活動は、学校外の子どもたちの居場所になっており、心身の成長に大きな役割を担っている。 学校外での充実した活動を進めていくためにも本事業は貢献できている。</p>	<p><b>A</b></p> <p>○スクールバスの運行が、学校・市教委・委託業者との入念な打ち合わせや緊急連絡等の連携が図られ、円滑に進められたことは素晴らしい。</p> <p>また、検討委員会で、児童生徒の通園・通学方法や通学支援について話し合い、スクールバスの適正配置等の検討により安心安全な運行を期待します。</p> <p>スクールバスの運行については、安全運行に尽きるので、関係者の努力によるこれまでの実績は評価できる。また、関係者の意見を適宜聴取しており、今後も、バス整備を含めて安全最優先でお願いしたい。</p> <p>○スクールバスの安全対策・運行に万全を期し、トラブル等もなく効果的な運用がなされ、児童生徒の安全な交通手段を確保のため、修繕が迅速に行われたことも望ましい。</p> <p>○毎日使用するバスの維持、ケアに迅速に対応して頂けたのは、望ましいことです。</p> <p><b>A</b></p> <p>○遠距離通学児童生徒を対象に助成金の支給。また、自転車通学の中学生にはヘルメット購入費の一部補助。保護者の経費負担軽減・重傷化防止に寄与できたことは素晴らしい。</p> <p>○自転車のヘルメットの形が変わりました。引き続き補助を続けていただきたい。</p> <p>○遠距離通学者等への助成金については、さまざまな意見がある。利便性や負担感の公正化も考慮すべきことですが、こちらも安全最優先の観点から施策を実施していただければと思う。</p> <p><b>A</b></p> <p>○総合的な学習及び体験学習は極めて大切な生きる力の育成に必須な学習であります。この学習に対し補助事業により大半の経費を賄っているとのこと。体験学習は、児童生徒が直接現場で体験できる学習であり、今後も支援頂きたい。</p> <p>○ここ近年の物価高は、学校やスポーツ少年団等の活動にも少なからず影響があると思います。それらの経費に対する補助は、大いに助かっていると思います。</p> <p>○財政的に負担になるとは思いますが、多様な体験が子どもの成長を促すことは間違いのないので、創意工夫を重ねて校外学習の機会確保をお願いしたい。</p> <p>○心身の成長が著しいこの時期の子どもたちにとって、スポーツ少年団活動は、子どもたちの安全安心な居場所であり、子どもたちの心身の成長のため継続願いたい。</p>

令和7年度事業実施結果・評価（快適で安全な教育環境の整備・充実）【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+：目標を大幅に上回る成果をあげた S：目標を上回る成果をあげた A：おおむね目標を達成した B：業務に支障はないが、目標は下回った C：目標を大幅に下回った

	施策	内部評価	外部評価	
教育環境の充実	<p>(3)人材育成の推進</p> <p>◇市独自の奨学金制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生、大学生等の修学支援</li> </ul> <p>◇海外留学支援制度（猪狩俊郎人材育成基金活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語圏諸外国への語学留学支援</li> </ul>	<p>○ホームページや広報誌のほか、市内中学校・市内高校生が通う高校にも直接情報提供することで制度の周知は進んでおり、必要とされる生徒へ支援する体制は整備できている。</p> <p>○卒業後に市内居住及び市内事業所等に就職した利用者には、一部免除の措置がとられ、返還時の負担軽減を図っている。</p> <p>△原則返還が必要な制度であるため、活用する人が少ない。</p> <p>○ホームページや広報誌のほか、市内中学校・市内高校生が通う高校にも直接情報提供することで制度の周知は進んでいる。</p> <p>△高校生が留学する場合には現在通学している高校を休学することになり、そのことがデメリットとして受け止められている可能性がある。留学で貴重な体験を得られるというメリットを発信していく必要がある。</p> <p>△令和7年度の申込みはなし。</p>	<p>A</p> <p>○ホームページや広報誌で制度の周知は進んでおり、必要とされる生徒へ支援する体制は整備できているとのこと。今後は、市内居住及び市内事業所等に就職した利用者には、一部免除の措置がとられ、返還時の負担軽減措置があることを周知し気軽に活用できるよう対処願いたい。</p> <p>○周知も進んでおり、体制が整っていることは喜ばしいです。無利子という点も助かります。只、活用する人が少ないのは、それ以外に借りる方の条件がそろわないのでしょうか？</p> <p>○高校生やその保護者の進学相談を受けているが、自治体の奨学金を知っている方は非常に少ない。市のHPや広報誌だけの周知では限界があると思う。子育て世代の集まりやイベント等での積極的な広報が必要だと思う。</p> <p>B</p> <p>○制度の周知は進んでいるが、現在通学している高校を休学することになり、困難な面もあるが、留学で貴重な体験を得られるというメリットを発信して頂きたい。</p> <p>○周知が進んでいる事は良かったです。</p> <p>○留学制度は非常に良い制度だと思います。平成7年度に応募者はいなかったとのことですが、今後の積極的な募集を望みます。</p> <p>○留学時における休学については、日本の学校制度と外国の学校制度の違いに由来するものなので、止むを得ない。このデメリット？を上回るメリットがあることを周知していくしかないと思う。</p>	<p>A</p> <p>B</p>
	<p>② 教職員の健康管理・相談体制を整備します</p> <p>(1) 教職員の心身の健康管理支援</p> <p>◇教職員の健康状態の維持・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健康診断</li> <li>・教職員支援プログラム(EAP)</li> </ul>	<p>○市内教職員向けに健康診断の機会を提供した。</p> <p>○ストレスチェックの実施により市内教職員の心の健康状態を把握し、心配な状況にある場合には、医師の面接等を勧めることができた。</p> <p>○管理職(校長)を対象に「ラインケア」について本市におけるストレスチェックの情報を交え、オンラインでの研修会を実施しEAP支援活用への理解を深めた。</p>	<p>A</p> <p>○市内教職員の心の健康状態を把握し、心配な状況にある場合には、医師の面接等を勧めることができたことは素晴らしい。</p> <p>○教職員の健康なしにはよい教育はできないと考えられるので、手遅れになる前に対応することは大変重要であると思われます。</p> <p>○気付かぬ内にストレスを抱えている事も多々あるので、ストレスチェック制度はバロメーターになるし良いと思います。</p> <p>○教職員の健康管理については、計画的に実施し、適切な対応がなされていけば問題はないと思う。</p>	<p>A</p>

令和7年度事業実施結果・評価（快適で安全な教育環境の整備・充実）【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価
教育環境の充実	(2)学校からの相談支援体制の整備 ◇学校からの相談支援 ・スクールロイヤー助言	○スクールロイヤーの弁護士から学校現場で起きているトラブル等の対処にかかる法的な見解を聞く機会を提供した。  ○利用歴のある学校からは安全・安心な学校運営を進める上で大いに役立ったとの感想を頂戴しており、相談体制について継続していく。	A ○現在の学校は、法的に子どもにも保護者にも対応が苦慮される難しい状況におかれていますと推察されます。このような時期にスクールロイヤーの弁護士から学校現場で起きているトラブル等の対処にかかる法的な見解を聞く機会があることは学校にとって心の支えになると思います。  ○スクールロイヤーの方が居てくれる事が心強いです。  ○スクールロイヤーの制度は、ぜひ継続実施してください。学校現場の安心感につながると思う。
	③ 教育施設の環境整備に努めます (1)学校施設長寿命化対策事業の推進 ◇田村市学校施設長寿命化計画に基づく教育環境の整備 ・校舎及び施設の経年劣化の状況を踏まえた計画的な整備及び修繕	○学校施設の維持管理及び修繕については、係を中心に学校からの要望に基づいてきめ細かく対応にあたっている。業者との連絡等についても問題なく行われた。  ○防犯対策として市内小中学校へ防犯カメラを設置した。	A ○安全な学校施設は教育の前提。その維持管理及び修繕については、今後もきめ細かく迅速に対応にあたって頂きたい。  ○各学校に防犯カメラが設置されたことは大きいです。  ○施設設備の安全管理は、最優先事項であり、財政的裏付けが必要なもので、計画的に確実に実施していただければと思う。
	(2)施設設備の安全管理と通学路の点検 ◇安全な学校生活のための環境整備 ・学校からの報告及び安全点検後の迅速な改善 ・防火管理体制の強化 ・通学路の点検と危険箇所の解消	○安全点検後の学校からの報告については迅速に対応し、改善できた。  ○防火管理体制の充実に向け、各学校の防火診断の結果をもとに消防署の指導も受けながら改善に努めて各校に伝え、教職員の防火意識を高めることができた。  ○通学路の合同点検の結果をもとに、各学校通学路の危険箇所等を情報共有することができた。地域学校協働本部など地域の方々の協力を得て、指導にあたることを学校に助言した。	A ○学校は、前提として安心、安全な場所であると信じられています。その意味で点検後の学校からの報告については迅速に対応し、改善されたことは素晴らしい。  ○通学路の安全点検は、地域住民の協力が欠かせないので、住民からの情報が一元的に集約され関係部署にタイムラグなく共有される仕組みがあればと思う。  ○各学校の防火診断の結果をもとに消防署の指導も受けながら改善に努めて各校に伝え、教職員の防火意識の高揚に努めたことも大変望ましい。  ○通学路点検の危険箇所等を情報共有し、地域の方々の協力を得て、指導にあたることは大切であると考えます。  ○危険箇所等は、実際足で歩いて発見するパターンが多いので、定期的な合同点検は望ましい。

令和7年度事業実施結果・評価（快適で安全な教育環境の整備・充実）【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+：目標を大幅に上回る成果をあげた S：目標を上回る成果をあげた A：おおむね目標を達成した B：業務に支障はないが、目標は下回った C：目標を大幅に下回った

施策	内部評価	外部評価
<p><b>教育環境の充実</b></p> <p><b>④ 教育委員会の活性化を図りま</b></p> <p>(1) 開かれた教育委員会</p> <p>◇ 教育委員会の透明性を高める取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所管事務調査、施設等視察</li> <li>・会議運営の工夫と公表</li> </ul> <p>(2) 教育委員会施策の評価と公表</p> <p>◇ 教育委員会施策の内容を高める取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育振興推進プログラムの首長部局との連携</li> <li>・施策事業の内部評価、外部評価</li> <li>・議会報告と市民への公表</li> </ul> <p>(3) 教育アドバイザーによる実施事業支援</p> <p>◇ 教育大綱に基づく事業実施支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施にかかる助言</li> <li>・教育アドバイザー学校訪問</li> </ul>	<p>○教育委員会の事業実施状況を教育委員に説明するとともに、市内全小・中学校の視察を実施して児童生徒への指導内容のほか、施設設備の状況を確認し、教育環境の改善に向けた意見交換を行った。</p> <p>○教育委員会定例会などでは、資料を事前配付するとともに、一人ひとりの委員と綿密に連絡を取りながら、市の教育課題の共有に努めた。</p> <p>○教育委員会定例会などの記録については、ホームページに公表している。</p> <p>○教育大綱に基づく重点事業については、市の総合計画との関連を重視して設定した。</p> <p>○教育振興推進プログラムに係る各課の事業については、それぞれマネジメントサイクル(PDCA)により計画・実践・評価し、改善に向けて検討を加えてきた。さらに、外部評価委員には、自己評価した内容を伝えた上で評価をいただくよう依頼し、その結果をもとに委員会を開催して、事業効果の点検評価に努めた。</p> <p>○事業効果の点検評価については、議会に報告するとともに、会議内容については、議事録をホームページに掲載して市民に公表した。</p> <p>○総合教育会議や教育委員会定例会、外部評価委員会等の会議に教育アドバイザーが出席し、内部だけでなく外部の意見を聞き取りながら、所管課の事務事業実施に生かせるように連絡調整を図った。</p> <p>○3課の事業実施に市民目線でアドバイスを受け、円滑な実施につながった。</p>	<p><b>A</b></p> <p>○百聞は一見にしかず。教育委員が市内全小・中学校の視察を実施することは大きな意義があったと思います。で児童生徒への指導内容のほか、施設設備の状況を確認し、教育環境の改善に向けた教育委員としての考えを持てたのではないのでしょうか。</p> <p>○市内ばかりではなく市外等への研修や視察、教育委員の方々や情報や課題の共有が綿密にとれているのは素晴らしいです。</p> <p>○教育委員会の会議内容が適切に公開されており評価できる。</p> <p><b>A</b></p> <p>○市の総合計画との関連を重視して、教育振興推進プログラムが策定されていることは一貫性があり望ましい。事業については、マネジメントサイクル(PDCA)により計画・実践・評価し、改善に向けて検討を加えてきた。さらに、外部評価委員には、自己評価した内容を踏まえた上で評価を依頼し、その結果をもとに委員会を開催して、事業効果の点検評価に努めるなど綿密な対応が素晴らしい。</p> <p>○「フクワクが止まらない自然とチャレンジがいきるまち田村市」というのは教育そのものです。これからも関連付けて進めてもらいたいです。</p> <p>○事業効果の点検評価を、議会に報告し、会議内容については、議事録をホームページに掲載して市民に公表するなど開かれた教育委員会が具現されています。</p> <p>○こちらについても適切に情報公開がされており問題ないと考えます。</p> <p><b>A</b></p> <p>○教育アドバイザーが総合教育会議や教育委員会定例会、外部評価委員会等の会議に出席し、聞き取りながら連絡調整を図ったことは、3課の事業実施が、円滑になったと考えられます。</p> <p>○それぞれの部門の懸け橋になるような感じます。</p> <p>○教育アドバイザーの具体的な活動について教授いただきたい。また、その成果についても教えていただければありがたいです。</p>

施策		内部評価	外部評価		
教育環境の充実	<b>⑤ 学校規模・配置の適正化を推進します</b> (1)学校規模・配置の適正化 ◇学校規模・配置適正化の推進 ・教育効果を高めるための学校規模適正化に向けた「田村スタンダード」の設定 ・中長期的な視点からの検討 ・統廃合等に伴う廃校の維持管理	○児童生徒の状況を把握しながら、0歳から就学前までの子どもの数を調べるなど情報収集をした。 ○規模の確保、維持管理コストの削減と老朽化対策、学校を核とした地域再生や跡地利用などの検討を進めている。 ○定期的に維持管理のための点検を行った。 長期的な見通しについては、関係各課との連携を密に、廃校施設の利活用や校舎の解体などの検討を進めている。	A	○0歳から就学前までの子どもの数を調べるなどの情報収集。 学校規模の確保、維持管理コストの削減と老朽化対策、学校を核とした地域再生や特に跡地利用などの検討を進めて頂きたい。 ○維持管理のための点検を行い、特に、廃校施設の利活用などの検討を進めて頂きたい。 ○「子ども議会」でも度々議題に上がる廃校の利活用。色々アイデアは出るけれど、解体の選択肢も有り得ると思います。 ○この分野は財政的な裏付けが必要なので、なかなか言及しにくいものがある。ただし、施設の維持管理については子どもたちの安全最優先で適切に実施すべき。廃校舎の利活用は、他県他自治体での成功事例が少なからずあるのでそれらを参考に適切に判断していただければと思う。	A
	(2)地域に根差した特色ある学校支援 ◇小規模特認校制度導入 ・都路小・中学校指定	○小規模特認校ならではのきめ細かな教育を希望する児童・生徒のために、地域に根差した特色ある学校として、都路小学校・都路中学校を特認校に指定した。 ○市内のどこからでも通える、少人数教育に特化した学校としての取組みを周知するなど、学校運営協議会などの関係機関とともに協力した。	A	○田村市は小規模校が多く、今後もこのことが課題になると思います。小規模特認校ならではのきめ細かな教育ができるよう特認校に指定したことは意義があると思います。 ○都路小学校、都路中学校に導入された特認校の制度に賛同します。 ○市内のどこからでも通えるなど柔軟な運営を期待いたします。	A

## IV 結びに

## 結 び に

近年の感染症拡大に伴う制約は徐々に和らぎ、日常や学校活動は着実に戻りつつあります。あのときに改めて意識した健康管理の大切さや、児童生徒一人一台のタブレット導入を契機に進んだICT化は、今も学校や地域の活動に息づいています。こうした変化は一時的に不便を招いた面もありましたが、その後の教育の質向上や学びの多様化といった前向きな成果も生んでおり、市民の皆様と共にその意義を確認してまいりたいと考えております。

令和7年度は、4月から活動制限のない環境での実践が始まり、これまで育んできた取り組みの効果をより実感できる一年となりました。児童生徒の学力向上と個別最適な学びを目指す「東大10人構想」に基づき、教職員の指導力向上や授業改善支援、研修の充実を図るとともに、イングリッシュキャンプや田村チャレンジ塾、T2 (Tamura Tankyu) プロジェクト等、多様な学びの場を提供しました。これらの取り組みにより、児童生徒の主体的な学びや教員の実践力の向上が見られるなど、着実な前進があったと受け止めております。

文化・スポーツ・生涯学習の分野では、中央公民館の新設や市民大学「たまり」のさらなる充実により、地域の学びと交流の場を広げることができました。多くの市民の皆様から励ましのお言葉をいただく一方、より充実を求めのご意見も頂戴しており、それらは今後の取組を磨く大切な示唆です。いただいたご期待とご批判を真摯に受け止め、改善と工夫を重ねてまいります。

本報告書は、内部評価を経て外部評価の視点も取り入れた点検評価報告書です。外部評価委員としてご尽力くださった三輪幹治様、佐藤よしえ様、安瀬一夫様には、現場での観察に基づく建設的なご助言を多数いただきましたことに心より感謝申し上げます。また、日頃から市民の皆様より寄せられるご意見も、施策改善にとってかけがえのない大切な情報です。今後も皆様からの声に耳を傾けながら、教育委員会の事業と施策のさらなる充実に努めてまいります。

結びに、本報告書が市民の皆様にご覧いただき教育委員会の取り組みを知っていただく一助となれば幸いです。率直なご意見・ご感想をお寄せいただければ、今後の改善に活かしてまいります。これからも市民の皆様と共に、地域の教育力の向上と郷土の発展に取り組んでまいりますので、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

教育委員会の事務に関する点検評価報告書 — 令和7年度 —

令和8年(2026)年3月 作成

発行 田村市教育委員会 教育部教育総務課

〒963-4313

福島県田村市船引町船引字畑添96番地2

電話 0247-81-1213

FAX 0247-81-1228

ホームページ <https://www.city.tamura.lg.jp>

e-mail [kyoiku@city.tamura.lg.jp](mailto:kyoiku@city.tamura.lg.jp)

